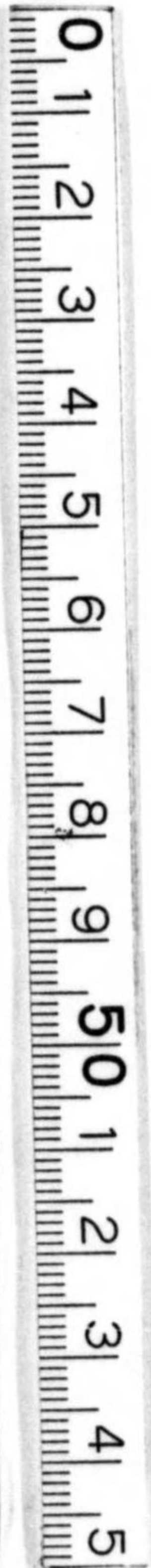


61-497



1200501274778

61  
27



始



61  
497

昭和十二年九月

# 宮城縣衛生狀態概要

宮城縣衛生課

61  
497



昭和十二年九月

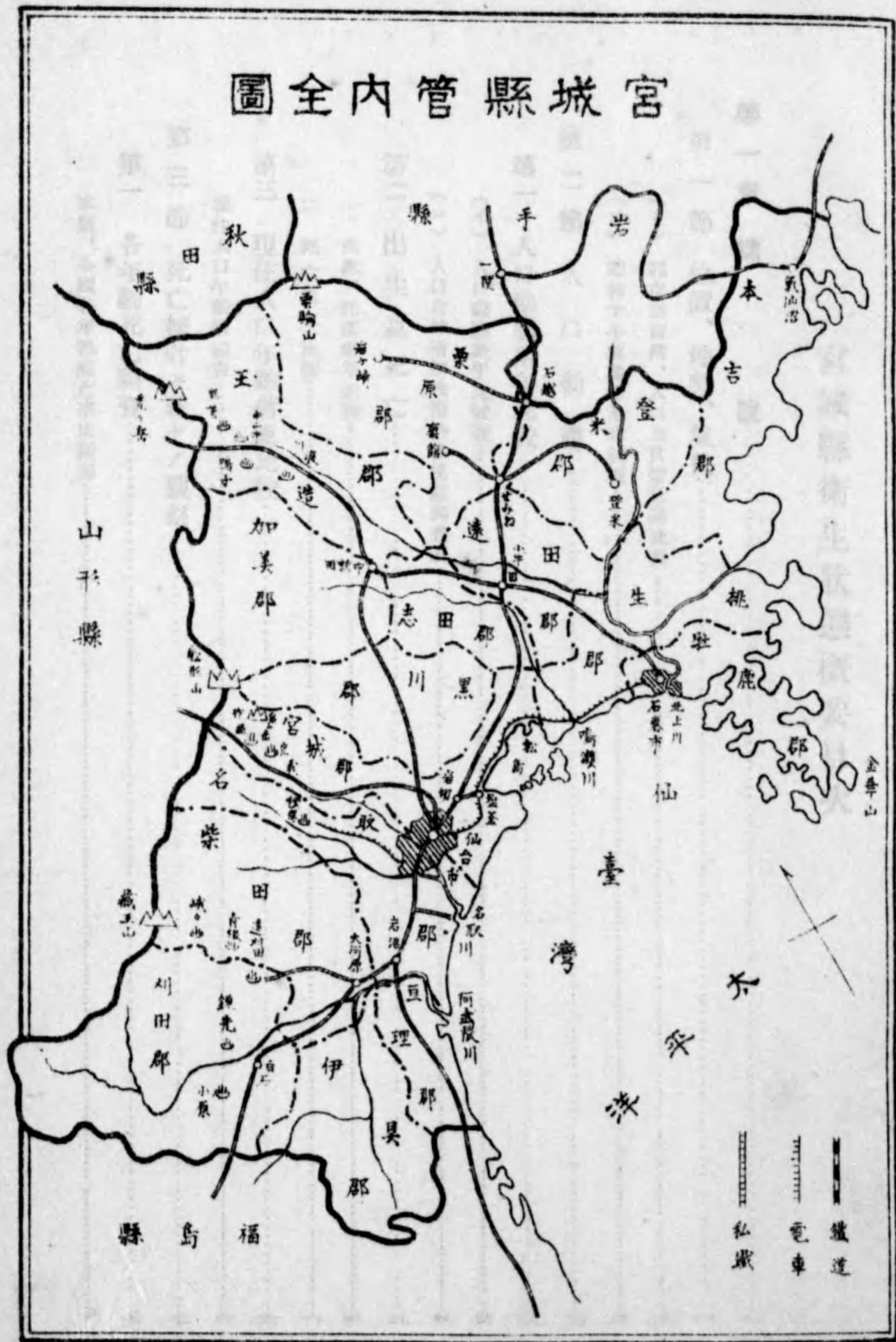
緒言

本概要は昭和十年七月刊行セル本縣衛生狀態概要ヲ追補修正シ其ノ就統計的説明ヲ試ミ本縣衛生狀態ノ現状ヲ闡明セ

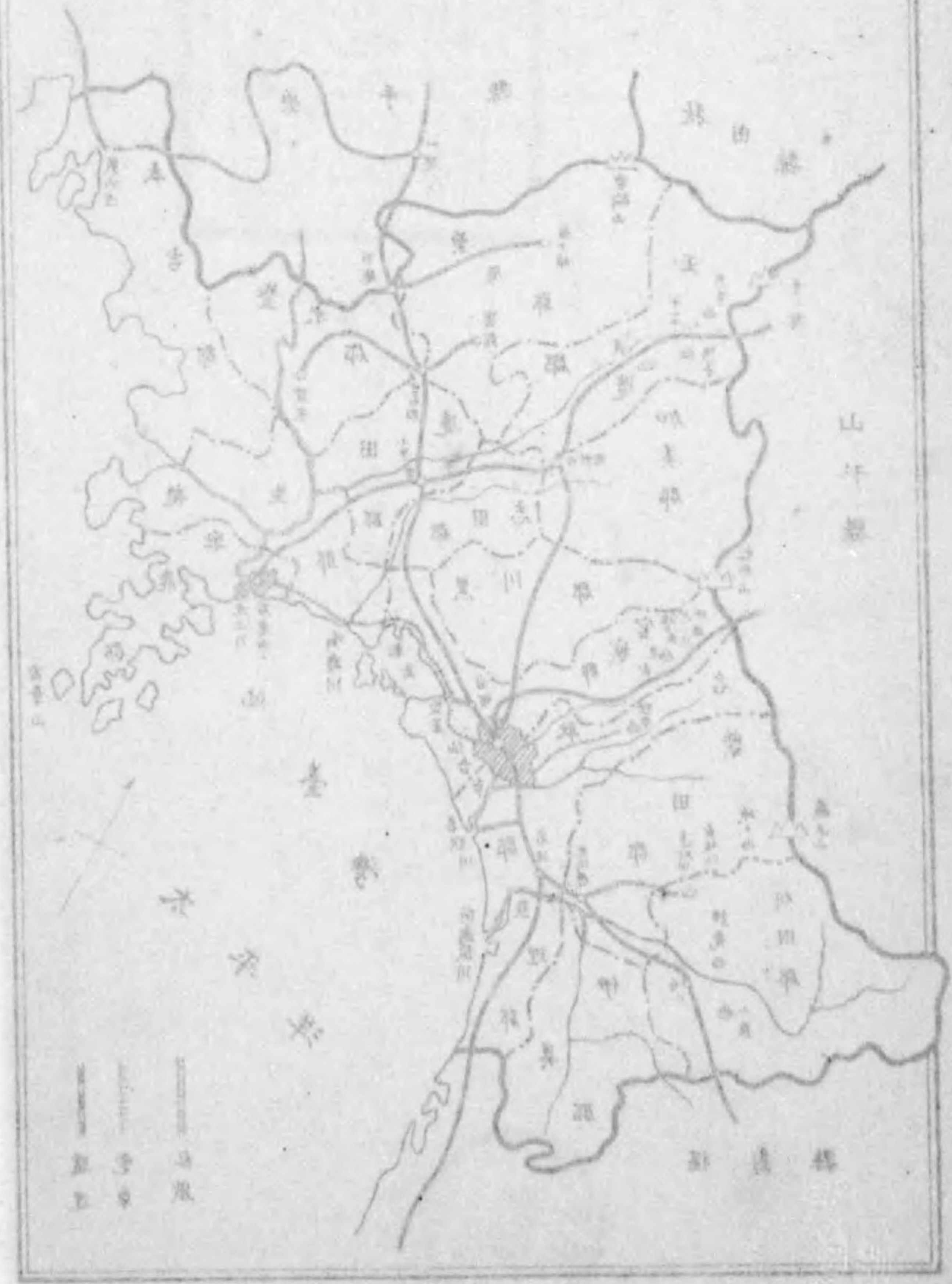
宮城縣衛生課



宮城縣管內全圖



宮城縣管内全圖



宮城縣衛生狀態概要目次

第一章 總 說.....一

第一節 位置、地勢、氣候.....一

(イ) 郡市別面積、人口及世帯數調査表.....一

(ロ) 昭和十年氣象各地比較表.....二

第二節 人口動態.....三

第一 人口動態累年比較.....三

(イ) 人口動態累年比較表.....三

(ロ) 人口自然増加及海外移民數調査表.....五

第二 出生並死亡.....五

一 生産、死産累年比較.....五

二 死亡累年比較.....六

第三 現住人口年齢構成比較.....六

現住人口年齢構成表.....六

第三節 死亡統計ニ就テノ觀察.....七

第一 各年齢死亡調査.....七

本縣、全國各年齢死亡率比較表.....七

第二 乳幼児死亡調査

- 一 乳幼児死亡状況.....八
- 本縣乳幼児死亡調査表.....九
- 乳幼児死亡原因別.....九
- 本縣、全國乳幼児死亡比較表.....一〇
- 三 死亡高率疾病調査.....一一
- 本縣、全國死亡比較表.....一一

第四節 徴兵検査成績

第一 壯丁體格累年比較

最近十ヶ年壯丁體格累年比較表.....一三

第二 壯丁合格狀況

自昭和十二年十ヶ年間各種壯丁検査成績表.....一三

自昭和十一年十ヶ年間各種壯丁検査成績表.....一四

第三 壯丁ト疾病

一 概況.....一五

(イ) 壯丁體格等位ニ影響ヲ及ボシタル疾病調査表.....一六

(ロ) 丙種主要疾病表.....一八

(ハ) 丁種主要疾病表.....二〇

ニ 壯丁「トラホーム」.....二〇

(イ) 最近五ヶ年間壯丁「トラホーム」百分比全國對比表.....二二

(ロ) 郡市別壯丁「トラホーム」患者ト豫備檢診比較表.....二二

三 壯丁花柳病.....二三

郡市別壯丁花柳病患者表.....二三

第二章 保健衛生

第一節 飲料水

一 飲料井戸.....二五

縣下飲料井水検査成績表.....二五

二 上水道.....二六

(イ) 上水道布設地調査表.....二七

(ロ) 縣下上水道水質検査成績表.....二八

第二節 飲食物其ノ他ノ物品

一 清涼飲料水營業者並製造品種別營業者調.....三〇

二 清涼飲料水製造總量調.....三〇

三 飲食物其ノ他ノ物品検査成績.....三一

四 鉛ヲ檢出スル飲食物用器具類調.....三一

五 人工甘味質ヲ檢出スル飲食物類調.....三二

六 氷雪採取製造營業者數及採取製造量調.....三三

第三節 屠畜及乳肉

第一 屠場及屠畜ノ狀況

- (イ) 現在屠場表.....
- (ロ) 屠畜數累年比較表.....
- (ハ) 昭和十一年屠場別屠畜數表.....
- (ニ) 同 自家用屠殺數表.....

第二 畜牛結核病豫防ノ狀況

- (イ) 畜牛結核病検査累年比較表.....
- (ロ) 昭和十一年度畜牛結核病検査成績表.....

第三 牛乳

- (イ) 牛乳營業者數表.....
- (ロ) 最近十ヶ年牛乳表.....
- (ハ) 牛乳處理場改造狀況.....

第四節 牡蠣ノ取締並改善

牡蠣剝身處理場及從業員數表.....

第五節 便所ノ改良

第一 水槽便所ノ設置狀況

市町村別水槽便所設置數表.....

第二 改良便所ノ築造狀況

郡市別改良便所築造數表.....

第六節 榮養改善

第一 榮養知識ノ普及

第二 榮養狀態ノ調査

第三 實地指導

第七節 衛生思想ノ普及

最近十ヶ年展覽會、講習、講演、活動寫眞會等開催調査表.....

第八節 溫泉

- (イ) 縣下鑛泉々質分類表.....
- (ロ) 溫泉浴客數調査表.....
- (ハ) 縣下主要溫泉一覽表.....

第九節 海水浴場並山嶽

- (イ) 海水浴場調査表.....
- (ロ) 山嶽調査表.....

第三章 豫防衛生

第一節 結核

第一 概説

最近五ヶ年間本縣對全國結核死亡比較表.....

第二 結核死亡累年比較

最近二十ヶ年間結核死亡累年表..... 六

第三 年齡別結核死亡..... 五九

    最近二ヶ年結核年階級別死亡表..... 六〇

第四 市部及郡部ノ結核死亡..... 六〇

    仙臺市ト其ノ他ノ市町村結核死亡比較表..... 六〇

第五 結核患者收容機關..... 六三

    (イ) 結核患者收容機關調査表..... 六三

    (ロ) 結核病院收容患者表..... 六三

第六 接客業者健康診断成績..... 六三

    結核豫防法ニ基ク健康診断施行成績表..... 六三

第七 日本放送協會納付金ニ依ル結核豫防施設..... 六四

    一 救    療..... 六四

    二 健康 相 談..... 六四

        (イ) 縣立健康相談所取扱結核患者表..... 六五

        (ロ) 同    受診者病類別表..... 六五

        (ハ) 同    事業成績表..... 六五

        (ニ) 三公立病院内健康相談取扱肺結核患者表..... 六六

第二節 「トラホーム」並盲人調査..... 六八

    第一 「トラホーム」..... 六八

        (イ) 接客業者「トラホーム」檢診成績表..... 六八

        (ロ) 接客業者「トラホーム」郡市別表..... 七〇

        (ハ) 工場従業者「トラホーム」檢診成績表..... 七三

        (ニ) 一般住民「トラホーム」檢診成績表..... 七四

        (ホ) 壯丁「トラホーム」豫備檢診成績表..... 七六

        (ヘ) 同    郡市別表..... 七七

        (ト) 市町村「トラホーム」治療所開設状況表..... 七八

        (チ) 「トラホーム」治療成績表..... 七九

第二節 盲 人 調 査..... 八〇

    (イ) 盲人失明年階別表..... 八〇

    (ロ) 盲人失明原因別表..... 八二

第三節 花    柳    病..... 八三

    第一 娼    妓..... 八三

        (イ) 遊廓並娼妓表..... 八三

        (ロ) 娼妓健康診断累年表..... 八三

        (ハ) 娼妓健康診断病種別表..... 八四

        (ニ) 縣立小田原病院入院患者調査表..... 八五

第二 保健組合ノ狀況..... 八五

    一 保健組合調査表..... 八六

    二 保健組合健康診断成績..... 八八



保健組合健康診断成績表..... 八

第三 接客業婦「ワッセルマン」氏反應檢査成績..... 九〇

(イ) 警察署別「ワッセルマン」氏反應檢査成績表..... 九〇

(ロ) 同上 第二回檢査成績表..... 九一

(ハ) 業態別「ワッセルマン」氏反應檢査成績表..... 九二

第四 代用花柳病診療所ノ狀況..... 九三

代用花柳病診療所表..... 九三

第四節 癩..... 九三

癩患者現在表..... 九三

第五節 精神病..... 九四

(イ) 精神病患者累年比較表..... 九四

(ロ) 精神病院並收容患者調査表..... 九五

第六節 寄生虫病並地方病..... 九六

第一 寄生虫病..... 九六

一 寄生虫檢査成績..... 九六

(イ) 寄生虫檢査成績年別表..... 九七

(ロ) 同 郡市別表..... 九八

二 寄生虫驅除..... 九八

寄生虫驅除服藥人員表..... 九八

第二 地方病..... 一〇三

一 肝臟「ヂストマ」..... 一〇三

二 「ワイル」氏病..... 一〇四

最近四ヶ年間「ワイル」氏病患者郡市別表..... 一〇四

第四章 防疫衛生..... 一〇七

第一節 法定傳染病發生狀況..... 一〇七

第一 概況..... 一〇七

一 既往五十七ヶ年間ニ於ケル概況..... 一〇九

明治十三年以降法定傳染病患者累年調査表..... 一〇九

二 最近十ヶ年間ノ狀況..... 一一一

(イ) 最近十ヶ年間法定傳染病患者表..... 一一一

(ロ) 同 平均法定傳染病患者市郡別表..... 一一三

(ハ) 同 平均法定傳染病患者發生月別表..... 一一五

第二 腸「チフス」..... 一二六

一 腸「チフス」患者累年比較..... 一二六

(イ) 最近十ヶ年間全國對腸「チフス」發生率並死亡率比較表..... 一二七

(ロ) 最近十ヶ年間全國對腸「チフス」患者發生率比較圖表..... 一二八

二 腸「チフス」患者郡市別..... 一二九

最近十ヶ年間腸「チフス」患者郡市別表..... 一二九

- 三 腸「チフス」患者發生月別……………110
- 最近十ヶ年間腸「チフス」患者發生月別表……………111
- 四 腸「チフス」患者年齢別……………111
- 最近十ヶ年間腸「チフス」患者年齢別表……………111
- 五 腸「チフス」患者職業別……………112
- 最近十ヶ年間腸「チフス」患者職業別表……………112
- 六 腸「チフス」患者感染経路……………113
- 最近十ヶ年間腸「チフス」患者感染経路調査表……………113
- 七 腸「チフス」患者發見別……………113
- 最近十ヶ年間腸「チフス」患者發見別調査表……………113
- 八 腸「チフス」患者發病——初診期間……………114
- 最近八ヶ年間腸「チフス」患者發病——初診期間別調査表……………114
- 九 腸「チフス」患者初診——診定期間……………114
- 最近八ヶ年間腸「チフス」患者初診——診定期間別調査表……………114
- 十 腸「チフス」患者發病——診定期間……………115
- 最近十ヶ年間腸「チフス」患者發病——診定期間別調査表……………115
- 十一 腸「チフス」患者發病——治癒期間……………115
- 最近十ヶ年間腸「チフス」患者發病——治癒期間別調査表……………115
- 十二 腸「チフス」患者發病——死亡期間……………115
- 最近十ヶ年間腸「チフス」患者發病——死亡期間別調査表……………115

第三 「チフテリア」

- 一 「チフテリア」患者發生概況……………116
- 最近十ヶ年間全國對「チフテリア」患者發生率比較圖表……………116
- 二 「チフテリア」患者郡市別……………116
- 最近十ヶ年間「チフテリア」患者郡市別表……………116
- 三 「チフテリア」患者發生月別……………116
- 最近十ヶ年間「チフテリア」患者發生月別表……………116
- 四 「チフテリア」患者性別年齢別……………117
- 最近十ヶ年間「チフテリア」患者性別年齢並性別表……………117
- 五 「チフテリア」患者發病——死亡期間……………117
- 最近十ヶ年間「チフテリア」患者發病——死亡期間別調査表……………117

第四 赤痢(含疫痢)、「バラチフス」、猩紅熱、流行性腦脊髄膜炎、發疹「チフス」、痘瘡

- 一 赤痢(疫痢ヲ含ム)……………120
- 二 「バラチフス」……………121
- 三 猩 紅 熱……………121
- 四 流行性腦脊髄膜炎……………122
- 五 發疹「チフス」及痘瘡……………122
- (イ) 最近十ヶ年間 赤痢、「バラチフス」、猩紅熱、流行性腦脊髄膜炎、發疹「チフス」、痘瘡患者郡市別表……………123
- (ロ) 同 患者發生月別表……………124

第五 病原體保有者

一 保菌者發見狀況.....一五四

(イ) 最近十ヶ年間病原體保有者發見數表.....一五五

(ロ) 同 病原體保有者發見割合表.....一五六

(ハ) 同 病原體保有者發見檢査材料別表.....一五六

(ニ) 病原體保有者發見數郡市別表 其ノ一腸「チフス」.....一五七

(ホ) 同 其ノ二「バラチフス」及赤痢.....一五八

二 現在保菌者ニ關スル調.....一六〇

(イ) 病原體保有者現在表(昭和十一年末現在).....一六〇

(ロ) 昭和十一年末現在病原體保有者排菌期間別表.....一六一

第二節 防疫施設

第一 概説

第二 腸「チフス」豫防指定市町村ノ指定.....一六三

腸「チフス」豫防指定市町村數調.....一六四

第三 傳染病豫防委員設置指定並衛生組合.....一六五

第四 防疫思想ノ普及啓發.....一六六

第五 腸「チフス」豫防注射及内服.....一六六

一 豫防注射及内服施行成績.....一六六

二 豫防注射並内服後ノ罹患率.....一六七

第六 「チフテリア」豫防注射

(イ) 最近十ヶ年間腸「チフス」豫防注射並豫防錠内服成績表.....一六七

(ロ) 昭和十一年腸「チフス」ワクチン交附數量及豫防注射人員各署別表.....一六九

「チフテリア」シツクテスト及豫防注射成績.....一七〇

一 「チフテリア」シツクテスト.....一七〇

二 シツクテスト陽性率性別年齢別.....一七一

「チフテリア」シツクテスト陽性率性別年齢別比較表.....一七四

第七 種痘

最近五ヶ年間定期種痘成績表.....一七八

第八 細菌檢査ノ狀況

一 最近十ヶ年間細菌檢査件數.....一八〇

最近十ヶ年間細菌檢査件數表.....一八〇

二 細菌檢査所別.....一八一

細菌檢査所別檢査件數表.....一八一

三 細菌檢査月別.....一八二

細菌檢査件數月別表.....一八二

四 細菌檢査目的別.....一八三

細菌檢査目的別檢査件數表.....一八三

五 細菌檢査材料別.....一八四

細菌檢査材料別檢査件數表.....一八四

六 細菌検査成績細別	一八五
細菌検査成績細別表	一八六
『附』細菌検査所ニ於ケル「ワクチン」其ノ他ノ製造	一八九
最近五ヶ年間「ワクチン」其ノ他製造量調	一九〇
第九 早期發見——檢病調査	一九〇
第十 早期診斷(細菌學的診斷)	一九〇
第十一 病原體保有者ノ檢索	一九一
第十二 病原體保有者ノ取締	一九一
第十三 便所ノ改良及下水道	一九一
第十四 上水道及井戸改善	一九一
賜「チフス」豫防指定市町村飲料井戸構造調査表	一九三
第十五 清潔方法及蠅族驅除	一九三
第十六 媒介飲食物ノ取締	一九三
第三節 狂犬病豫防	一九三
狂犬病豫防週間及野犬整理實施成績表	一九四
第五章 醫務衛生	一九五
第一節 醫療並療屬機關	一九五
第一 醫師、齒科醫師及診療所分布狀況	一九五

(イ) 郡市別醫師分布表	一九五
(ロ) 同 診療所分布表	一九六
(ハ) 縣下病院一覽表	一九六
(ニ) 無醫村調査表	一九六
(ホ) 郡市別齒科醫師分布表	一九六
(ヘ) 同 齒科診療所分布表	一九六
第二 藥劑師分布狀況	一九六
郡市別藥劑師分布表	一九六
第三 産婆分布狀況	一九七
郡市別産婆分布表	一九七
第四 看護婦分布狀況	一九八
郡市別看護婦分布表	一九八
第五 鍼術、灸術、按摩術營業者分布狀況	一九〇
郡市別同上分布表	一九〇
第六 醫業類似行爲業者分布狀況	二〇一
郡市別同上分布表	二〇一
第七 各種檢定試験成績	二〇三
(イ) 産婆試験成績表	二〇三
(ロ) 看護婦試験成績表	二〇四

(ハ) 鍼術、灸術試験成績表……………三三四

(ニ) 按摩マツサージ術試験成績表……………三三五

(ホ) 藥種商試驗成績表……………三三六

(ヘ) 理容術試驗成績表……………三三六

【附】ノ一 縣立診療院ノ狀況……………三三六

(イ) 縣立診療院狀況表……………三三六

(ロ) 同 救療患者調査表……………三三六

(ハ) 同 分娩取扱狀況調査表……………三三八

【附】ノ二 無醫村ニ對スル醫療機關ノ普及施設……………三三九

【附】ノ三 醫療救護實施狀況(昭和十一年度)……………三三〇

一 縣ノ救療狀況……………三三〇

(イ) 救療費國庫交附金額調査表……………三三〇

(ロ) 醫療救護成績表……………三三〇

二 恩賜濟生會診療狀況……………三三一

(イ) 委託救療費配當額調査表……………三三一

(ロ) 救療成績表……………三三一

第二節 藥 事……………三三三

第一 藥品營業者……………三三三

(イ) 藥品營業者累年比較表……………三三三

(ロ) 郡市別藥品營業者數表……………三三四

第二 製 藥 業 者……………三三四

(イ) 製藥業者累年比較表……………三三四

(ロ) 藥品製造數量調査表……………三三五

第三 藥 局……………三三六

第四 藥品巡視成績……………三三六

昭和十一年藥品巡視成績表……………三三六

第五 縣下藥用植物收穫狀況……………三三七

同 上收穫量調査表……………三三七

第六 毒物、劇物營業者……………三三八

同 上調査表……………三三八

第七 阿片取扱並販賣狀況……………三三九

第八 麻藥取扱並販賣狀況……………三三九

(イ) 麻藥ニ屬スル製劑及賣藥調査表……………三三九

(ロ) 麻藥ヲ原料トシテ麻藥ニ非ザル物調査……………三三〇

(ハ) 麻藥中毒患者調査表……………三三〇

(ニ) 中毒麻藥種類別調査表……………三三一

第九 賣藥ニ關スル狀況……………三三一

(イ) 賣藥營業者數表……………三三一

# 第一章 總 說

(口) 賣藥免許方數累年比較表.....1111

(ハ) 賣藥檢査成績表.....1111

(ニ) 賣藥檢査成績表.....1111

(ホ) 賣藥檢査成績表.....1111

(ヘ) 賣藥檢査成績表.....1111

(ニ) 賣藥檢査成績表.....1111

(ハ) 賣藥檢査成績表.....1111

(ニ) 賣藥檢査成績表.....1111

(ハ) 賣藥檢査成績表.....1111

(ニ) 賣藥檢査成績表.....1111

(ハ) 賣藥檢査成績表.....1111

(ニ) 賣藥檢査成績表.....1111

(ハ) 賣藥檢査成績表.....1111

(ニ) 賣藥檢査成績表.....1111

(ハ) 賣藥檢査成績表.....1111

(ニ) 賣藥檢査成績表.....1111

(ハ) 賣藥檢査成績表.....1111

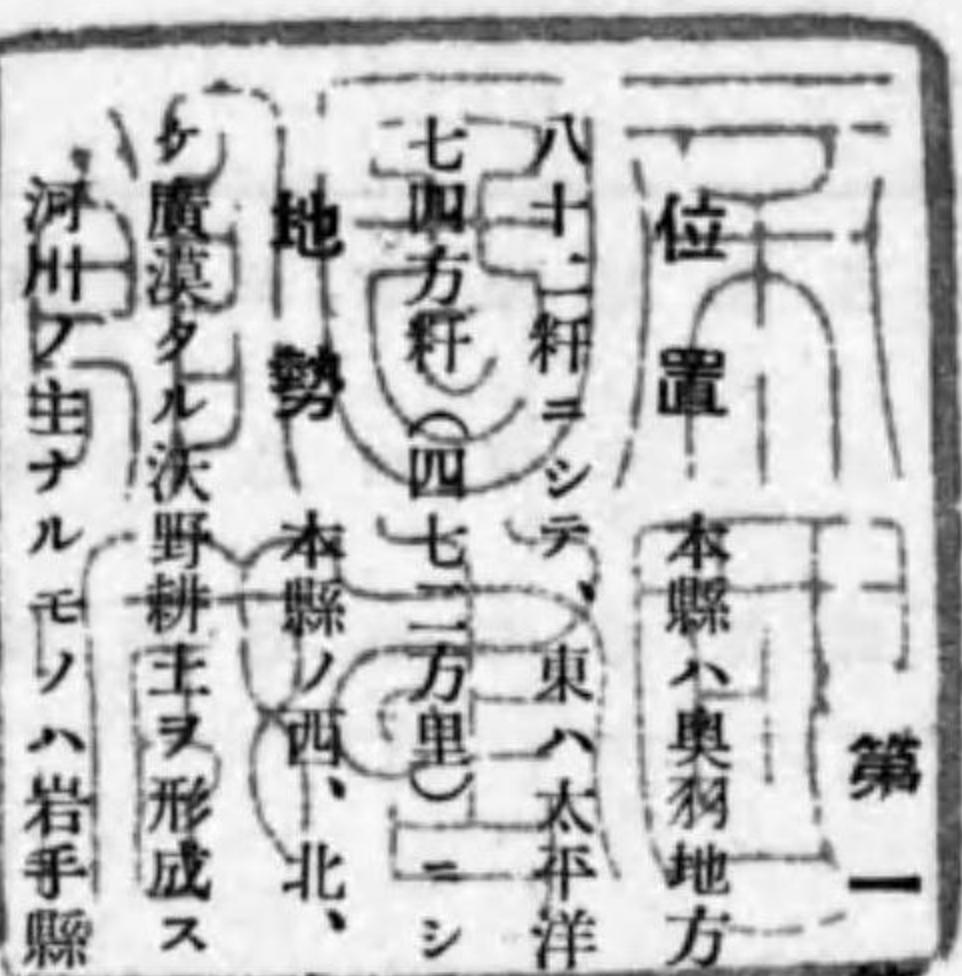
(ニ) 賣藥檢査成績表.....1111

(ハ) 賣藥檢査成績表.....1111

# 宮城縣衛生狀態概要

## 第一章 總說

### 第一節 位置、地勢、氣候



**位置** 本縣ハ奥羽地方ノ中央部ニシテ陸前國ノ大部ト磐城國ノ一部ヨリ成リ南北凡ソ百三十軒、東西凡ソ四十七軒乃至八十二軒ヲシテ、東ハ太平洋ニ面シ西ハ奥羽山脈ヲ界トシ秋田、山形ノ二縣ニ接シ南ハ福島縣北ハ岩手縣ニ界ス。面積七、二七四方軒(四七二方里)ニシテ我が國三府四十三縣中第十五位ナリ。

**地勢** 本縣ノ西、北、南ノ三方ハ山嶽多クシテ藏王山、船形山、荒雄山、栗駒山等ノ高峰聳ユルモ中央部ヨリ東部ニカク廣濶タル沃野耕王ヲ形成ス。河川ハ主ナルモノハ岩手縣ヨリ南流シ仙臺灣ニ注グ北上川及福島縣ヨリ北流シ來リ縣南ノ海ニ注グ阿武隈川アリ。

**氣候** 本縣ハ西、南、北ノ三面ニ山脈ヲ負ヒ東ハ太平洋ニ臨ミ黑潮ノ暖流其沿岸ヲ洗ヒ居ル爲比較的氣候溫和ナルモ地勢ノ關係上溫暖ナル季節ノ來ルコト遅クシテ寒冷ナル季節ノ來ルコト早ク概シテ東京地方ニ比シ寒氣強シ。

### (イ) 郡市別面積人口及世帶數調査表

(昭和十年國勢調査)

方面	面積 方里	人口		世帶數
		男	女	
仙臺市	六・〇四	一一〇,四六六	一〇九,〇八一	三九,八八三
石巻市	三三・八六	一七九,一九一	一六三,三九九	五七,七六六
合計	一・〇一	二九〇,六五七	二七二,四六〇	九七,六四九

郡名	年平均氣温(度)				年平均湿度(%)				年平均降水量(兆)				
	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	
刈田郡	701.80	82.2	110.3	135.5	76	70	85	78	36.5	33	56	141	84.6
榮田郡	426.09	82.2	110.3	135.5	76	70	85	78	36.5	33	56	141	84.6
伊具郡	422.83	82.2	110.3	135.5	76	70	85	78	36.5	33	56	141	84.6
亙理郡	138.66	82.2	110.3	135.5	76	70	85	78	36.5	33	56	141	84.6
名取郡	397.99	82.2	110.3	135.5	76	70	85	78	36.5	33	56	141	84.6
宮城郡	607.10	82.2	110.3	135.5	76	70	85	78	36.5	33	56	141	84.6
黒川郡	417.14	82.2	110.3	135.5	76	70	85	78	36.5	33	56	141	84.6
加美郡	572.19	82.2	110.3	135.5	76	70	85	78	36.5	33	56	141	84.6
志田郡	186.56	82.2	110.3	135.5	76	70	85	78	36.5	33	56	141	84.6
玉造郡	478.99	82.2	110.3	135.5	76	70	85	78	36.5	33	56	141	84.6
遠田郡	332.26	82.2	110.3	135.5	76	70	85	78	36.5	33	56	141	84.6
栗原郡	860.34	82.2	110.3	135.5	76	70	85	78	36.5	33	56	141	84.6
登米郡	467.38	82.2	110.3	135.5	76	70	85	78	36.5	33	56	141	84.6
桃生郡	414.00	82.2	110.3	135.5	76	70	85	78	36.5	33	56	141	84.6
牡鹿郡	211.09	82.2	110.3	135.5	76	70	85	78	36.5	33	56	141	84.6
本吉郡	599.23	82.2	110.3	135.5	76	70	85	78	36.5	33	56	141	84.6
計	712,382.34	82.2	110.3	135.5	76	70	85	78	36.5	33	56	141	84.6

(ロ) 昭和十年氣象各地比較表

郡名	年平均氣温(度)				年平均湿度(%)				年平均降水量(兆)				
	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	
本仙臺	10.8	8.2	10.3	13.5	76	70	85	78	36.5	33	56	141	84.6
縣石卷	10.6	8.2	10.3	13.5	76	70	85	78	36.5	33	56	141	84.6
札幌	7.5	5.2	7.3	10.5	79	74	88	83	38.8	37	71	115	135
東京	14.1	11.1	13.6	16.2	73	66	84	83	33.0	37	82	115	135
名古屋	14.2	11.1	13.6	16.2	73	66	84	83	33.0	37	82	115	135
長崎	16.0	13.5	16.0	18.0	73	69	80	73	36.4	35	54	136	136

第二節 人口動態

第一、人口動態累年比較

最近十ヶ年間(自大正十五年至昭和十年)ニ於ケル本縣人口動態ハ別表ノ如ク大正十五年及昭和十年ノ人口ヲ比較スルニ七萬三千人餘ノ増加ナリ。各年ニツキ之ヲ見ルニ年次ニヨリテ多少ノ増減アルモ一ヶ年平均二萬四千有餘人宛ノ増加ヲ示シ過去十ヶ年間ニ於テ一割六分強ノ増加ナリ。全國ノ一割四分強増加ニ比シ稍々高率ナリ。

(イ) 人口動態累年比較表 (自四十六回帝國統計年鑑 至五十五回)

年次	區分	人口	出生		死亡		人口千對	
			生	産	死	産		
大正十五年	本縣	1,001,100	43,137	40,784	2,488	5.7	110,757	19,618
昭和元年	全國	6,002,112,000	210,400,000	190,000,000	20,400,000	5.8	11,607,700	1,961,800



昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年
本縣	全國 本縣	全國 本縣	全國 本縣	全國 本縣	全國 本縣	全國 本縣	全國 本縣
1,111,100	67,238,600 1,101,100	66,296,000 1,181,500	65,366,500 1,162,000	64,450,000 1,142,780	63,538,100 1,133,800	62,626,000 1,096,000	61,714,000 1,078,500
4,813	2,112,233 43,103	2,182,722 46,126	2,102,784 43,361	2,085,101 43,118	2,077,036 43,278	2,135,853 43,195	2,060,737 42,848
36,700	31,555 35,888	31,922 35,004	31,177 37,333	31,335 37,733	31,000 38,866	31,038 39,441	31,661 39,733
2,164	114,388 2,144	119,579 2,194	116,009 2,141	117,730 2,127	116,971 2,169	110,191 2,386	116,923 2,397
5.2	5.3 4.9	5.4 5.1	5.5 5.1	5.6 5.1	5.6 5.2	5.6 5.3	5.6 5.3
1,078,818	1,193,987 1,091,111	1,175,544 1,080,033	1,140,891 1,068,118	1,170,867 1,110,104	1,161,138 1,169,951	1,136,711 1,109,111	1,114,333 1,111,111
19.01	17.76 17.41	17.73 17.27	18.98 17.57	18.17 18.47	19.04 19.48	19.91 19.90	19.80 19.70

昭和十年	十ヶ年平均
全國 本縣	全國 本縣
68,194,900	64,769,875
2,803,783	2,110,439
29,977	37,588
113,043	117,471
5.5	5.5
1,134,644	1,103,031
18.11	18.61

(口) 人口自然増加及海外移民數調査表

年次	人口自然増加	海外移民	年次	人口自然増加	海外移民	備考
大正十五年	28,234	133	昭和七年	25,723	517	昭和十年中ノ移民ハ南米ブラジルヲ主トシ、ヒリツピン、ペルー、北樺太、英領加奈陀等之ニ次グ
昭和元年	26,582	77	昭和八年	22,191	575	
昭和二年	21,386	103	昭和九年	24,034	400	
昭和三年	21,583	363	昭和十年	24,450	104	
昭和四年	22,014	872	十ヶ年平均	24,467	349	
昭和五年	28,473	349				

第二、出生並死亡

一、生産、死産累年比較

最近十ヶ年間ニ於ケル本縣ノ生産ハ人口千ニ付キ最少三五・九ヨリ最多四〇・八ニシテ全國ノ最少三〇・〇最多三四・八ニ比較シ著シク高率ヲ示シ十ヶ年平均ニ於テモ本縣ハ三八・一ナルニ全國ハ三二・六ニシテ本縣ハ高率ヲ示セリ。  
死産ハ生産百ニ付キ十ヶ年平均ニ於テ五・三ニシテ全國ノ五・五ヨリ低率ニシテ稍々良好ナリ。

二、死亡累年比較

本縣ノ死亡率ハ近年少シク減少ヲ示シ昭和十年ニ於テハ人口千ニ付一六・七、十ヶ年平均ハ人口千ニ付一八・二ニシテ全國ノ一八・六ニ比シ低率ナリ。

生産、死産ニ於テ全國平均ヨリ好成绩ヲ示シ死亡ニ於テモ低率ヲ示ス。

第三、現住人口年齢構成比較

昭和五年ノ國勢調査ニヨル現住人口年齢構成狀況ヲ全國ト比較シ見ルニ次表ノ如クニシテ乳幼児ヨリ學童ニ至ル年齢階級ニ於テハ高率ヲ示ス。即チ〇歳ヨリ十四歳迄本縣ハ四〇・七九%ニシテ全國ノ三六・六八%ニ比シ高率ナリ。然ルニ二十歳以上ノ年齢階級ニ於テハ漸次全國成績ヨリ低率ヲ示シ十五歳—六十四歳ノ全國平均ハ五八・五六%ナルニ比シ本縣ハ五五・一六%ナリ六十五歳以上ノ年齢階級ニ於テモ本縣ハ又低率ニシテ全國ノ四・七五%ニ比シ本縣ハ四・〇五%ナリ。

以上ノ結果ヨリ見ルニ本縣ハ低年齢ニ於テハ全國ニ比シ高率ナルモ年齢ノ進ムニ從ヒ全國ヨリ低率トナル結果ヲ示セリ。殊ニ生産年齢ニ於テスル狀況ナルノミナラズ高齢ニ於テモ全國ニ比シ甚ダシク低率ナルハ考慮ヲ要スベキ事項ナリ。

現住人口年齢構成表 (昭和五年國勢調査ニ依ル)

年齢別	本縣		計	%	全國		計	%
	男	女			男	女		
〇—一四歳	106,388	108,111	211,845	18.33	53,617	55,779	106,666	16.88

一五—一九歳	20,121	25,629	45,750	10.12	23,184	25,163	48,347	10.13
二〇—二四歳	27,271	38,111	65,382	14.01	31,850	34,100	65,950	14.06
二五—五九歳	192,311	195,101	387,412	83.05	113,111	117,555	230,666	83.10
六〇—六四歳	15,146	18,818	33,964	7.64	8,115	9,017	17,132	7.67
一五—六四歳計	310,101	310,131	620,232	14.01	191,766	197,844	389,610	14.06
六五歳以上	19,628	16,621	36,249	8.05	13,187	11,778	24,965	8.75
合計	575,355	577,489	1,152,784	100.00	532,901	532,901	1,065,802	100.00

第三節 死亡統計ニ就テノ觀察

第一、各年齢死亡調査

昭和九年帝國死因統計ニヨレバ死亡千ニ付各年齢階級ニ於ケル死亡ノ狀況ハ次表ノ如クニシテ〇歳、一歳ノ乳幼児ニテハ本縣ハ全國ニ比較シ非常ナル高率ヲ示セリ。三歳以上ニテハ全國平均ヨリ少キ狀況ナリ。

然シ乍ラ生産年齢階級ニ於ケル本縣ノ死亡率ハ全國ニ比較シテ低率ナルハ聊カ意ヲ強ウスルモノ有リ。

本縣、全國各年齢死亡率比較表 (昭和九年帝國死因統計)

年齢	本縣 (%)	全國 (%)	年齢	本縣 (%)	全國 (%)
〇歳	257.8	206.6	三五歳—三九歳	22.1	27.4

年齢	一歳未満	一歳以上	計
一歳	七二・〇	六二・九	一三三・九
二歳	三一・七	三一・四	六三・一
三歳	一七・三	二〇・九	三八・二
四歳	一〇・四	一二・九	二三・三
五歳—九歳	二六・〇	二八・五	五四・五
一〇歳—一四歳	二〇・七	一九・五	四〇・二
一五歳—一九歳	三六・九	四一・一	七八・〇
二〇歳—二四歳	三七・九	四七・四	八五・三
二五歳—二九歳	二六・八	三五・四	六一・二
三〇歳—三四歳	二四・五	二九・八	五四・三

第二、乳幼児死亡調査

一、乳幼児死亡状況

前述ノ如ク乳幼児ノ死亡ハ全死亡者ニ比シテハ高率ナルモ出生者ニ對スル死亡率ハ(自大正十四年至昭和九年)別表ノ通り出生百中最多二二・四九最少一八・〇五十ヶ年平均二〇・四五ニシテ全國ノ十ヶ年平均二〇・七二ニ比シ稍々低率ナリ。更ニ之ヲ細別スルニ乳兒(〇歳ヨリ一歳未満)ニ在リテハ最多一四・二八最少一一・八五ヲ示シ全國十ヶ年平均ノ一三・二〇ニ比スレバ稍高率ナリ。又幼兒(一歳ヨリ五歳未満)ニ在リテハ最多八・二二最少六・一〇ニシテ十ヶ年平均七・二〇ヲ全國十ヶ年平均七・五二ニ比スレバ稍低率ナリ。

本縣乳幼児死亡調査表

年別	區分	生産數	乳幼児死亡實數		生産百中乳幼児死亡	
			一歳未満	一歳以上	一歳未満	一歳以上
大正十四年		四二、六九五	六、〇九二	一一、九六三	一四・一〇	二八・四
大正十五年		四三、二六七	五、九一九	一一、〇六三	一四・〇〇	二五・三
昭和元年		四二、八四八	六、〇九三	一一、一九九	一四・三三	二六・八
昭和二年		四三、一九五	六、一七〇	一一、五五九	一四・一八	二六・三
昭和三年		四三、二七八	六、一五三	一一、五五九	一四・一八	二六・三
昭和四年		四三、二七八	六、一五三	一一、五五九	一四・一八	二六・三
昭和五年		四三、三六一	五、四〇九	一一、〇一〇	一二・五〇	二五・〇
昭和六年		四六、二一六	五、四六五	一一、〇一〇	一二・五〇	二五・〇
昭和七年		四三、一〇三	五、四八九	一一、〇一〇	一二・五〇	二五・〇
昭和八年		四四、八三二	五、三五六	一一、〇一〇	一二・五〇	二五・〇
昭和九年		四三、三八〇	五、七七五	一一、〇一〇	一二・五〇	二五・〇
十ヶ年平均		四三、九七七	五、七七一	一一、〇一〇	一二・五〇	二五・〇
全國十ヶ年平均						

二、乳幼児死亡原因別

本縣乳幼児ノ死因中死亡率最高キハ消化器系疾患ニシテ此ニ次グハ先天性弱質、呼吸器疾患及腦膜炎ナリ。全國ト比較シテ消化器疾患及先天性弱質ハ甚ダシク高率ナリ。他ノ疾患ニ於テハ全國ト比較シ多クハ低率ナリ。

本縣、全國乳幼児死亡比較表 (千分比)

昭和九年死因統計

病名	本縣		全國		病名	本縣		全國	
	順位	千分比	順位	千分比		順位	千分比	順位	千分比
下痢及腸炎 (二歳未満)	一	二四三・三	二	一八一・二	不慮ノ傷害	八	一八・八	二	一七・六
先天性弱質 (一歳未満)	二	一九二・二	三	一六六・〇	腎臟炎	九	一七・五	一	一四・八
肺炎	三	一六九・八	一	一八七・〇	氣管枝炎	一〇	一七・五	六	二八・三
腦膜炎 (結核性ヲ除ク)	四	五二・三	四	六二・五	早産 (一歳未満)	二	一七・四	二	一三・七
その他ノ消化器 ノ疾	五	四九・〇	九	二四・八	下痢及腸炎及 腸潰(二歳以上)	三	一六・八	五	四一・三
百日咳	六	三三・五	二	二〇・〇	微毒	三	一四・七	一〇	八・〇
その他ノ幼若乳 兒固有ノ疾患 (三ヶ月未満)	七	二〇・二	八	一六・〇	ビタミン缺乏症	四	一二・一	三	一六・六

備考 本縣十五位ハ其ノ他ノ傳染病及寄生蟲病(一一・七%) 全國七位ハ赤痢及疫癘(二六・五%) 十位ハ麻疹(二二・二%) 十四位  
ハ其ノ他ノ神経系疾患(一五・六%)

第三、死亡高率疾病調査

一般縣民ノ死亡高率ヲ示ス疾病ハ次表ノ如ク下痢及腸炎ガ第一位ニシテ第二位ハ腦出血、腦栓塞及腦血栓ニシテ肺炎結核性疾患、先天性弱質ノ順ナリ。全國ト比較シテ本縣ハ下痢腸炎ハ高率ヲ示スモ結核性疾患殊ニ呼吸器ノ結核ハ低率ナリ。然シ高

齡ニ至リテノ老衰死ガ全國ニ比較シ甚ダ少キハ長壽スル者ノ少キヲ示セルモノニシテ注意ヲ要スルコトナリ。其他ノ疾病ニ於テハ概シテ全國ト大差ナシ。

本縣、全國死亡比較表

(昭和九年死因統計ニ依ル)

病名	本縣		全國		病名	本縣		全國	
	順位	千分比	順位	千分比		順位	千分比	順位	千分比
下痢及腸炎	一	二二九・四	二	二〇三・六	痛其他ノ惡性腫瘍	八	四二・九	八	三八・九
腦出血、腦栓塞 及腦血栓	二	一〇八・五	三	八二・七	其他ノ消化器疾患	九	四〇・〇	九	三三・七
肺炎	三	九八・九	四	一〇〇・五	腦膜炎 (結核性ヲ除ク)	一〇	三三・二	一〇	三三・三
結核性疾患	四	八四・五	一	一六・五	不慮ノ傷害	一一	二〇・七	一一	二五・七
先天性弱質 (一歳未満)	五	七四・七	六	五五・六	慢性心臟内膜炎 及心臟瓣膜障害	一二	一九・九	一二	一九・五
老衰	六	五六・七	五	七〇・七	氣管支炎	一三	一七・六	一三	二二・九
腎臟炎	七	五〇・六	七	四八・二	肋膜炎	一四	一四・一	一四	一四・四

本縣第十五位ハ腸チフス及バラチフスノ(一三・一%)  
全國第十五位ハ赤痢及疫癘(一一・五%)

第四節 徵兵検査成績

本縣壯丁ノ徵兵検査ニ於ケル狀況ヲ全國ト比較スルニ次表ノ如ク最近十ヶ年間身長ニ於テハ優劣ナキモ體重ニ在リテハ稍々優秀ナリ。合格率ニ於テモ全國平均ニ比シ良好ナリ。然ルニコノ合格率ヲ年別ニ見ルトキ甲、乙種遞減シ丙、丁種ノ者漸次多キヲ加ヘタルハ將ニ體格低下ヲ表ハスモノト認メラル。之ガ不合格者ノ疾病率ヲ比較スルニ全國ニ最モ多キ筋骨薄弱、呼吸器疾

患ハ低率ナルモ眼疾、骨關節ノ外傷等ハ高率ナリ。

「トラホーム」ニ在リテハ最近漸増ノ傾向ニアルハ遺憾ナルモ花柳病ハ全國同様遞減シツ、アリ成績良好ナリ。

第一、壯丁體格累年比較

壯丁體格ハ最近十ケ年ニ於テハ大體ニ於テ變化ナシ。身長ニ於テハ全國平均ニ比シ殆ンド同一ナルモ體重ハ遙カニ多クシテ昭和元年ヨリ十一年ニ至ル十ケ年平均ニ於テ約一、五疋多シ。

壯丁體格累年比較表

(徴兵事務摘要)

年別	區分		縣		全		國	
	身	體	身長一尺ニ付	重	身長一尺ニ付	重	身長一尺ニ付	重
昭和二年	1,600 (5,928)	5,400 (4,453)	27.7	52.5	1,597 (5,827)	5,250 (4,394)	27.6	52.5
昭和三年	1,597 (5,927)	5,401 (4,454)	27.7	52.5	1,596 (5,827)	5,250 (4,394)	27.6	52.5
昭和四年	1,599 (5,928)	5,403 (4,455)	27.7	52.5	1,603 (5,829)	5,251 (4,395)	27.6	52.5
昭和五年	1,598 (5,927)	5,404 (4,456)	27.7	52.5	1,598 (5,828)	5,252 (4,396)	27.6	52.5
昭和六年	1,601 (5,928)	5,405 (4,457)	27.8	52.5	1,600 (5,828)	5,253 (4,397)	27.7	52.5
昭和七年	1,600 (5,928)	5,406 (4,457)	27.8	52.5	1,600 (5,828)	5,254 (4,397)	27.7	52.5
昭和八年	1,600 (5,928)	5,407 (4,458)	27.9	52.5	1,603 (5,829)	5,255 (4,398)	27.7	52.5

年	身	體	身長一尺ニ付	重
昭和九年	1,603 (5,929)	5,408 (4,458)	27.5	52.5
昭和十年	1,603 (5,929)	5,409 (4,459)	27.6	52.5
昭和十一年	1,603 (5,929)	5,410 (4,460)	27.5	52.5
平均	1,601 (5,928)	5,406 (4,457)	27.5	52.5

第二、壯丁合格狀況

壯丁合格ノ狀況ハ最近十ケ年ニ於テ全國ノ六割二分強ニ比シ本縣ハ六割八分強ヲ示ス。而シテ全國平均ノ甲種二割九分八厘乙種三割二分四厘ニ比シ本縣ハ甲種三割五分一厘、乙種三割三分八厘ニシテ良好ナリ。然ルニ昭和二年ノ甲種四割一分九厘、乙種三割七分一厘、丙種一割九分五厘ヲ昭和十一年ノ甲種三割五分一厘、乙種三割三分八厘、丙種二割四分八厘ニ比スレバ逐年合格率低下シ丙丁種ニ繰下ダラル、者多キヲ見ル。郡市別合格狀況ヲ最近五ケ年平均ニツキ見ルニ牡鹿郡ノ七割二分二厘ヲ最高トシ桃生、石巻、本吉、宮城、遠田、伊具、登米ノ順ニシテ柴田郡ノ六割三分六厘、仙臺市ノ六割四分二厘ハ最低ナリ。

(イ) 自昭和二年 至昭和十一年 十ケ年間各種壯丁検査成績表

(徴兵事務摘要)

年次	壯丁總數	種實					壯丁				
		甲	乙	丙	丁	戊	甲	乙	丙	丁	戊
昭和二年	10,740	3,311	3,293	11,101	1,011	1,001	1,011	1,011	1,011	1,011	1,011

昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	十ヶ年平均	同上全國平均
10,950	11,501	11,611	11,013	11,080	11,450	11,345	11,211	13,008	11,940	61,017
4,003	3,673	4,164	4,478	4,461	4,700	4,216	3,911	4,175	4,187	182,046
3,458	4,167	4,082	3,934	3,825	4,289	4,362	3,905	4,313	4,033	198,253
2,659	2,925	2,659	2,826	3,049	2,915	3,008	3,857	3,693	2,969	190,990
820	756	709	789	695	776	759	1,038	879	751	39,629
3,638	3,191	3,359	3,711	3,711	3,599	3,249	3,008	3,211	3,551	298
3,166	3,638	3,359	3,271	3,181	3,389	3,259	3,009	3,311	3,338	334
1,455	1,544	1,291	1,355	1,355	1,355	1,355	1,355	1,355	1,355	315
76	64	62	66	58	63	61	81	63	63	65

(口) 自昭和七年 五ヶ年平均郡市別壯丁合格率表

郡市別	區分	検査人員	甲種		乙種		計	%
			種	%	種	%		
仙臺市		1,133	363	28.97	411	35.88	802	69.85
石巻市		101	63	62.38	81	80.20	144	71.29
刈田郡		503	177	35.19	190	37.77	367	72.82
柴田郡		434	141	32.49	131	30.18	272	62.67

郡市別	區分	検査人員	甲種		乙種		計	%
			種	%	種	%		
伊具郡		558	120	21.50	195	34.95	385	68.99
亙理郡		343	111	32.36	115	33.53	226	65.89
名取郡		679	129	19.00	110	16.20	239	35.20
宮城郡		889	131	14.75	121	13.61	252	28.35
黒川郡		359	115	32.03	109	30.36	214	59.64
加美郡		359	115	32.03	109	30.36	214	59.64
志田郡		499	120	24.05	155	31.06	275	55.11
玉造郡		199	95	47.74	88	44.22	183	92.01
遠田郡		541	118	21.83	161	29.76	279	51.57
栗原郡		1,011	381	37.66	315	31.15	696	68.81
登米郡		879	331	37.66	315	35.84	646	73.49
桃生郡		850	331	38.94	285	33.53	616	72.48
牡鹿郡		511	121	23.68	125	24.48	246	48.14
本吉郡		758	271	35.75	269	35.49	540	71.24
計		10,201	3,816	37.41	3,500	34.31	7,316	71.66

備考 石巻市ハ昭和九年市制施行ニ付四ヶ年平均ヲ掲グ

第三、壯丁ト疾病  
一、概況

本縣昭和十一年壯丁検査ニ於ケル疾病ノ狀況ヲ見ルニ疾病中主ナルモノハ胸廓變形二一・二二%ヲ第一位トシ、筋骨薄弱一九・三%、近視又ハ近視性亂視九・八六%、耳疾患八・七七%、肺胸膜ノ慢性病五・七七%、其ノ他ノ眼病四・四七%「トラホーム」四・三八%等順次之ニ次グ。

丙種、丁種主要疾病ノ壯丁ノ千分比ヲ全國ト比較スルニ眼疾患ヲ除キテハ何レモ全國平均ヨリ少シ。而シテ丙種ニアリテハ重症「トラホーム」其ノ他ノ眼疾、一眼盲等ニ因リ丙種トナリタルモノ本縣ニ多ク全國ニ於テ高率ナル筋骨薄弱呼吸器ノ疾患ハ遙ニ少シ。

丁種ニ在リテハ本縣ハ骨關節外傷及疾病最モ多クシテ呼吸器疾患之ニ次ギ其ノ他ノ眼疾、筋骨薄弱、手指缺損強剛、不治精神病、重症「トラホーム」等亦多シ。

(イ) 壯丁體格等位ニ影響ヲ及ボシタル疾病調査表 (昭和十一年壯丁検査)

病名	乙種	丙種	丁種	計	百分比
筋骨薄弱	七七二	三二二	一	一、〇八四	一九・二九
脂肪過多	一	一	一	一	〇・〇二
軟部ノ炎症潰瘍	一	一	一	三	〇・〇四
手術スベカラザル長性腫瘍	一	一	一	三	〇・〇五
骨、骨膜ノ慢性病	二八	八九	一	一一七	二・〇八
癩瘡、母斑ニシテ妨ゲアルモノ	一二四	三五	一	一五九	二・八三
魯鈍痴鈍不治ノ精神病	一四	三二	一	四六	〇・八二
不治ノ神經系病	一	二〇	一	二〇	〇・三六

病名	乙種	丙種	丁種	計	百分比
著シキ腋臭、不治ノ皮膚病	四二	一	一	四二	〇・七五
不治ノ筋腱變常ニシテ動作ニ妨ゲアルモノ	一	一	一	三	〇・〇二
全禿頭、頭蓋顔面ノ變形	六	一	一	七	〇・一二
眼瞼下垂、眼球震盪症	二二	一七	一	三九	〇・六九
トラホーム	一七一	七五	一	二四六	四・三八
近視及近視性亂視	四九〇	六四	一	五五四	九・八六
其ノ他ノ眼病	一二六	一二五	一	二五一	四・四七
一 眼 盲	一	四五	一	四五	〇・八〇
難 聽、 聾	三九	一八	一	五七	一・〇一
耳殼大部ノ缺損	一	一	一	三	〇・〇二
鼓膜穿孔及中耳内耳病	二五〇	二四三	一	四九三	八・七七
鼻腔副鼻腔ノ慢性病	三八	二	一	四〇	〇・七一
重 キ 吃	一八	二〇	一	三八	〇・六八
唇癒着兎唇、口蓋破裂	一	一	一	三	〇・〇七
齒牙ノ疾病缺損ニシテ妨アルモノ	六三	一〇	一	七三	一・三〇
斜 頸	五	八	一	一三	〇・二三
脊柱、骨盤ノ彎曲變形	六	一〇	一	一六	〇・二九
胸 廓 變 形	九八〇	二〇七	一	一、一八七	二一・一三
氣管枝肺、胸膜ノ慢性病	九九	二二六	一	三二五	五・七八

心、心囊ノ疾病	三	八
慢性腹内臓器病	七	〇
脱肛、痔瘻、痔核	二	〇
泌尿、生殖器慢性病	一	〇
重キ下腿ノ靜脈怒張	五	九
四肢骨ノ短縮缺損彎曲蹠躓	六	九
手指ノ缺損強剛	一	九
剃指ノ缺損強剛	一	九
趾ノ缺損強剛	一	九
扁足、翻足、馬足	七	七
計	一、八五三	一、八五三

備考 本表ハ短尺者ヲ除キタルモノニ付キ調査ス  
 (ロ) 丙種主要疾病表 (既往十ヶ年徴兵事務摘要千分比)

病名	昭和二年		昭和三年		昭和四年		昭和五年		昭和六年		昭和七年		昭和八年		昭和九年		昭和十年		昭和十一年		平均
	縣本	國全	縣本	國全	縣本	國全	縣本	國全	縣本	國全	縣本	國全	縣本	國全	縣本	國全	縣本	國全	縣本	國全	
筋、骨、薄、弱	三、七六六	三、七六六	七、七	七、七	一	一	六、九	六、九	五	五	一、八五三	一、八五三	九、九	九、九	五、六一九	五、六一九	一、七六六	一、七六六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

痴	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八	一、〇八
重症トラホーム	五、二八	五、二八	五、二八	五、二八	五、二八	五、二八	五、二八	五、二八	五、二八	五、二八	五、二八	五、二八	五、二八	五、二八	五、二八	五、二八	五、二八	五、二八	五、二八	五、二八	五、二八
近視又ハ近視性亂視	一〇、一〇	一〇、一〇	一〇、一〇	一〇、一〇	一〇、一〇	一〇、一〇	一〇、一〇	一〇、一〇	一〇、一〇	一〇、一〇	一〇、一〇	一〇、一〇	一〇、一〇	一〇、一〇	一〇、一〇	一〇、一〇	一〇、一〇	一〇、一〇	一〇、一〇	一〇、一〇	一〇、一〇
遠視又ハ遠視性亂視	一一、〇五	一一、〇五	一一、〇五	一一、〇五	一一、〇五	一一、〇五	一一、〇五	一一、〇五	一一、〇五	一一、〇五	一一、〇五	一一、〇五	一一、〇五	一一、〇五	一一、〇五	一一、〇五	一一、〇五	一一、〇五	一一、〇五	一一、〇五	一一、〇五
其ノ他ノ眼疾	一一、一六	一一、一六	一一、一六	一一、一六	一一、一六	一一、一六	一一、一六	一一、一六	一一、一六	一一、一六	一一、一六	一一、一六	一一、一六	一一、一六	一一、一六	一一、一六	一一、一六	一一、一六	一一、一六	一一、一六	一一、一六
一、眼	五、〇四	五、〇四	五、〇四	五、〇四	五、〇四	五、〇四	五、〇四	五、〇四	五、〇四	五、〇四	五、〇四	五、〇四	五、〇四	五、〇四	五、〇四	五、〇四	五、〇四	五、〇四	五、〇四	五、〇四	五、〇四
聽器疾患	一九、二二	一九、二二	一九、二二	一九、二二	一九、二二	一九、二二	一九、二二	一九、二二	一九、二二	一九、二二	一九、二二	一九、二二	一九、二二	一九、二二	一九、二二	一九、二二	一九、二二	一九、二二	一九、二二	一九、二二	一九、二二
齒牙疾病缺損	〇、一一	〇、一一	〇、一一	〇、一一	〇、一一	〇、一一	〇、一一	〇、一一	〇、一一	〇、一一	〇、一一	〇、一一	〇、一一	〇、一一	〇、一一	〇、一一	〇、一一	〇、一一	〇、一一	〇、一一	〇、一一
呼吸器疾患	一一、一八	一一、一八	一一、一八	一一、一八	一一、一八	一一、一八	一一、一八	一一、一八	一一、一八	一一、一八	一一、一八	一一、一八	一一、一八	一一、一八	一一、一八	一一、一八	一一、一八	一一、一八	一一、一八	一一、一八	一一、一八
循環器ノ疾病	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六	二、九六
骨關節ノ外傷	一一、二八	一一、二八	一一、二八	一一、二八	一一、二八	一一、二八	一一、二八	一一、二八	一一、二八	一一、二八	一一、二八	一一、二八	一一、二八	一一、二八	一一、二八	一一、二八	一一、二八	一一、二八	一一、二八	一一、二八	一一、二八
手指ノ缺損強剛	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二
扁足	〇、七五	〇、七五	〇、七五	〇、七五	〇、七五	〇、七五	〇、七五	〇、七五	〇、七五	〇、七五	〇、七五	〇、七五	〇、七五	〇、七五	〇、七五	〇、七五	〇、七五	〇、七五	〇、七五	〇、七五	〇、七五



(ハ) 丁種主要疾病表 (既往十ヶ年徴兵事務摘要千分比)

病別	昭和二年		昭和三年		昭和四年		昭和五年		昭和六年		昭和七年		昭和八年		昭和九年		昭和十年		昭和十一年		平均
	縣本	國全	縣本	國全	縣本	國全	縣本	國全	縣本	國全	縣本	國全	縣本	國全	縣本	國全	縣本	國全	縣本	國全	
筋骨薄弱	0.653	0.551	—	—	1.073	0.760	1.333	0.755	1.000	0.554	0.650	0.554	0.650	0.554	0.650	0.554	0.650	0.554	0.650	0.554	0.650
不治精神病	1.920	1.400	1.130	0.830	1.000	—	1.260	0.910	1.010	1.100	1.100	1.100	1.100	1.100	1.100	1.100	1.100	1.100	1.100	1.100	1.100
癩	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110
重症トラホーム	0.750	0.840	0.750	0.730	0.840	0.890	0.750	0.750	0.750	0.750	0.750	0.750	0.750	0.750	0.750	0.750	0.750	0.750	0.750	0.750	0.750
近視又ハ近視性亂視	0.430	0.650	0.740	0.640	—	0.670	—	0.660	0.330	0.660	0.660	0.660	0.660	0.660	0.660	0.660	0.660	0.660	0.660	0.660	0.660
遠視又ハ遠視性亂視	—	0.090	—	0.080	—	0.080	—	0.080	—	0.080	—	0.080	—	0.080	—	0.080	—	0.080	—	0.080	0.080
其ノ他ノ眼疾	1.620	1.330	1.620	1.280	1.730	1.290	1.930	1.540	1.620	1.620	1.620	1.620	1.620	1.620	1.620	1.620	1.620	1.620	1.620	1.620	1.620
兩眼	1.290	0.700	0.790	0.810	0.890	0.860	0.860	0.860	0.860	0.860	0.860	0.860	0.860	0.860	0.860	0.860	0.860	0.860	0.860	0.860	0.860
聽器ノ疾病	0.650	0.580	0.500	0.450	0.480	0.480	0.480	0.480	0.480	0.480	0.480	0.480	0.480	0.480	0.480	0.480	0.480	0.480	0.480	0.480	0.480
呼吸器ノ疾病	1.940	0.960	1.370	1.130	1.330	1.110	1.400	1.010	1.330	1.330	1.330	1.330	1.330	1.330	1.330	1.330	1.330	1.330	1.330	1.330	1.330
循環器ノ疾病	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110	0.110
骨關節ノ外傷及疾病	8.940	7.530	7.330	7.330	7.330	7.330	7.330	7.330	7.330	7.330	7.330	7.330	7.330	7.330	7.330	7.330	7.330	7.330	7.330	7.330	7.330
手指缺損強剛	1.620	1.360	1.860	1.540	1.610	1.450	1.650	1.290	1.650	1.650	1.650	1.650	1.650	1.650	1.650	1.650	1.650	1.650	1.650	1.650	1.650

二、壯丁「トラホーム」

昭和七年度徴兵検査ニ於ケル壯丁「トラホーム」ハ全國平均九・九%ナルニ本縣ハ七・七%ニシテ稍低率ナリシガ昭和八年以來全國平均ニ於テハ漸減シツ、アルモ之ニ反シ本縣ニ於テハ漸増シ昭和九年以降全國中第二位ヲ占ムルニ至リタルハ誠ニ憂慮スベキコトナリ。

(イ) 最近五ヶ年壯丁「トラホーム」百分比全國對比較表

區分	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
本縣	七・七	一一・一	二〇・六	二五・六	二二・四
全國	九・九	九・六	九・四	九・二	八・四

本縣壯丁ノ「トラホーム」豫備検査及徴兵検査ニ於ケル「トラホーム」ヲ比較スルニ豫備検査後徴兵検査ニ到ル期間患者ノ治療督勵ヲ加フルニ依リ其ノ成績ノ最良ナルモノハ八割乃至五割減ヲ示スモノ尠カラズ。徴兵検査ニ於テ却テ増悪セルモノ昭和八年以前ハ稀有ナルガ昭和九年ニ於テハ四郡、昭和十年ハ八郡、昭和十一年ハ五郡ノ多キニ上リ患者率亦前年ニ比シ増悪シタルハ遺憾トスル處ナリ。

(ロ) 郡市別壯丁「トラホーム」患者ト豫備検査比較表 (百分率)

郡市別	昭和七年		昭和八年		昭和九年		昭和十年		昭和十一年	
	豫備検査	徴兵検査	豫備検査	徴兵検査	豫備検査	徴兵検査	豫備検査	徴兵検査	豫備検査	徴兵検査
仙臺市	一九・三	四・六	三三・〇	六・七	三四・〇	一一・九	一五・四	一七・三	三〇・九	一三・八
石巻市	X	X	四三・四	五・七	一六・八	一七・〇	一一・四	一一・〇	三〇・九	一三・八

郡市別	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
仙臺市	〇・五三	一・五八	〇・七一	〇・七三	〇・八四
石巻市	×	三・〇四	二・六四	一・三四	一・六七
刈田郡		〇・三八		〇・九一	〇・二一
柴田郡		〇・三五		〇・六八	〇・二四
伊具郡			〇・三二	〇・八二	〇・三七
亘理郡			〇・三二	〇・五二	〇・二八
名取郡	〇・七〇	一・四九	〇・二九	〇・五六	〇・六三
宮城郡	二・二五	二・四一	〇・三二	一・二一	〇・九〇
黒川郡		一・七九	〇・二九	〇・八〇	〇・六〇
加美郡	一・〇八	〇・六二		〇・八〇	〇・八五
志田郡	〇・三九	〇・七六	〇・六三	〇・四〇	〇・七七
玉造郡	〇・三五	〇・七六	〇・三六	〇・三五	
遠田郡	〇・八〇	〇・七〇	〇・一八	〇・三四	〇・五三
栗原郡	〇・二九	〇・七一	〇・二〇	〇・三一	〇・三七
登米郡	〇・三五	〇・八七	〇・二四	〇・四五	〇・四三

ノ順ヲ逐フテ遞減シ最モ低率ナルハ伊具郡ニシテ亘理、刈田之ニ次グ。

郡市別壯丁花柳病患者表 (百分率)

三、壯丁花柳病

徴兵検査ニ於ケル本縣ノ壯丁花柳病患者ハ全全國平均ニ比シ少シ。之ヲ郡市別ニ見ルニ石巻市ヲ最高トシ牡鹿、宮城、桃生

郡市別	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
刈田郡	二・三五	七・七二	四四・〇七	九・二五	一三・〇三
柴田郡	八・三七	一五・四九	一一・七八	二二・一五	二四・四八
伊具郡	四・二七	八・八七	二六・七四	八・七三	一五・三〇
亘理郡	二・八〇	一八・二五	三三・〇三	二五・三四	二四・六五
名取郡	一・五八	二・三四	三六・五〇	四三・三〇	三三・九六
宮城郡	一・三九	一七・七六	四八・二二	二五・一一	二八・〇三
黒川郡	八・七五	一七・三七	五八・三二	二八・六二	四三・九六
加美郡	九・九七	八・三三	三〇・九二	二六・五五	二五・九〇
志田郡	七・七一	七・六三	二六・〇〇	二八・二六	三〇・九〇
玉造郡	六・九二	八・七七	二六・九八	二七・六八	二七・七四
遠田郡	九・九〇	九・〇八	二四・〇三	二六・九二	二六・八四
栗原郡	七・六六	一〇・三八	二五・九〇	三三・五五	三三・八一
登米郡	七・七九	二二・七七	三〇・八〇	三二・〇二	二二・九〇
桃生郡	八・六八	一三・七七	二九・二六	三二・七五	三六・〇四
牡鹿郡	七・二二	九・〇三	二七・六八	三九・四九	三九・九四
本吉郡	五・三〇	六・六六	二八・五七	二四・六六	一九・六六
平均	七・九二	一一・二六	三三・〇九	二七・七〇	三二・一八

## 第二章 保健衛生

桃 生 郡	牡 鹿 郡	本 吉 郡	平 均	全 國 平 均
一・〇七	三・五六	〇・七六	〇・八一	一・〇〇
二・一六	五・四二	一・一三	一・二八	一・二〇
〇・五五	一・六七	〇・二八	〇・四七	一・〇七
〇・一一	一・七六	一・一三	〇・六五	一・〇七
〇・六一	二・〇〇	〇・六二	〇・六四	〇・九二

## 第二章 保健衛生

### 第一節 飲料水

#### 一、飲料井戸

本縣内ノ飲料井戸ハ昭和四年二月現在ノ調査ニ依レバ總數六萬五千六百三十二個ニシテ、其ノ内昭和十二年五月マデニ飲料適否ノ水質検査ヲ行ヒタルモノ總數三萬七千個ニシテ内飲料ニ適セザルモノ一萬九千四百二十四個、即チ検査數ニ對シ五四・一%ニ達シ一般ニ不良ナリ。其ノ内柴田郡尤モ惡シク九〇・五%ニシテ亙理郡、黒川郡、登米郡、志田郡ハ六〇%以上ヲ示シ次ニ宮城郡、遠田郡、牡鹿郡ハ五〇%以上ニシテ最モ良好ナル仙臺市ニ於テモ二九・八%ナリ。故ニ之レガ改善策トシテ水道ノ布設獎勵及構造不完全ナル井戸ノ改善ヲ圖リツ、アリテ近年上水道ノ布設町村漸時増加ノ傾向ヲ示シツ、アリ。水道、簡易水道ノ布設ニ對シテハ縣費ヲ以テ補助ヲ與ヘ之方助成ニ努メツ、アリ。

縣下飲料井水検査成績表

郡市別	井戸數	検査數	飲料適數	飲料不適數	不適數百分率
仙臺市	八、〇一九	五、四二四	三、八一〇	一、六一四	二九・八%
刈田郡	三、〇九四	三、〇一八	一、八六九	一、一四九	三八・一%
宮城郡	五、九九四	四、三三〇	一、七七二	二、五五八	五九・二%
黒川郡	二、五五四	一、六八九	六一九	一、〇七〇	六三・四%

加美郡	一、〇九五	一、〇四四	六一七	四二七	四〇・九%
志田郡	一、〇九〇	九七八	三七七	六〇一	六一・五%
玉造郡	一、八一四	一、二四〇	八六九	三七一	三〇・〇%
遠田郡	二、三四九	四二三	一八二	二四一	五六・九%
栗原郡	六、四三三	六、〇〇九	三、二〇二	二、八〇七	四六・七%
登米郡	六、二〇二	六、〇三一	二、二六八	三、七六三	六二・四%
牡鹿郡	一、八八六	一、八八六	九〇二	九八四	五二・二%
榮田郡	二、五二四	二、〇八四	一九八	一、八八六	九〇・五%
伊具郡	三、六三〇	一三六	五八	七八	五七・四%
亙理郡	二、七〇八	二、七〇八	八三三	一、八七五	六九・二%
名取郡	六、三九二	未検査			
桃生郡	五、四六二	〃			
本吉郡	四、三八六	〃			
合計	六五、六三二	三七、〇〇〇	一七、五七六	一九、四二四	五四・一%

二、上水道

本縣下ニ於テ水道條例ニ基キ最初ニ認可ヲ受ケ通水シタルハ明治四十二年十一月古川町上水道ニシテ、其ノ後獎勵シタル結果布設シタルモノニ市二十町村ニ及ビ尙牡鹿郡波町ハ目下布設工事中ナリ。昭和二年縣令ヲ以テ水道取締規則ヲ公布シ上水道布設市町村ヲシテ毎月水質検査ヲ施行セシメ其ノ成績ヲ報告セシムル規定ヲ設ケアルモ、仙臺市ヲ除ク外ハ何レモ検査

ヲ行フ技術者ヲ設置スルモノ無ク、何レモ縣ニ委託シ毎月検査ヲ施行シツ、アル狀況ナリ。

(イ) 上水道布設地調査表

上水道名	布設市町村名	布設年月日	人口 (昭和十年)	給水人口 (基本人口)	給水人口 (現人口)	工事費
仙臺市上水道	仙臺市	大正十二年二月十一日	二九、五四五	一〇、〇〇八	一一、〇〇八	二、五九四、三三六
石巻市上水道	石巻市	昭和八年四月一日	三三、三六	四〇、〇〇〇	一五、七六〇	一、二九〇、〇〇〇
鹽釜町上水道	宮城郡鹽釜町	明治四十五年五月二十日	二九、三三二	四三、〇〇〇	三三、〇〇〇	九一五、三三四
古川町上水道	宮城郡古川町	明治四十二年十一月十日	一四、三二五	一五、〇〇〇	一三、八八〇	四九〇、五三四
氣仙沼町上水道	本吉郡氣仙沼町	昭和五年一月一日	一八、二四五	三〇、〇〇〇	八、四八四	二四〇、〇〇〇

同上

(給水人口一萬以下ノ水道) 計十八ヶ所

上水道名	布設市町村名	布設年月日	人口	給水人口 (基本人口)	給水人口 (現人口)	工事費
角田町上水道	伊具郡角田町	昭和九年六月一日	九、七四二	九、五〇〇	四、八四八	二二五、九四四
飯野川町上水道	桃生郡飯野川町	昭和四年八月一日	五、八八九	一、八二三	一、七六五	六九、九七八
若柳町上水道	栗原郡若柳町	昭和三年九月一日	一〇、〇一一	八、〇〇〇	三、七六二	一一九、六二五

上水道名	昭和一十一年	昭和十一年	昭和十一年	昭和十一年	昭和十一年	昭和十一年
	鹽素	過マンガン酸カリ消費量	硬度	固形分總量	各成分ノ數ハ上水道一ケ年間ノ平均數量	細菌集落數
鳴子町上水道	玉造郡鳴子町	大正十五年十月一日	四、八八	五、〇〇〇	二、五六〇	八、〇九二
宮野村簡易水道	栗原郡宮野村	昭和三年十一月廿六日	一、八二〇	五、七二	六、三〇	五、三三〇
大川村長面簡易水道	桃生郡大川村	大正六年九月	四、三三〇	六〇〇	—	二、三〇〇
色麻村簡易水道	加美郡色麻村	大正五年十二月二日	四、四四〇	八三三	—	一、七三六
利府村上水道	宮城郡利府村	大正十三年一月一日	五、四〇〇	二、五〇〇	一、六六四	三、三九〇
川渡村簡易水道	玉造郡川渡村	大正十二年四月一日	四、六四〇	一、四七三	一、四三五	九、五七〇
村田町上水道	柴田郡村田町	昭和二年六月四日	八、一〇七	四、〇〇〇	二、八三三	二、四二四
柳津町上水道	本吉郡柳津町	昭和二年六月一日	三、三七〇	三、〇〇〇	一、七三六	三、一四八
不動堂村上水道	遠田郡不動堂村	昭和四年一月一日	三、八二〇	六、〇〇〇	一、五九二	七、九一八
大鹽村簡易水道	桃生郡大鹽村	昭和四年二月一日	二、一一一	一、〇〇〇	五〇〇	三、〇〇〇
志田村上水道	志田郡志田村	昭和四年四月一日	六、四三三	七〇〇	二、二九〇	六、九、五五〇
岩ヶ崎町上水道	栗原郡岩ヶ崎町	昭和四年四月一日	四、一〇六	七、五〇〇	二、九二五	六、八、八八八
丸森町私設簡易水道	伊具郡丸森町	昭和六年八月一日	六、三三三	一〇〇	一四八	三、〇三六
鮎川濱漁業組合簡易水道	牡鹿郡鮎川村	昭和七年一月十六日	五、六二四	一、七五〇	八三〇	一八、七五三
圓田村上水道	刈田郡圓田村	昭和十一年八月一日	六、六八八	一、〇〇〇	五二八	六、〇〇〇

(口) 縣下上水道水質検査成績表

仙臺市上水道	三、七二〇	四、三三四	一、八	三、一〇	一、六
石巻市上水道	八、七三三	三、九九五	一、三	七、四〇	一、四
氣仙沼町上水道	四、八八八	三、四四九	一、八	六、五、六	一、九
鹽釜町上水道	六、三三〇	四、八九六	一、六	一〇、九、一	一、八
古川町上水道	三、三三三	二、四八八	二、一	一、四、三	五、一
鳴子町上水道	五、〇七	二、九六一	〇、七	六、七、二	二、八
飯野川町上水道	六、一一	四、五六四	二、八	一〇、三、四	二、〇
柳津町上水道	五、三三三	四、四一七	二、六	一、〇、七	四、〇
若柳町上水道	五、八七	三、八〇八	一、五	九、二、九	三、三
岩ヶ崎町上水道	四、五三	三、〇八二	一、八	七、四、八	二、八
村田町上水道	三、一〇	五、七五七	〇、七	八、三、〇	三、二
不動堂村上水道	七、八五	四、八六七	一、四	八、七、二	四、八
角田町上水道	四、九四	四、五七九	一、〇	八、三、三	四、〇
鮎川濱漁業組合簡易水道	一、九一五	四、〇五四	一、四	九、二、四	三、二
志田村塚目上水道	一、一八一	四、八一七	二、三	一、五、四、四	三、三
志田村新堀上水道	七、〇八	五、八三三	一、三	一〇、九、九	三、三
志田村飯川上水道	九、七五	五、七五〇	一、四	一〇、六、五	三、六
利府村上水道	五、八八	四、〇一一	一、六	一、三、八、三	三、三
丸森町私設簡易水道	七、五〇	五、一一〇	〇、九	五、九、七	二、九

第二節 飲食物其他ノ物品

飲食物其ノ他ノ物品取締ニ付テハ内務省令取締規定ニ基キ牛乳、清涼飲料水、氷雪、人工甘味質、有害性着色料、防腐劑等ニ就キ夫々取締ヲ爲シツ、アルモ、泡煮洗滌剥皮等ヲ要セス直ニ飲食シ得ル飲食物ニ就テハ飲食物營業取締規則、一般食肉ニ就テハ食肉營業取締規則ヲ公布シ遺憾ナキヲ期シ取締ツ、アリ。

一、清涼飲料水營業者並製造品種別營業者調

年 度	製造(輪移入)營業者數	製 造 品 種 別 營 業 者 數			
		鑛泉及ブレソソーダ水	ラムネ類	サイダー類	リモナイデ(果實水薄荷水)桂皮水ノ類
昭和七年	四二	一	一九	二〇	一六
昭和八年	三九	一	一九	二一	一四
昭和九年	四〇	一	一八	二一	一四
昭和十年	四〇	一	一八	二一	一四
昭和十一年	四七	一	二二	二六	二一

二、清涼飲料水製造總量調 (單位リットル)

年 度	鑛泉及ブレソソーダ水	ラムネ類	サイダー類	リモナイデ(果實水薄荷水)桂皮水ノ類	果實汁、果實蜜其ノ類似品	牛乳又ハ乳製品原料トスル酸性飲料
昭和七年度	七九九	一、一五九、七五〇	八七五、八五〇	三、一三六	一、二四一	

三、飲食物其ノ他ノ物品検査成績表

品 目	昭和十一年		昭和十一年	
	検査總數	有害數	無害數	検査總數
煉乳	九		七	七
脱脂煉乳	七		八	八
粉乳	一		二	二
天然氷	三六		四二	二八
人造氷	三五	二〇	一五	二九
人雪				
鑛泉及水	一三	一	一二	二二
鑛泉ソーダ水	一九三	二二	一七〇	一八一
ブレソソーダ水	一三	一	一二	二二
ラムネ	五四四	三三	五一三	三六八
サイダー	五四四	三三	五一三	三六八
リモナイデ果實蜜及類似品	二四九	三〇	二一九	三三五

牛乳又ハ乳製品ヲ原料トスル酸性飲料類	九二	三	七二	二〇三	二八	二八
陶磁器類	一五	七二	二〇	五	六六	五八
珉瑯鐵器類	一	一	一	一	二七	一六
鍍錫器具類	一	一	一	一	一三	一六
其他飲食物用器具類	七二	七四二	六四五	一三	二七	一六
菓子類	二五七	二五五	三五五	一六	五九四	二一
蒲鉾類	四四四	四二四	三七八	一六	三三九	二一
罐詰瓶詰類	三七	三七	一四五	二	三四七	二
醬油	一八	一七	二八	二	一四三	二
酢	五七五	五五五	五〇三	一九	四八四	七
清酒	二二	二二	一一	一	二八	一
葡萄酒	四	四	二	一	一	一
蒸溜酒類	一八	一六	二	一	二	一
其ノ他酒精含有飲料	四一	三八五	五八一	四三	五三八	二
其ノ他ノ飲食物	三	三	三	三	三	三
防腐劑漂白劑類	一七	一七	一七	一七	一七	一七
玩具類						
化粧品類						
其他						
合計	三七七〇	二八五	三四八五	四〇二一	四三八	三五八三

三二

備考 本表ノ検査成績數ハ技術者ニ於テ施行シタルモノヲ示ス

四、鉛ヲ檢出スル飲食物用器具類調

品名	昭和十年		昭和十一年	
	検査數	鉛ヲ檢出スルモノ	検査數	鉛ヲ檢出スルモノ
陶器製井類	三五	三〇	三八	三〇
同皿類	五七	四二	二八	二八
同鍋類	三	二	一三	一
計	九二	七二	七九	五九

五、人工甘味質ヲ檢出スル飲食物類調

品名	昭和十年		昭和十一年	
	検査數	人工甘味質檢出數	検査數	人工甘味質檢出數
蒲鉾類	二五七	五	三五五	一六
アイスキャンデー	一一	二	三五	三
果實水	二四九	六	五〇	四
アイスクリーム	二二	一	一四	二

三三



砂糖水入ゴム球 氷水用甘味水 醬油 漬物類 ソラス	昭和九年度		昭和十年度		昭和十一年度	
	採收製造業者者	採收若ハ製造量	採收製造業者者	採收若ハ製造量	採收製造業者者	採收若ハ製造量
合計	八八三	三〇九	四〇	一一一	六四九	一九三
	二	一	二	一	二	一
	七	二五	一	一三	一四五	三六
	一	七	一	一	一	一

六、氷雪採收製造業者者數及採收製造量調 (單位斤)

種別	昭和九年度		昭和十年度		昭和十一年度	
	採收製造業者者	採收若ハ製造量	採收製造業者者	採收若ハ製造量	採收製造業者者	採收若ハ製造量
人造氷	二	10,795,101	三〇	11,975,536	三〇	16,841,356
天然氷	四二	10,587,733	四三	10,811,633	四〇	11,777,638
計	四四	21,382,834	七三	22,787,169	七〇	28,618,994
	六	1,000	一	110	一	1,000
	六	1,000	一	110	一	1,000

第三節 屠畜及乳肉

第一、屠場及屠畜ノ狀況

屠場數ハ現在十一ヶ所ニシテ、屠畜數ハ近年食肉ノ普及盛ナルニ從ヒ漸次増加ノ傾向ニシテ、昭和十一年ノ屠畜數ハ一萬六

千三百九十四頭ニシテ、大正ノ末期五ヶ年平均九千七百三十一頭ニ比スレバ六千六百六十三頭ノ増加ナリ。  
屠場ノ構造設備モ昭和四年古川屠場ノ改築ヲ始メトシ各屠場改築ヲ行ヒ目下岩沼屠場ハ移轉改築中ナルニヨリ之ヲ以テ仙臺屠場ヲ除キ全部改築セラレ面目ヲ一新セラルル事ハ屠畜衛生上欣快トスル處ナリ。

(イ) 現在屠場表

屠場名	所在地	公私設別	設立許可年月	摘要
山下	牡鹿郡蛇田村	私	明治四十年五月	昭和八年十二月改築
佐沼	登米郡佐沼町	公	四十一年五月	昭和十二年六月改築
仙臺	仙臺市小田原	同	四十二年三月	大正十三年八月改築
角田	伊具郡角田町	同	四十二年六月	昭和九年八月改築
古川	志田郡古川町	同	四十二年十月	大正十三年十二月改築
岩沼	名取郡岩沼町	同	四十二年十一月	昭和十三年十一月改築
白石	刈田郡白石町	同	四十三年八月	昭和十年七月移轉改築
栗原	栗原郡築館町	同	四十四年八月	大正十四年七月移轉改築
岩出山	玉造郡岩出山町	私	大正元年八月	昭和七年十二月改築



大河原	榮田郡大河原町	公	大正九年八月	昭和七年十一月移轉新築
氣仙沼	本吉郡氣仙沼町	私	昭和十一年一月	昭和十年六月改築

(口) 屠畜數累年比較表 (每五ヶ年平均)

年次	牛	猪	綿羊	山羊	豚	馬
自明治三十九年至四十四年平均	六四二		〇		三八二七	六八〇
自正四十四年至同	一・二二五		二		四・九二二	四四〇
自同五年至同	七七一		一		七・一〇一	三四二
自昭和十四年至同	一・二二六	六九	一		八・〇五二	四五二
自昭和五年至同	一・二七八	三九	三二		八・七一〇	六四〇
自同十年至同	一・二五六	二四	七一		一二・二一七	四八四
昭和十一年	一・〇三〇	二四	五		一四・八九三	四四二

(ハ) 昭和十一年屠場別屠畜數表

屠場別	屠場内屠殺數						切迫屠殺數			
	牛	猪	綿羊	山羊	豚	馬	牛	猪	豚	馬
仙臺	九七三	二四			一、九六三	二〇三	一			一
岩沼					一、二五七					
大河原		五			一、一八八	〇				
角田					三七八	〇				
白石					一、四八三	〇				
山下(石巻)					二八二					
氣仙沼					五六三					
佐沼					一、六三三					
古川					三三三					
岩出山					七七一					
築館					一四、八九三					
計	一、〇四〇	二四	五		一四、八九三	四四三	二	一	八	三

(ニ) 昭和十一年自家用屠殺數表

警察署名	豚	綿羊	山羊	羊	計
仙臺署	三				三

署	鹽釜署	吉岡署	岩沼署	大河原署	亘理署	角田署	白石署	石巻署	飯野署	氣仙沼署	志津川署	登米署	佐沼署	浦谷署	古川署	中新田署	岩出山署	築館署	若柳署	
計	七四	七四	一一	一一	二二	一五	七四	六〇	九	一八	三	六	二二	一三	七一	一七	一二	三九	七一	三五
症							四	二	一											
症																				
計	四	四	一	一	二	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
百分率	七四	七四	一一	一一	二二	一五	七四	六四	九	一八	三	六	二二	一四	七一	一七	三三	七一	三五	三九

計	五七九	九	二	五九〇
---	-----	---	---	-----

第二、畜牛結核病豫防ノ狀況

明治三十四年四月公布ノ畜牛結核病豫防法ニ基キ明治三十六年七月ヨリ施行セルモノニシテ、施行當初ノ病牛率八九・六二%ノ高率ナリシガ検査ノ勵行ト當業者ノ自覺ニヨリ漸次減率シツ、アリ。

検査ハ毎年各郡市ニ於テ定期ニ一回宛施行スルノ外本病發生地及市街地ノ畜牛ヲ臨時ニ検査ヲ爲シ豫防撲滅ヲ期シツ、アリ

(イ) 畜牛結核病検査累年成績表

年	度	注射頭數	臨床頭數	計	疑	症	輕	症	重	症	計	百分率
自明治三十四年	同	六三〇	一、九六〇	二、五九〇	一四	二二	三	三	一三	一三	五・〇九	
至同三十五年	同	六七五	四、八〇三	五、四七八	四	二二	三	三	二八	二八	〇・五二	
至同三十六年	同	八二〇	二、八九二	三、七一一	六	三三	一	一	一九	一九	〇・五二	
至同三十七年	同	一、〇一八	一、九三三	二、九五〇	三	一〇	一	一	三	三	〇・八七	
至同三十八年	同	一、〇一〇	一、五七四	二、五八四	一八	四	一	一	三	三	〇・八三	
至同三十九年	同	一、四一七	一、四三九	二、八五六	三	九	一	一	三	三	一・〇八	
昭和七年	同	一、六八六	一、三三三	三、〇一	二七	五	一	一	三	三	一・〇六	
昭和八年	同	一、七三一	一、三〇七	三、〇三八	二	七	一	一	三	三	一・〇六	
同九年	同	一、七六一	一、二九九	三、〇五五	八	三	一	一	三	三	〇・六九	
同十年	同	一、七三六	一、二三三	二、九六九	四	三	一	一	三	三	〇・六二	
同十一年	同	一、六五三	一、三三	二、九八六	四	三	一	一	三	三	〇・六二	

(ロ) 昭和十一年度畜牛結核病検査成績表 (自昭和十一年四月三十一日 至同十二年三月三十一日)

郡市別	検査数		計	検査成績				
	ツベルクリン注射ヲ行ヒタ ルモノ	ツベルクリン注射ヲ行ハザ ルモノ		健康	疑症	軽症	重症	
仙臺市	五六四	一三七	七〇一	六八七	三	一一		
石巻市	六〇	二五	八五	八五				
刈田郡	六一	一九二	二五三	二五三				
柴田郡	五九	九二	一五一	一五一				
伊具郡	二九	八八	一一七	一一七				
亘理郡	七	九九	一〇六	一〇六				
名取郡	七八	二九	一〇七	一〇七				
宮城郡	一九一	一三七	三二八	三二六	一			
黒川郡	一八	四〇	五八	五八				
加美郡	三六	三五	七一	七一				
志田郡	六五	三三	九八	九八				
玉造郡	四七	七四	一二一	一一九				
遠田郡	七七	七	八四	八四				
栗原郡	五五	七六	一二一	一二一				
登米郡	七二	二三	九五	九五				
計								

第三、牛乳

牛乳及搾取場ノ取締ハ明治三十三年四月内務省令第十五號牛乳營業取締規則及之ニ基キ細則ヲ制定セシガ、衛生上ノ施設完備ヲ期スル爲、大正九年細則ノ全部ヲ改正シ、更ニ昭和七年農乳取締ノ必要ヲ認メ其ノ一部ヲ改正セシガ、昭和八年十月内務省令第三十七號ヲ以テ牛乳營業取締規則改正公布セラレ、同九年五月一日ヨリ施行セラレシ爲、同年六月縣令第十一號ヲ以テ細則ヲ改正公布セリ。

(イ) 牛乳營業者數表 (昭和十一年末現在)

警察署名	牛乳搾取處理販賣業者數	牛乳搾取販賣業者數	牛乳處理販賣業者數	牛乳販賣業者數
仙臺署	二六	四	五	二
鹽釜署	一〇			
吉岡署	二		一	
岩沼署	六			
大河原署	八	一		
計	一一二二	二、八七五	四	一四

備考 九年以降營業者ハ規則改正ニツキ別表参照セラレタシ

年次	全						乳	
	搾取營業者	請賣營業者	搾取場	乳牛數	搾取量	販賣量		
昭和二年	114	113	111	652	1,033,758	964,740		
同三年	110	114	111	674	1,046,445	941,819		
同四年	110	114	113	671	1,045,758	941,182		
同五年	114	113	116	722	1,256,873	1,131,166		
同六年	115	113	116	718	1,257,911	1,131,166		
同七年	115	113	117	993	2,000,636	1,873,311		
同八年	115	113	117	948	2,113,500	1,943,433		
同九年	111	110	112	1,023	2,111,168	2,139,727		
同十年	116	112	120	1,196	2,500,336	2,206,811		
同十一年	113	113	116	1,102	2,640,048	2,558,856		

(口) 最近十ヶ年牛乳表

年次	互理署	角田署	白石署	石巻署	飯野川署	氣仙沼署	志津川署	登米署	佐沼署	涌谷署	古川署	中新田署	岩出山署	築館署	若柳署	計	昭和九年	同十年
	1	4	3	6	4	4	5	4	8	8	5	3	6	6	6	135	137	136
																	19	27
																	10	11
																	11	11
																	3	3
																	10	11

(ハ) 牛乳處理場改造狀況 (昭和十二年四月三十日現在)

昭和八年十月内務省令牛乳營業取締規則改正ノ結果従前ノ處理場ニシテ規定ノ構造設備ニ抵觸スルモノハ昭和十二年四月三十日迄即チ三ヶ年間ノ猶豫期間内ニ改造スルコト、ナリタルガ其ノ狀況左ノ如シ。

警察署名	改正前處理數	改造完了セルモノ	同完了セザルモノ	未完了		備考
				販賣業ニ轉ジタルモノ	願中ノモノ	
仙臺署	二七	九	一八	一五	—	販賣業ニ轉ジタルモノハ共同處理場ヲ利用ス
鹽釜署	一〇	一	二	—	—	
吉岡署	三	—	—	—	—	販賣業ニ轉ジタルモノハ共同シテ處理場ヲ經營ス
岩沼署	六	—	—	—	—	
大河原署	八	—	—	—	—	
亙理署	一	—	—	—	—	
角田署	四	—	—	—	—	
白石署	四	—	—	—	—	
石巻署	一五	—	—	—	—	
飯野署	四	—	—	—	—	
氣仙沼署	七	—	—	—	—	
志津川署	三	—	—	—	—	
登米署	六	—	—	—	—	

佐沼署	涌谷署	古川署	中新田署	岩出山署	築館署	若柳署	計
二	八	九	五	四	六	五	一三七
二	七	七	五	三	五	四	九七
〇	一	二	〇	一	一	一	四〇
—	—	—	—	—	—	—	二
—	—	—	—	—	—	—	八
—	—	—	—	—	—	—	一

摘要

仙臺市ニ於ケル處理營業者中二十三名ハ商業組合法ニ依リ共同シテ低溫殺菌法ニヨル共同處理場ヲ設置シタルノ外組合員ニ非ザル二名モ亦同様ノ設備ヲナシタルヲ以テ現在仙臺市ニ供給セラル、牛乳ハ低溫及高溫殺菌ノ方法ニヨルモノナリ。尙仙臺市以外ニ供給サル、牛乳ハ全部高溫殺菌法ニヨルモノナリ。

第四節 牡蠣ノ取締並改善

牡蠣ノ取締改善ニ就テハ、昭和八年三月縣令第十七號ヲ以テ牡蠣營業取締規則ヲ制定シ、販賣ヲ目的トスル食用牡蠣ノ採取又ハ剥身ニ關スル營業ヲ許可制トナシ、取扱場所ノ制限及剥身作業場、牡蠣貯藏場、厠等ノ構造ニ制限ヲ加ヘ、安全性ノ確保ヲ期シ、更ニ剥身作業ノ従業者ハ年々營業者ヨリ届出ヲ爲サシメ、之ニ對シ「チフス」豫防注射並ニ檢便ヲ施行シツ、アリ尙剥身牡蠣ノ請賣營業者ニ對シテモ貯藏場所ノ設備、洗滌、容器其ノ他ノ制限ヲ加ヘ萬全ヲ期シツ、アリ。昨年末現在ニ於ケル剥身處理場並ニ従業員數次表ノ如シ。

牡蠣剝身處理場及従業員數表 (昭和十一年末現在)

市町村名	剝身處理場數	従業員數	昭和十一年度					市町村名	剝身處理場數	従業員數	
			桃	生	宮	城	郡				
石卷市	一	八一	十五	大川	野蒜	宮戸	宮戸	二	一	二	三八
本吉郡	六	三〇〇	野蒜	大川	野蒜	宮戸	宮戸	二	一	二	八八
鹿折村	二	五〇	野蒜	大川	野蒜	宮戸	宮戸	二	一	二	八八
松岩村	二	五〇	野蒜	大川	野蒜	宮戸	宮戸	二	一	二	八八
唐桑村	五	八二	野蒜	大川	野蒜	宮戸	宮戸	二	一	二	八八
大島村	一	四一	野蒜	大川	野蒜	宮戸	宮戸	二	一	二	八八
志津川町	一	一三	野蒜	大川	野蒜	宮戸	宮戸	二	一	二	八八
戸倉村	一	一	野蒜	大川	野蒜	宮戸	宮戸	二	一	二	八八
牡鹿郡	一	六八	野蒜	大川	野蒜	宮戸	宮戸	二	一	二	八八
渡波町	一	二〇〇	野蒜	大川	野蒜	宮戸	宮戸	二	一	二	八八
女川町	一	六八	野蒜	大川	野蒜	宮戸	宮戸	二	一	二	八八
稻井村	一	六〇	野蒜	大川	野蒜	宮戸	宮戸	二	一	二	八八
荻濱村	一	三七	野蒜	大川	野蒜	宮戸	宮戸	二	一	二	八八
大原村	一	二八	野蒜	大川	野蒜	宮戸	宮戸	二	一	二	八八
合計			二、九三三					五一	一		二、九三三

第五節 便所ノ改良  
第一、水槽便所ノ設置狀況

水槽便所ノ設置ハ昭和二年水槽便所取締規則ヲ縣令ニテ制定以來逐年増加シ來リ、昭和十年度ニ於テ仙臺市ニ二十ヶ所、昭和十一年度ニハ仙臺市ニ七ヶ所ノ増設アリテ、何レモ點滴濾過床式ナリ。

市町村別水槽便所設置數表 (各年度現在數)

市町村別	昭和十一年度		昭和十一年度
	昭和十一年度	昭和十一年度	
仙臺市	一	二	一、二二
石巻市	一	一	一、二二
鹽釜町	一	一	一、二二
鳴子町	一	一	一、二二
秋保村	一	一	一、二二
合計	一	二	一、二二

第二、改良便所ノ築造狀況

消化器系傳染病並寄生蟲感染ノ豫防ニハ尿管ノ合理的處理ノ意義重大ナルコト論ヲ待タサル所ナリ。

本縣ニ於テハ昭和二年末内務省考案ノ改良便所ノ築造ヲ開始シ爾來之カ普及ヲ奨勵シ、昭和十一年度末ニ於テハ合計二、四一〇個ノ築造ヲ見タリ。其分布狀況ハ各市郡ニ互レルモ之ヲ縣下總世帯數ニ對比スル時ハ其ノ築造率一・二〇%ニシテ猶一般化スルニ至ラザル現狀ナリ。

集團的築造ノ見ルヘキモノトシテハ

加美郡色麻村

一九九

本吉郡御岳村 一五二  
 桃生郡飯野川町馬鞍部落 五二

等アリ。

郡市別改良便所築造數表

郡市別	年別	昭和十一年度新築造數	自昭和九年既築造數		合	計
			至	同		
仙臺市		九	二	三	二	二四二
石巻市			一	六	二	六二
刈田郡			一	六	二	一六二
柴田郡		二	九	一	九	九三
伊具郡			二	三	三	二二
亙理郡			三	四	七	三四
名取郡			一	二	八	一三二
宮城郡		四	七	八	一	七八
黒川郡		一	七	〇	七	七一
加美郡		一	五	三	三	二六二
志田郡			一	五	三	一五三
玉造郡		六	八	九	九	九五
遠田郡		二	六	九	九	一三五
計			一〇	九	九	一三五

郡市別	年別	昭和十一年度新築造數	自昭和九年既築造數		合	計
			至	同		
栗原郡		二〇	一	五	一	一三五
登米郡		五	一	五	九	一六四
桃生郡			一	二	二	一二二
牡鹿郡			三	八	六	四〇
本吉郡		二	三	八	六	四〇七
計		九	五	九	五	二、四一〇

第六節 營養改善

營養ノ改善ハ國民保健上最モ緊要ナルヲ以テ昭和四年四月ヨリ専任技術者ヲ置キ之ガ改善指導ニ當ラシメタリ。之ガ施設ヲ各縣ニ重要視サル、ニ至リ、昭和十一年六月東北振興ノ一助トシテ國庫ヨリ營養改善費ノ交附アリ、技術者ノ増員ト共ニ一層縣民ノ營養改善施設ヲ擴張シ之ガ徹底ヲ續行ツ、ツ今日ニ至レリ。ソノ概況次ノ如シ。

第一、營養知識ノ普及

- 1、展覽會  
 衛生展覽會等ノ開催ニ際シ特ニ營養ニ關スル圖表模型並ニ實物標本ヲ作製陳列シ一般民衆ノ營養知識ノ向上ヲ計リタリ。  
 (第三章第七節附表參照)
- 2、講習會、講演會ノ開催及パンフレット、リーフレットノ配布  
 主トシテ婦人團體ニ講習ヲナシ營養調理ノ講習會ヲ開催シ一般ニ對シ「パンフレット」「リーフレット」等ヲ配布シ特ニ農村營養ニ留意シ之ガ講習ヲ爲シツ、アリ。之ガ開催成績ハ第三章第七節附表ノ如シ。



第二、榮養狀態ノ調査

縣下ノ生産食品ヲ郡市別ニ調査シ併セテ住民ノ榮養狀態、家庭ノ賄狀況等調査シ之ヲ改善ノ基本資料トス。

第三、實地指導

縣下ノ村落並ニ希望町村ニ於テ衛生改善會ヲ設立シ一般衛生狀態ノ改善指導ト共ニ榮養改善ノ實地指導ヲナシ長期ノ滞在指導ヲナスト共ニ工場、學校等ノ寄宿舎ノ賄ノ改善ヲナシツ、アリ。

實地指導ニアリテハ專任者ヲ現地ニ出張セシメ戸別ニ献立ノ作製、調理ノ實際指導ヲナスト共ニ一般榮養問題ノ相談ニ應ゼシメタリ。實地指導實施中ノモノ左記ノ通。

場	所	戸	數	人	員	備	考
遠田郡中津村上戸			五八		三四八	實	中
名取郡愛島村笠島南部落			三〇		二一五	同	

第七節 衛生思想ノ普及

衛生思想ノ普及ニ就テハ、衛生展覽會、活動寫真會、各種講演會、講習會、座談會、「パンフレット」「リーフレット」類ノ頒布等ニ依リ常時普及ニ努メツ、アル一方、結核豫防デー、其ノ他ノ特殊週間ノ催シニ依リ可及的民衆ノ啓發ニ努メツ、アリ就中衛生活動寫真等ハ傳染病豫防映畫ヲ主トシテ各町村巡回ヲ行ヒ最近ハ一ケ年二百ケ所近クノ開催ヲ見ツ、アリ。又大正十五年ヨリ開始セル家庭衛生講習會ハ農閑期ヲ選ビ、主トシテ農村婦人間ニ妊娠、育兒、看護法、急性傳染病ノ豫防方法及消毒法、救急處置等ニ就キ二日乃至三日間ノ講習ヲ行ヒ良好ナル成績ヲ擧ゲ居ル狀況ニシテ、之等ノ開催調次表ノ通りナリ。

最近十ヶ年展覽會、講習、講演、活動寫真會等開催調表

年別	衛生展覽會		家庭衛生講習會		榮養講習會		防疫講演會及座談會		防疫講習會		性病豫防講演會		活動寫真會	
	開催回数	參會人員	開催回数	參會人員	開催回数	參會人員	開催回数	參會人員	開催回数	參會人員	開催回数	參會人員	開催回数	參會人員
昭和二年	1	1	1	8,335	1	1	1	2,321	10	833	1	1	1	101,900
三年	1	1	1	10,638	1	1	1	11,008	9	880	1	1	1	109,610
四年	6	19,959	1	3,183	4	1,800	3	6,799	11	619	1	1	1	121,360
五年	5	19,185	1	1	11	1,080	4	1,458	5	208	1	1	1	125,280
六年	1	3,980	1	1	11	755	5	1,553	19	1,701	1	1	1	167,880
七年	1	180,000	1	160	10	1,275	6	3,593	7	225	3	500	1	135,280
八年	2	13,800	2	156	8	4,771	11	2,438	9	538	2	900	2	136,000
九年	2	11,100	10	1,194	27	1,815	18	4,711	7	533	3	1,311	3	195,210
十年	2	34,000	5	559	33	3,909	5	5,181	1	1	1	1	1	195,780
十一年	2	33,955	4	1,199	27	5,000	3	3,010	1	1	1	1	1	182,930
計	21	58,259	110	25,511	131	15,971	67	27,771	87	4,967	10	3,133	10	1,492,000

第八節 温

泉

本縣下ノ温泉ハ南方ニ秀峰藏王山、西方ニ花淵山、花房山ヲ隔テ、山形縣ニ接シ、北ハ栗駒山ヲ以テ岩手、秋田ノ兩縣ニ接シ、之等ノ秀峰ハ何レモ奔流ヲ其ノ間ニ狭ミ、且ツ風光明媚ノ地ニ多種多樣ノ泉質ヲ有スル温泉滾々トシテ湧出ス。南部柴田刈田ノ兩郡ニハ東北本線白石又ハ大河原驛ヨリ西方二十餘軒ノ地點ニ青根、峨々、遠刈田等ノ名湯在リ、又白石驛ヨリ八軒餘

ノ西方ニハ鎌先、小原ノ古湯アリ。仙臺市ノ近郷ニハ仙山鐵道沿線ノ作並温泉及電車ノ便アル秋保温泉等點在シ交通便ナリ。本縣西北部玉造郡ニハ間歇温泉ヲ以テ有名ナル鬼首、鳴子ノ兩温泉ヲ始メ、川渡、中山平ノ湯アリテ何レモ本郡内ノ温泉ハ湧出量豊富ニシテ、且ツ陸羽東線ノ沿線ナルヲ以テ交通至便ニシテ四季ノ浴客多シ。玉造郡ト隣接セル栗原郡ニハ栗駒山腹ニ温泉湯、湯濱、湯倉等ノ名温泉アリ。本縣内ニハ温泉浴場トシテ現ニ營業ヲ爲スモノ刈田、柴田、名取、宮城、玉造、栗原ノ六郡ニ跨リ六十餘ヶ處アリ。

(イ) 縣下鑛泉泉質分類表

郡別	鑛泉所在地	泉質							計
		單純泉	食鹽泉	苦味泉	アルカ	硫黃泉	酸性泉	炭酸泉	
刈田郡	小原温泉、鎌先温泉、遠刈田温泉	二	六	二					一〇
柴田郡	峨々温泉、青根温泉、秋保温泉	一	二						三
名取郡	作並温泉、定義温泉		三	一					四
宮城郡	川渡温泉、鳴子温泉、中山平温泉、鬼首温泉、胸ノ湯温泉、湯湯温泉		七						四
玉造郡		一	五						六
栗原郡			三						五
計		一八	二三	三	七	九	三	二	六六

(ロ) 温泉浴客數調査表 (一ヶ年延人員)

所在地	温泉名	昭和十年浴客數		昭和十一年浴客數	
		男	女	男	女
刈田郡	小原村	八、六九四	五、一七九	一三、八七三	五、九〇八
刈田郡	福岡村	三、二〇八	二、三九二	五、八六〇	四、〇八一
刈田郡	宮村	二、〇〇八	一九一三	四、〇一一	三、〇九二
刈田郡	川崎村	一〇、九五〇	九、四四六	二〇、三九六	一、八一三
柴田郡	青根温泉	四、九〇九	二、六八六	七、五五五	五、二六〇
名取郡	峨々温泉	一〇、一三三	九、九一〇	二〇、〇三三	一〇、七五三
宮城郡	秋保温泉	一六、〇〇四	一五、八二八	三二、八三三	四、二五九
宮城郡	作並温泉	九、二五八	二、八六〇	一二、一一八	二、四〇七
宮城郡	定義温泉	五、九〇九	四、八三五	一〇、九五四	七、〇六一
玉造郡	鳴子温泉	一三、三三三	九、一八八	二二、四四〇	一五、四四四
玉造郡	川渡温泉	四、〇五八	二、二九八	六、三五六	五、二五四
玉造郡	鬼首温泉	六、八九一	三、一九六	一〇、〇八七	七、九〇七
栗原郡	湯濱、湯倉温泉	一、九四二	一、四三二	三、四一五	一、八〇三
計		一〇、四二四	一、四三二	二、四八七	一、二六九

(ハ) 縣下主要温泉一覽表

温泉名	泉質	効能	所在地	交通	旅館數
鎌先温泉	アルカリ性食鹽泉	婦人病、腺病、皮膚病、神經痛、リウマチス、殊ニ創傷	刈田郡福岡村	東北本縣白石驛ヨリ二里八町(自動車)	四
小原温泉	單純泉、鹽類泉	疝氣、痔疾、神經系諸病、婦人病、火傷、挫傷、金創、胃腸病、殊ニ眼病	小原村	同 二里十町(自動車)	四
小原鎌倉温泉	同	同	同	小原温泉ヨリ約半里	一

遠刈田温泉	炭酸含有弱鹽類泉	外傷性障害、リウマチス、濕疹、神經、脊髄、皮膚、婦人病	同	宮村	東北本縣白石驛ヨリ五里十五町(自動車)同大河原驛ヨリ六里十九町(自動車軌道)	一
峨々温泉	鹽類泉	胃腸病、腦病、呼吸器病、リウマチス、神經痛、痔疾、痲病、婦人病、皮膚病	同	柴田郡川崎村	遠刈田温泉ヨリ二里十九町(徒歩)	一
青根温泉	單純泉、鹽類泉	リウマチス、痛風、腦病、肋膜炎、神經、婦人、貧血、皮膚、眼病、濕疹	同	同	同	四
秋保温泉	弱鹽類泉	外傷性諸障害、リウマチス、濕疹、神經系諸病、脊髄、婦人病	同	名取郡秋保村	同	四
作並温泉	鹽類泉	胃腸病、痲氣、氣管支炎、脊髄、脚氣、リウマチス、皮膚、婦人病、創傷	同	宮城郡廣瀬村	仙山東線作並驛ヨリ自	三
定義温泉	同	頭痛、婦人病、微毒、眼疾、殊ニ精神病者ノ保養	同	大澤村	仙山東線白澤驛ヨリ自	一
川渡温泉	硫酸泉、鹽類泉	皮膚病、胃腸病、婦人病、リウマチス、特ニ脚氣	同	玉造郡川渡村	陸羽東線川渡驛ヨリ十	六
鳴子温泉	酸性泉、アルカリ泉、硫酸泉、鹽類泉	慢性胃カタル、微毒性潰瘍疥癬、皮膚病、婦人病、リウマチス、神經痛	同	鳴子町	陸羽東線鳴子驛二、三町以内	一六
赤湯	アルカリ泉、鹽類泉、單純泉	リウマチス、濕疹、婦人病、胃腸病、外傷性障害、咽喉及氣管支カタル、皮膚病	同	川渡村	同	八
鳴子	單純泉	外傷性障害、リウマチス、濕疹、神經痛、ヒステリー、婦人病	同	鳴子町	同	二
新湯	鹽類泉	皮膚病、リウマチス、創傷	同	同	同	一
噴湯	弱硫酸泉	皮膚病、胃腸病、リウマチス、神經痛、婦人病	同	同	同	三
白洲湯	同	同	同	同	同	一
神流湯	弱鹽類泉	外傷性障害、リウマチス、濕疹、ヒステリー、婦人病、脚氣、腺病質	同	鬼首村	鳴子驛ヨリ二里餘(冬期ヲ除キ自動車)	一
神荒湯	硫酸泉	氣管支炎、腺腫、子宮病、脚氣	同	同	同	一
鬼首	硫酸泉	同	同	同	同	一

溫泉	宮澤溫泉	鹽類泉	除病質	同	同	同	三
	轟溫泉	單純泉	外傷性傷害、リウマチス、濕疹、ヒステリー、脊髄病、半身不隨、婦人生殖器病、眼病、胃腸病	同	同	同	二

備考 1、本表ハ昭和十二年六月現在  
2、所在位置ハ巻頭縣圖參照  
3、本表掲載ノ外栗原郡ニ駒の湯、温湯、湯の倉等(硫酸泉、食鹽泉)アリ

第九節 海水浴場並山嶽

本縣ニ於ケル登山ニ適スル山嶽並海水場等ノ概況左ノ如シ。

(イ) 海水浴場調査表

名	稱	所在地	利用範圍	里程
(一)	高蒲田海水浴場	宮城郡七ヶ濱村高蒲田字長須賀	仙臺ニ近キ爲盛ニ利用セラ	仙臺ヨリ約四里 鹽釜町ヨリ浴場マデ約一里
(二)	桂島海水浴場	宮城郡浦戸村字桂島	學生團體及一般避暑客ノ滞在宿泊又ハ間借等ヲナシ利用スルモノ多シ	鹽釜町ヨリ海上四里八分
(三)	石巻長濱海水浴場	牡鹿郡石巻町湊長濱	盛夏一日平均七百内外ノ浴客アリ	石巻驛ヨリ十八町
(四)	大谷海水浴場	本吉郡大谷村	學生團體及一般ノ避暑浴客アリ	氣仙沼ヨリ約三里
(五)	渡波海水浴場	牡鹿郡渡波町	盛夏一日平均三百内外ノ浴客アリ	石巻町ヨリ渡波町間一里二十町

(六) 代ヶ崎海水浴場	宮城郡七ヶ濱村代ヶ崎西濱	鹽釜灣口ニ在ルモ比較的利用者少ナシ	鹽釜町ヨリ水路ニ漕舟ノ便アリ
(七) 磯濱海水浴場	亙理郡坂元村字磯濱		常盤線坂元驛ヨリ約二十町
(八) 野蒜海水浴場	桃生郡野蒜村	シ 電鐵ノ便アル爲避暑浴客多	宮城電鐵東北須磨ヨリ浴場マデ二町

(ロ) 山嶽調査表

名	稱	所	在	地	海	拔	標	高	登	山	ニ	適	ス	ル	時	季	登	山	里	程
(一)	藏王山及熊野岳	刈田郡宮村、柴田郡川崎村及山形縣南村山郡堀田村ニ跨ル	(縣ノ南方山形縣境)		藏王山一、七五九、〇軒 熊野嶽一、八〇〇、八軒 (六、七五尺)				自七月中旬至十月下旬 陰曆十月八日止メ山ト稱 シ登年夏期ニ至ル間登山ヲ禁止セリ	遠刈田ヨリ五里上迄四里二十町登山ヨリ三里十六町登山 青根ヨリ三時間 四時間下山三時間										
(二)	栗駒嶽	栗原郡栗駒村 縣ノ北方岩手、秋田三縣ニ跨ル			一、六二七、七軒 (五、四八尺)				自七月下旬 至八月上旬	登山口ヨリ頂上マデ七里登山八時間下山約五時間										
(三)	泉ヶ嶽 (一名嶽山)	宮城郡根白石村福岡			一、一七三、〇軒 (三、八二尺)				自五月初旬至十月末日 九、十月ヲ最好トス	登山口福岡小學校ヨリ山頂マデ約三里登山五時間下山三時間										
(四)	金華山	牡鹿郡鮎川村			四、四〇、九軒 (一、四六八尺)				一年中三月ヨリ五月マデ 七月ヨリ十月マデヲ好適トス	山頂マデ一里登山一時間										
(五)	船形山	山形縣境 加美郡色麻村			一、五〇〇、二軒 (四、九二尺)				九月頃	登山口ヨリ四里登山五時間 下山ハ山形縣銀山温泉ニ出 ヅルヲ常トス										

第三章 豫防衛生

### 第三章 豫防衛生

#### 第一節 結核

##### 第一、概説

日本帝國統計年鑑ニ依ルニ昭和十年ニ於ケル我が國結核總死亡數ハ一三二、一五一人ニシテ其ノ死亡順位ハ第一位ニアリ。尙ホ呼吸器ノ結核死亡數ノミヲ觀ルモ腦出血、腦栓塞及腦血栓、肺炎ニ次ギ第三位ナリ。本縣ニ於テハ下痢、腸炎及腸潰瘍、肺炎、腦出血、腦栓塞及腦血栓等ニ次ギ第四位ニシテ概シテ本縣ノ結核死亡者ハ全國平均ニ比シ低率ナリ。

最近五ケ年ニ於ケル本縣結核死亡ト全國平均トノ比較 (人口一萬ニ付キ)

年次	區分	
	全結核	呼吸器ノ結核
昭和六年	全結核 一三、〇九〇 肺結核 九、〇七二	全結核 一三、〇九〇 呼吸器ノ結核 九、〇七二
昭和七年	全結核 一三、四四七 肺結核 九、二一九	全結核 一三、四四七 呼吸器ノ結核 九、二一九
昭和八年	全結核 一三、〇一九 呼吸器ノ結核 九、四三二	全結核 一三、〇一九 呼吸器ノ結核 九、四三二
昭和九年	全結核 一四、三三六 呼吸器ノ結核 九、七四四	全結核 一四、三三六 呼吸器ノ結核 九、七四四
昭和十年	全結核 一三、七七八 呼吸器ノ結核 九、四四二	全結核 一三、七七八 呼吸器ノ結核 九、四四二
本縣	一三、〇九〇	九、〇七二
全國平均	一八、〇六四	一三、〇六四

##### 第二、結核死亡累年比較

本縣最近二十ケ年ノ結核死亡ヲ見ルニ、後半ハ前半ニ比シ減少ノ状態ニシテ人口一萬ニ付平均三・二人ノ減少ヲ示ス。而シテ全國平均ニ比スルニ大正五年ニ於テハ人口一萬ニ付キ全國ノ結核死亡二二・一人ニ對シ本縣一九・〇ニシテ三・一少ナク、昭和十年ハ全國一九・一人ニ對シ本縣一三・八ニシテ五・三ノ減少ニシテ概シテ本縣ノ結核死亡ハ漸次減少セルヲ思ハシム。

本縣最近二十ヶ年結核死亡累年表 (衛生局年報ニ依ル)

年次	細別	肺結核死亡	其他ノ結核死亡	全結核死亡	全結核死亡ノ 總死亡對百	人口一萬ニ對スル結核死亡	
						本縣	全國
大正五年		1,108	500	1,808	8.36	19.0	111.1
大正六年		1,141	534	1,776	8.71	18.5	111.1
大正七年		1,411	545	1,957	7.67	20.2	115.3
大正八年		1,341	496	1,837	7.72	19.6	115.3
大正九年		1,060	450	1,510	6.05	15.7	113.4
大正十年		1,118	486	1,604	7.35	16.6	113.3
大正十一年		1,113	516	1,629	7.02	16.7	113.7
大正十二年		1,068	505	1,573	6.78	16.0	110.1
大正十三年		897	481	1,378	6.15	13.9	109.3
大正十四年		997	471	1,468	6.33	14.0	109.4
大正十五年		957	478	1,435	6.76	13.5	108.7
昭和元年		1,049	505	1,554	6.88	14.4	109.5
昭和二年		1,060	475	1,535	6.95	13.8	109.2
昭和三年		1,060	540	1,600	7.00	14.4	109.7
昭和四年		1,066	540	1,606	7.00	14.4	109.7
昭和五年		1,035	495	1,530	7.24	13.4	108.6
昭和六年		1,135	480	1,615	7.91	13.9	108.6
昭和七年		1,098	494	1,592	7.80	13.5	108.0

昭和八年	昭和九年	昭和十年	平均
1,131	1,189	1,162	1,160
442	567	559	500
1,573	1,756	1,721	1,611
7.52	8.00	6.66	7.34
13.1	14.4	13.8	13.4
108.8	109.4	109.2	109.4

第三、年齢別結核死亡

昭和八年及九年ニ於ケル本縣結核死亡者ハ別表ノ如ク呼吸器結核ハ二〇一二年ニ於テ最モ多ク、一〇一一年之ニ次ギ三〇一三年、四〇一四年順次之ニ亞ギ五〇年以上ニ於テハ少ナシ。

本縣最近二ヶ年ニ於ケル結核ノ年齢階級別死亡表

年次	種別	性別		0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60以上	計
		男	女								
昭和八年	呼吸器ノ結核	男	33	105	141	105	53	52	38	61	315
		女	35	154	165	69	58	24	11	51	326
昭和八年	其他ノ結核	男	45	62	77	19	17	8	3	3	131
		女	27	90	47	23	13	5	6	3	121
全結核	呼吸器ノ結核	男	78	152	218	124	70	60	41	64	546
		女	62	248	306	92	71	28	17	54	542
全結核	其他ノ結核	男	72	109	124	42	30	13	6	3	221
		女	54	154	194	62	30	13	9	6	221

年	昭和		和		全 結 核
	呼吸器ノ結核	其ノ他ノ結核	女	男	
昭和二年	30	111	240	71	60
昭和三年	33	161	183	99	71
昭和四年	35	211	199	99	71
昭和五年	38	261	240	107	72
昭和六年	40	311	270	116	73
昭和七年	42	361	280	125	74
昭和八年	45	411	290	134	75
昭和九年	48	461	300	143	76
昭和十年	50	511	310	152	77
昭和十一年	52	561	320	161	78
昭和十二年	55	611	330	170	79
昭和十三年	58	661	340	179	80
昭和十四年	60	711	350	188	81
昭和十五年	62	761	360	197	82
昭和十六年	65	811	370	206	83
昭和十七年	68	861	380	215	84
昭和十八年	70	911	390	224	85
昭和十九年	72	961	400	233	86
昭和二十年	75	1011	410	242	87
昭和二十一年	78	1061	420	251	88
昭和二十二年	80	1111	430	260	89
昭和二十三年	82	1161	440	269	90
昭和二十四年	85	1211	450	278	91
昭和二十五年	88	1261	460	287	92
昭和二十六年	90	1311	470	296	93
昭和二十七年	92	1361	480	305	94
昭和二十八年	95	1411	490	314	95
昭和二十九年	98	1461	500	323	96
昭和三十年	100	1511	510	332	97

第四、市部及郡部ノ結核死亡

大正十四年以降十ヶ年平均ノ結核死亡ヲ仙臺市ト其ノ他ノ郡市部ニ就キ見ルニ、全結核ノ約三分ノ一ハ仙臺市之ヲ占メ、他市町村ヨリ著シク多ク總死亡千ニ對スル割合ハ仙臺市一五七・七、其ノ他ノ郡市部五九・五ニシテ約三倍ニ上ル。仙臺市ニ於テハ肺結核死亡ノ漸次増加ノ傾向アルハ注意ヲ要スベキ事ナリ。

仙臺市(人口約二十二萬)ト其ノ他ノ市町村ノ結核死亡比較表

年次	仙臺市		其ノ他ノ市町村		全 結 核	總死亡千ニ對スル 結核死亡
	肺結核	其ノ他ノ結核	肺結核	其ノ他ノ結核		
大正十四年	233	111	100	121	354	1,280
大正十五年	254	121	110	131	395	1,480
昭和元年	275	131	120	141	436	1,680
昭和二年	296	141	130	151	477	1,880
昭和三年	317	151	140	161	518	2,080
昭和四年	338	161	150	171	559	2,280
昭和五年	359	171	160	181	600	2,480
昭和六年	380	181	170	191	641	2,680
昭和七年	401	191	180	201	682	2,880
昭和八年	422	201	190	211	723	3,080
昭和九年	443	211	200	221	764	3,280
昭和十年	464	221	210	231	805	3,480
昭和十一年	485	231	220	241	846	3,680
昭和十二年	506	241	230	251	887	3,880
昭和十三年	527	251	240	261	928	4,080
昭和十四年	548	261	250	271	969	4,280
昭和十五年	569	271	260	281	1,010	4,480
昭和十六年	590	281	270	291	1,051	4,680
昭和十七年	611	291	280	301	1,092	4,880
昭和十八年	632	301	290	311	1,133	5,080
昭和十九年	653	311	300	321	1,174	5,280
昭和二十年	674	321	310	331	1,215	5,480
昭和二十一年	695	331	320	341	1,256	5,680
昭和二十二年	716	341	330	351	1,297	5,880
昭和二十三年	737	351	340	361	1,338	6,080
昭和二十四年	758	361	350	371	1,379	6,280
昭和二十五年	779	371	360	381	1,420	6,480
昭和二十六年	800	381	370	391	1,461	6,680
昭和二十七年	821	391	380	401	1,502	6,880
昭和二十八年	842	401	390	411	1,543	7,080
昭和二十九年	863	411	400	421	1,584	7,280
昭和三十年	884	421	410	431	1,625	7,480

年次	仙臺市		其ノ他ノ市町村		全 結 核	總死亡千ニ對スル 結核死亡
	肺結核	其ノ他ノ結核	肺結核	其ノ他ノ結核		
昭和二年	30	111	240	71	60	
昭和三年	33	161	183	99	71	
昭和四年	35	211	199	99	71	
昭和五年	38	261	240	107	72	
昭和六年	40	311	270	116	73	
昭和七年	42	361	280	125	74	
昭和八年	45	411	290	134	75	
昭和九年	48	461	300	143	76	
昭和十年	50	511	310	152	77	
昭和十一年	52	561	320	161	78	
昭和十二年	55	611	330	170	79	
昭和十三年	58	661	340	179	80	
昭和十四年	60	711	350	188	81	
昭和十五年	62	761	360	197	82	
昭和十六年	65	811	370	206	83	
昭和十七年	68	861	380	215	84	
昭和十八年	70	911	390	224	85	
昭和十九年	72	961	400	233	86	
昭和二十年	75	1011	410	242	87	
昭和二十一年	78	1061	420	251	88	
昭和二十二年	80	1111	430	260	89	
昭和二十三年	82	1161	440	269	90	
昭和二十四年	85	1211	450	278	91	
昭和二十五年	88	1261	460	287	92	
昭和二十六年	90	1311	470	296	93	
昭和二十七年	92	1361	480	305	94	
昭和二十八年	95	1411	490	314	95	
昭和二十九年	98	1461	500	323	96	
昭和三十年	100	1511	510	332	97	

備考 昭和八年以後ノ肺結核欄ハ呼吸器結核死亡ナリ

第五、結核患者收容機關

昭和十年本縣ニ於ケル結核死亡者一、七〇一名ニ對シテ結核療養所ノ患者收容定員八一三一名ナルモ、全國ノ結核死亡一三二、一五一名ニ對スル結核療養所ノ患者收容定員七、六三八名ニ比スレバ、本縣ノ結核患者收容機關ハ全國ニ比シ稍々擴充セラレタルヲ認ム。

(イ) 結核患者收容機關調査表 (昭和十二年五月一日現在)

區分	結核患者收容定員	現在收容患者數		備考
		無料患者	有料患者	
結核療養所 (結核病院ヲ含ム)	二	一四七	七五	
結核病院ヲ有スル病院	三	一一七	一五	
結核病床ヲ有スル病院	二〇	一四九	八四	
計	二五	四一三	一九二	

備考

- 一、結核療養所ノ無料患者ハ向山療養所ニ於ケル縣市其他團體ヨリノ委託患者ナリ
- 二、結核病院ヲ有スル病院ノ無料患者ハ東北帝國大學附屬醫院十二名、小塚内科二名、日赤支部病院一名ナリ
- 三、結核病床ヲ有スル診療院ノ無料患者ハ日赤支部病院ノ九名、公立病院縣委託患者二名、開業醫一名ナリ

(ロ) 結核病院(結核療養所ヲ含ム)收容患者表 昭和十一年

經營者別	名稱	所在地	患者收容人員數	患者數				入院患者數
				前年	本年入院	退院	在院死亡	
仙臺市	西多賀療養所	仙臺市	五〇	七八	六三	二六	三七	八、四八七
	鈎取字紅堂	紅堂	※	七	一四	一四	二七	二、六六九

私立	財團法人 向山療養所	仙臺市長町宮澤	計	果年		比較
				昭和十年	昭和九年	
			九七	七二	一七六	一九、六六一
			※	三三	三八	八、六三四
			※	三三	一〇九	二、六三八
			※	二五	一〇九	一、四〇五
			※	二五	一〇九	一、四〇五
			※	二五	一〇九	一、四〇五

備考 ※印ハ自費患者數ヲ示ス

第六、接客業者健康診斷成績

結核豫防法ニ基キ施行シタル健康診斷成績表 (自昭和七年(至昭和十一年))

年次	性別	健康診斷ヲ施行シタル人員	患者ト決定シタル人員	從業禁止人員	受診者千ニ付キ患者數	本縣全
昭和七年	計	九、九九六	七	六	〇・三九	〇・三一
	男	一〇、二九八	一	一		
昭和八年	計	二〇、二九四	八	七	〇・三九	〇・三一
	男	一一、四九七	四	四		
昭和九年	計	二六、九一一	六	六	〇・二二	〇・三一
	男	一四、四一四	二	二		
昭和十年	計	二六、九一一	六	六	〇・二二	〇・三一
	男	一四、四一四	二	二		
昭和十一年	計	二六、九一一	六	六	〇・二二	〇・三一
	男	一四、四一四	二	二		



昭和十一年	昭和十年		計	
	計	女		男
計	二六、〇三八	一三、五九三	一二、四四五	二七、七四八
七	四	三	三	三
七	四	三	三	二
〇・二七				〇・一一
				〇・三一

六四

第七、日本放送協會納付金ニ依ル結核豫防施設

日本放送協會納付金ニ依ル結核豫防施設ハ結核患者ノ救療及健康相談ナリ。

一、救療

結核患者ノ救療ニ關シテハ昭和七年六月救療規程ヲ公布シ同年七月ヨリ本縣住民ニシテ貧困ノ爲メ自ラ醫療ヲ受クルコト能ハザル結核患者ニ對シ入院治療及外來診療ヲ行ヒタルモ、昭和十年三月救療規程ノ一部ヲ改正シ外來診療ヲ廢止シ現在入院治療ノミヲ行ヒツ、アリ。

入院治療ハ當初仙臺市向山財團法人向山療養所ニ依託シ定員十五名ナリシモ昭和八年七月ヨリ十九名ニ更ニ昭和十年六月ヨリ之ヲ二十一名ニ増加シ、之ト同時ニ地方患者ノ便益ヲ計リ地方ノ病院（日赤石巻、登米、氣仙沼）ニ六名ノ患者ヲ依託シ現在二十七名ノ救療患者ヲ入院治療セシメツ、アリ。實施以來昭和十二年四月末日迄入院治療ヲ受ケタルモノ一九〇名、其ノ延人員二九、〇九九名ニ達セリ。

二、健康相談

昭和七年七月仙臺市縣廳構内ニ健康相談所ヲ開設シタルガ昭和八年四月仙臺市東三番丁ニ移轉シ「レントゲン」等ヲ設備シ毎日午前中其ノ相談ニ應ズルコトト爲シ又之ト同時ニ縣下ニ於テハ氣仙沼、登米、白石ノ三公立病院ニ委託シ毎日健康相談ニ應ジ居レリ。次デ昭和十一年五月健康相談所ハ現在ノ仙臺市勾當臺通七番地ニ移轉セリ。

(イ) 縣立健康相談所取扱結核患者表

年次	取扱患者數		同上		新患者ニ對スル結核患者%
	新患	再患	結核患者	其ノ他ノ疾患	
昭和七年	171	174	310	174	110・80
昭和八年	272	1,233	1,505	146	125・02
昭和九年	205	926	1,131	826	135・48
昭和十年	87	1,111	1,198	785	155・33
昭和十一年	1,740	1,561	3,301	1,111	166・26
計	4,393	5,158	9,551	3,777	155・41

備考 昭和七年七月開所ス

(ロ) 縣立健康相談所受診者病類別表 (昭和十一年)

性別	肺結核		喉頭		其ノ他		小計
	性陽菌	性陰菌	性陽菌	性陰菌	性陽菌	性陰菌	
性陽菌	1	0	0	0	0	0	1
性陰菌	0	0	0	0	0	0	0
計	1	0	0	0	0	0	1

六五

種別	相談		検査		巡回投薬				
	取扱内課	計	透視	血液	赤沈	尿	巡回員數	投薬件數	投薬劑數
昭和八年	八	一	一	一	一	一	一	一	一
昭和九年	一六〇	一	一〇六	一	一三	一〇〇	一	一〇	一〇
昭和十年	二九	一	二九	二	六三	二〇	一	七	八
計	一一一	一	一三六	一	一〇七	三二	二	一三	一八
男	一六	一	一七	一	二〇	一七	一	二二	二二
女	七	一	一七	一	三	一五	一	一一	一六

(ハ) 縣立健康相談所事業成績表 (昭和十一年)

種別	相談		検査		巡回投薬				
	取扱内課	計	透視	血液	赤沈	尿	巡回員數	投薬件數	投薬劑數
一月	六	一	六	一	一	一	一	一	一
二月	一〇七	一	一〇七	一	一	一	一	一	一
三月	二一八	一	二一八	一	一	一	一	一	一
四月	二二七	一	二二七	一	一	一	一	一	一
五月	二二五	一	二二五	一	一	一	一	一	一

(ニ) 三公立病院内健康相談取扱肺結核患者表

年次	種別	氣仙沼		登米		白石	
		健康相談ヲ受ケタル人員	肺結核患者	健康相談ヲ受ケタル人員	肺結核患者	健康相談ヲ受ケタル人員	肺結核患者
昭和八年	一五七	三	二	五	二	一	
昭和九年	九〇五	二七	一	三	二	一	
昭和十年	八八〇	一八七	一	三〇	五	七	
計	一、四七〇	三三三	一	五三	一〇	一七	
昭和八年	八九六	二、〇八七	一	三三	一	一	
昭和九年	九〇五	二、七七一	一	三三	一	一	
昭和十年	八八〇	二、〇一四	一	三三	一	一	
計	一、四七〇	三、〇八二	一	三三	一	一	
十一月	七九	二〇四	一	一	一	一	
十二月	一六八	三二六	一	一	一	一	
一月	二〇七	三六三	一	一	一	一	
二月	二二	二八	一	一	一	一	
三月	一五	二七	一	一	一	一	
四月	一八	三五	一	一	一	一	
五月	二一	三〇	一	一	一	一	
六月	二五	三九	一	一	一	一	
七月	二八	四二	一	一	一	一	
八月	三三	四九	一	一	一	一	
九月	三六	五三	一	一	一	一	
十月	四一	五九	一	一	一	一	
十一月	四六	六六	一	一	一	一	
十二月	五二	七三	一	一	一	一	
計	一、四七〇	一、五八一	一	一	一	一	

昭和九年	四四〇	七	一八	一四	三
昭和十年	一九三	二四	二一	七	二
昭和十一年	一三三	一七	三三	七	三
計	九二三	五一	七七	二三	

第二節 「トラホーム」並盲人調査

第一、「トラホーム」

本縣ノ「トラホーム」罹患者ハ依然全國中ノ高位ニ在リ、昭和二年以來十ヶ年平均ノ檢診成績ニテハ接客業者ニ於テ全國平均ノ五・三八%ニ對シ本縣ハ一三・八九%、一般住民ニテハ全國平均一・六五%ニ對シ本縣二七・一八%、壯丁豫備檢診ニ於テモ全國平均一・八〇%ニ比シ本縣ハ二七・九八%ニシテ何レモ全國平均ニ比シ二倍以上ノ状態ナリ。

(イ) 接客業者「トラホーム」檢診成績表

年次	性別	檢診人員	患者			百分率	全國平均百分率
			重患	輕患	疑者		
昭和二年	計	二、五三二	八二	二二五	九四	三九一	一五・四四
	女	三、七七一	一三七	三〇八	一三三	五四八	一四・五二
昭和三年	計	六、三〇四	一〇九	五三三	一〇九	九三九	一四・八九
	女	二、五二八	七	六九	一三四	二一〇	八・三〇
昭和四年	計	一、四三六	一	八八	四四	一三七	九・五四
	女	一、四三六	一	八八	四四	一三七	九・五四
昭和五年	計	九二二	一	四四	一七	六二	六・七三
	女	一、四三六	一	八八	四四	一三七	九・五四
昭和六年	計	二、三三七	二	一三三	六五	一九九	八・四四
	女	一、四三六	一	八八	四四	一三七	九・五四
昭和七年	計	一、四三六	一	四四	一七	六二	六・七三
	女	一、四三六	一	八八	四四	一三七	九・五四
昭和八年	計	一、四三六	一	四四	一七	六二	六・七三
	女	一、四三六	一	八八	四四	一三七	九・五四
昭和九年	計	一、四三六	一	四四	一七	六二	六・七三
	女	一、四三六	一	八八	四四	一三七	九・五四
昭和十年	計	一、四三六	一	四四	一七	六二	六・七三
	女	一、四三六	一	八八	四四	一三七	九・五四
昭和十一年	計	一、四三六	一	四四	一七	六二	六・七三
	女	一、四三六	一	八八	四四	一三七	九・五四

年次	性別	檢診人員	患者			百分率	全國平均百分率
			重患	輕患	疑者		
昭和四年	計	五、八九二	二	一三三	六五	一九九	八・四四
	女	一、四三六	一	八八	四四	一三七	九・五四
昭和五年	計	一、四三六	一	四四	一七	六二	六・七三
	女	一、四三六	一	八八	四四	一三七	九・五四
昭和六年	計	四、三八二	二	一三三	六五	一九九	八・四四
	女	一、四三六	一	八八	四四	一三七	九・五四
昭和七年	計	七、七一九	七	五五〇	二六九	八九六	一二・六〇
	女	一、四三六	一	八八	四四	一三七	九・五四
昭和八年	計	九、一五五	四	一、一九九	三〇七	一、五五〇	一六・九三
	女	一、四三六	一	八八	四四	一三七	九・五四
昭和九年	計	一、四三六	一	四四	一七	六二	六・七三
	女	一、四三六	一	八八	四四	一三七	九・五四
昭和十年	計	一、四三六	一	四四	一七	六二	六・七三
	女	一、四三六	一	八八	四四	一三七	九・五四
昭和十一年	計	一、四三六	一	四四	一七	六二	六・七三
	女	一、四三六	一	八八	四四	一三七	九・五四

計	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一
伊具	伊具	玉造	志田	遠田	仙臺	加美	壯鹿	石卷	登米	黒川	本吉	刈田	栗原	宮城	榮田	亘理	名取	桃生
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	市	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
七五三	六三〇	八三三	五一一	六四九	一〇二七	九二九	一五五九	九九九	八一五	六六〇	一二六三	一七四七	二四九二	一〇四七	二五四	一四六一	八〇七	二四、二八四
五	三	八	七	三	七	八	一	八	一	一	一〇	二九	四六	二二	二	三八	一三	二六八
三五	五一	七二	五〇	五〇	一〇五	八七	一五四	一三八	八七	九七	一九四	二五八	三五七	一六四	四〇	二三二	一四九	二、七八〇
一三	三	一	一	一	一〇	一七	一九	一三	三九	二二	三一	五二	一〇四	三九	一三	五七	二一	六四九
五三	五七	九二	五七	七二七	一一二	一一二	一九一	一五九	一三六	一一〇	二三五	三三九	五〇七	二二五	五五	三二七	一八三	三、六九七
七〇四	九〇五	一一〇四	一一〇七	一一二〇	一一八八	一二〇六	一一二五	一五九二	一六六九	一八六一	一九四〇	二〇三五	二〇三五	二一四九	二一六五	二二三八	二二七〇	一五、二二二

順位	郡市名	検査人員	昭和十一年		昭和十年		昭和九年	
			計	男	計	男	計	男
平均			計	男	計	男	計	男
百分率			二、二九	七、四四	二、五三	九、五六	二〇、五八	八、五七
重			二二七	七二	二四一	一五五	二五一	九二
輕			一、二七	七七五	二、四六	一、四二	二、五七	一、〇三
疑			四一九	二三五	六〇〇	三三七	八八	四七八
者			一、八二	一、〇八	三、三〇	一、七四	三、六四	一、四六
計			一、八二	一、〇八	三、三〇	一、七四	三、六四	一、四六
百分率			一三、八九	一七、三六	一五、三五	一四、三三	一七、七〇	一七、一一

(口) 郡市別接客業者「トラホーム」検査成績表 (昭和十一年度)

(ハ) 工場従業者「トラホーム」検診成績表

年次	性別	検診人員	患者			計	百分率	全國平均百分率
			重患	輕患	疑者			
昭和二年	計 女 男	六五六 二、三七 二、九七三	四 三 二	二九 一六二 一九〇	三一 一〇 一四一	六四 三〇八 三七二	九・七八 一三・二九 二二・五一	七・九二
昭和三年	計 女 男	一、二二九 二、六三八 三、八五七	三 三 三	三〇 四二 七二	七 一五 三三	一〇三 一九六 三〇三	八・七七 七・四二 七・八五	六・八五
昭和四年	計 女 男	二四 三二 四四	二 二 二	二 二 二	一〇 一〇 一〇	二 三 三	一・六一 一・五二 八・七六	六・七五
昭和五年	計 女 男	一、三三六 一、二四二	一 一 一	四 四 一	一 一 一	一四 一四 一〇	九・三三 九・七	六・七七
昭和六年	女 男	二、四二二	一 一 一	四 四 一	一 一 一	一四 一四 一〇	九・三三 九・七	六・七七

年次	性別	計	計 女 男	計 女 男	計 女 男	計 女 男	計	百分率	全國平均百分率	
										昭和七年
昭和八年	計 女 男	二、六五二	二、六五 二、八七 五五二	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一
昭和九年	計 女 男	一、七五	四、五三 六二八	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一
昭和十年	計 女 男	二、二二	三、八三 五九四	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一
昭和十一年	計 女 男	一、六一	三、二七 四八八	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一

平均	計		百分率	全國平均百分率
	女	男		
平均	計	女 男	百分率	全國平均百分率
	計	女 男	百分率	全國平均百分率
	計	女 男	百分率	全國平均百分率

(ニ) 一般住民「トラホーム」検診成績表

年次	性別	検診人員	患者				百分率	全國平均百分率
			重患	輕患	疑者	計		
昭和四年	計	四〇、九五〇	一、二四九	四、八六六	二、四三五	八、五五〇	二〇・八七	一〇・九〇
	女	一〇、五三五	二、六九一	一、三二五	四、八一一	二二・四三		
	男	一〇、四一五	二、一七五	一、一三〇	五、七三九	一八・三二		
昭和三年	計	一〇一、二二八	五、四〇三	一七、七三三	二四、一三六	三六・六三	二〇・七	
	女	五二、三八五	三、四七五	七、五九三	一一、一七九	四一・三二		
	男	五〇、八四三	一、九二八	六、七〇二	一六、一七五	二六・七三		
昭和二年	計	六四、七二二	三、二二八	八、三六〇	七、一三五	一八、六二二	二八・七七	一〇・七
	女	三三、五四九	一、九三三	四、七二六	三、八八八	一〇、五二七	三二・三一	
	男	三二、一七二	一、二九五	三、六三四	三、二九七	八、一〇六	二五・一九	
昭和五年	計	二二、五二二	四六二	二、六九〇	一、〇一五	四、一六七	一七・七一	一〇・九
	女	一三、三四九	七四六	三、五二四	一、一四五	五、四二五	二二・一九	
	男	一〇、一七三	一、九四四	六、二二四	二、一六〇	九、五八二	二〇・四四	
昭和六年	計	一一、三八〇	四二五	三、〇六一	四三一	二、四七三	二一・七三	
	女	六、八八九	二〇〇	一、七五七	四三八	一、九〇九	一七・七八	
	男	四、四九一	二二五	一、三〇四	九三五	四、五八四	二一・七三	
昭和七年	計	一〇、六九三	二九四	三、〇〇〇	八三七	四、二一一	二〇・三〇	一〇・七一
	女	五、六九三	一〇〇	一、七五七	四三八	二、四一五	二二・五八	
	男	四、九九〇	一九四	一、二四三	三八九	一、七九六	一八・一六	
昭和八年	計	一〇、九五八	二〇六	二、六七一	一、三五八	四、二三五	一八・三五	一〇・四八
	女	五、六〇二	七八	一、七〇五	八二六	二、四四七	二〇・六一	
	男	四、九八三	一二八	一、〇六六	五三二	一、八〇八	一六・三〇	
昭和九年	計	一〇、〇八三	一〇九	一、二五八	一、四六六	二、八五三	二八・二八	一〇・四〇
	女	五、六〇二	七八	一、七〇五	八二六	二、四四七	二〇・六一	
	男	四、四八三	三二	四九二	六三二	一、四〇六	二五・七六	

昭和五年	計	女 男	二二、五二二	四六二	二、六九〇	一、〇一五	四、一六七	一七・七一	一〇・九
	女	一三、三四九	七四六	三、五二四	一、一四五	五、四二五	二二・一九		
	男	一〇、一七三	一、九四四	六、二二四	二、一六〇	九、五八二	二〇・四四		
昭和六年	計	女 男	一一、三八〇	四二五	三、〇六一	四三一	二、四七三	二一・七三	
	女	六、八八九	二〇〇	一、七五七	四三八	一、九〇九	一七・七八		
	男	四、四九一	二二五	一、三〇四	九三五	四、五八四	二一・七三		
昭和七年	計	女 男	一〇、六九三	二九四	三、〇〇〇	八三七	四、二一一	二〇・三〇	一〇・七一
	女	五、六九三	一〇〇	一、七五七	四三八	二、四一五	二二・五八		
	男	四、九九〇	一九四	一、二四三	三八九	一、七九六	一八・一六		
昭和八年	計	女 男	一〇、九五八	二〇六	二、六七一	一、三五八	四、二三五	一八・三五	一〇・四八
	女	五、六〇二	七八	一、七〇五	八二六	二、四四七	二〇・六一		
	男	四、九八三	一二八	一、〇六六	五三二	一、八〇八	一六・三〇		
昭和九年	計	女 男	一〇、〇八三	一〇九	一、二五八	一、四六六	二、八五三	二八・二八	一〇・四〇
	女	五、六〇二	七八	一、七〇五	八二六	二、四四七	二〇・六一		
	男	四、四八三	三二	四九二	六三二	一、四〇六	二五・七六		

年次	検査人員	患		疑		計	百分率	全國平均百分率
		重	輕	疑	者			
昭和十年	計	九、八六九	三、九一	二、一〇七	七、二六	三、三三四	二六、九七	九、八四
昭和十一年	計	男	二、八四	二、二六一	八四七	三、四〇六	二六、八四	
		女	二、五、四三六	三、〇九四	一、〇一〇	四、六〇四	二九、八四	
平均	計	男	一、八六九	二、三九九	一、五五三	四、四三六	二五、七四	
		女	一、九二六	三、二〇六	一、八一九	五、八七八	三三、〇七	
百分率		三、七九五	一、三三七	五、六〇五	三、三七二	一〇、三三四	二七、一八	二一、六五

(ホ) 最近十ヶ年壯丁「トラホーム」豫備検査成績表

年次	検査人員	重	輕	疑	計	百分率	全國平均百分率
昭和七年	八、三五三	二九	一、二九三	八八七	二、二九八	二七、五一	二一、八四
昭和八年	七、八六八	八八	一、四三四	八四四	二、三六六	三〇、〇七	二一、三三
昭和九年	八、六七二	二七	一、二七九	一、二七六	二、七八二	三三、〇九	二二、八〇
昭和十年	八、七二八	二二	一、四八九	八八	二、四二八	二七、七〇	二一、三二
昭和十一年	八、三九四	九五	一、五五七	九六五	二、六一七	三三、一八	
平均	七、八四五	一四四	一、一七六	八七五	二、一九五	二七、九八	二二、八〇
重輕疑百分率		一、八四	一四、九九	一一、一五	二七、九八		

(ハ) 郡市別壯丁「トラホーム」豫備検査成績表 (昭和十一年)

順位	郡市名	検査人員	患		疑		計	百分比
			重	輕	疑	者		
一	刈田郡	三五五	一四	二七	一一	三八	一〇、七〇	
二	本吉郡	五九五	一七	六八	三五	一一七	一九、六六	
三	登米郡	七六一	四	一〇一	四九	一六七	二一、九四	
四	加美郡	二五一	五	三三	二八	六五	二五、九〇	
五	遠田郡	四三六	三	七〇	四二	一一七	二六、八四	
六	玉造郡	二〇九	六	四一	一三	五七	二七、二七	
七	柴田郡	二九〇	一	五一	二七	八四	二八、九七	
八	石巻市	二〇八		二五	三八	六三	三〇、二九	

年 度	治 療 所 數	患 者 實 數	患 者 延 人 員	從 事 醫 員 數
九	三 八 八	四	四 四	三 〇 六 七
一〇	四 二 四	二	四 四	三 二 〇 八
一 一	一、一 一 一	三	一 七 三	三 二 〇 九
一 二	八 二 九	一〇	六 二	三 二 〇 八 一
一 三	五 六 六	五	八 〇	三 六 〇 四
一 四	四 八 〇	一 五	四 三	三 六 〇 四
一 五	六 二 七	三	九 九	三 九 〇 八 七
一 六	三 六 三	二	七 〇	三 九 〇 九 四
一 七	二 七 〇	二	四 八	四 二 〇 九 六
一 八	二 三 一	二	五 九	五 七 〇 五 七
計	八、三 九 四	九 五	一、五 五 七	二、六 一 七

(ト) 市町村「トラホーム」治療所開設状況表

年 度	治 療 所 數	患 者 實 數	患 者 延 人 員	從 事 醫 員 數
大正十五年	一〇四	七、〇九二	一六二、七五三	一〇五
昭和元年	三五	一一、八五七	二四九、六九七	五四
昭和二年	六二	三二、七九四	一一、二二九、二六四	三八
昭和三年	七〇	九、三〇七	二九〇、〇三四	五六

年 度	患 者 實 數	患 者 延 人 員	從 事 醫 員 數
昭和五年度	八、一九七	一九三、八四三	四一
昭和六年度	五、八七〇	一四一、四三〇	六六
昭和七年度	五、八九九	二一七、二三八	七〇
昭和八年度	五、六六八	一六二、四七一	八五
昭和九年度	二、八七三	八一、〇四四	八〇
昭和十年度	五、三五四	一二八、六三三	九二
昭和十一年度	七、六三九	二二八、二四八	八一

(チ) 「トラホーム」治療成績表 (昭和十一年度)

施行市町村	定検人員	診員	檢診人員	受檢百分比	患者數	患者百分比	治癒者數	治癒百分比
千貫村	三、六六二	二、〇七三	二、〇七三	五六・六一	五九〇	二八・四六	二二	三五・七六
仙臺市(一部)	一一、〇〇〇	六、四五二	六、四五二	五三・七六	二、〇九二	三〇・五〇	五九	三二・〇〇
荒雄村	二、二八〇	二、一八三	二、一八三	九五・七五	五〇二	三三・〇〇	一〇〇	一九・九〇
色麻村	五、三二六	三、九九六	三、九九六	七五・二七	一、〇四五	二六・一五	—	—
秋保村	四、五三三	四、一四八	四、一四八	九一・二〇	一、三三〇	二九・六〇	二六	三三・六〇
耕野村	一、八五〇	一、七四二	一、七四二	九四・〇〇	一七八	一〇・二〇	八〇	五六・〇〇
藤里村	四、七〇六	四、二四五	四、二四五	九〇・一八	九〇八	二二・三九	一七	一九・八〇
下伊場野村	一、八五八	一、三九四	一、三九四	七六・〇〇	三九〇	二九・〇〇	二五	三三・〇〇



豊里村	七、三八	二、五六六	三六、〇〇	八三〇	三三、三五	八七	二六、〇〇
廣瀬村	四、六六〇	三、九三六	八〇、〇〇	九三三	二四、〇〇	一九	二五、〇〇
計	四八、二八六	三三、七三三	六七、七九	八、六七八	二六、五一	一、六〇〇	三三、〇〇〇

第二、盲人調査

盲人調査ハ昭和六年、九年ニ引キ續キ十一年ニ於テモ行ヒタルガ、今回ハ九年度ニ於ケル警察調査及開眼檢診ノ結果ニ依ル一、三〇七名ノ名簿ヲ基礎トシ調査シタルガ、總計一、一九二名トナレリ。

右盲人中檢診セル八〇〇名ニ就キ失明原因別ニ見ルニ之ガ第一位ハ「トラホーム」ニシテ(二三・一二%)ヲ占メオハハ注目サルル所ナリ。八〇〇名中視力恢復ノ見込有ル者二二二名、二七・七五%ナリ。内無料治療ヲ行ヒタルモノ四二名ニシテ、ソノ結果盲人ノ域ヲ脱シタ者三五名アリタリ。

(イ) 署別盲人失明年齡別表 (昭和十一年)

警察署別	年 齡 別											計
	一―一〇	一一―二〇	二一―三〇	三一―四〇	四一―五〇	五一―六〇	六一以上	不明	計			
仙臺	五三	三三	一七	一三	三三	一三	九	三	一六三			
鹽釜	二〇	六	三	八	一三	二六	六	二	五八			
吉岡	二七	八	四	五	四	二	三	四三				
岩沼	三三	三	七	一〇	五	五	四	六一				
大原	二〇	二	三	六	一〇	三	一	五六				
亘理	一三	一	三	二	二	六	二	二九				
計	一―一〇	一一―二〇	二一―三〇	三一―四〇	四一―五〇	五一―六〇	六一以上	不明	計			

昭和九年	計	出 新 津 仙 野													
		角田	白石	石巻	飯沼	氣沼	志川	登米	佐沼	涌谷	古川	中田	岩山	築山	若柳
百分率	百分率	九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三三・八〇	三三・三一	一九	一七	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一三・六二	一三・〇〇	二二	一七	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一一・四七	一〇・三三	一	四	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
九・七九	一一・九一	二	三	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一〇・五四	一一・一六	一	五	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
八・二二	九・二三	一	三	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
七・三三	七・九七	三	三	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一・四〇	二・一〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一七	四七	一一	二七	五二	五二	四四	四四	五二	五八	七二	三八	六三	四四

(口) 盲人失明原因別表

年別	病類別		計
	性別	%	
昭和六年	男	一四三	二八六
	女	一四三	
昭和九年	男	一五二	三〇四
	女	一五二	
昭和十一年	男	一三六	二七二
	女	一三六	
計	男	一三六	二七二
	女	一三六	
昭和六年	男	一〇七	二一四
	女	一〇七	
昭和九年	男	一〇七	二一四
	女	一〇七	
昭和十一年	男	一〇七	二一四
	女	一〇七	
計	男	一〇七	二一四
	女	一〇七	
昭和六年	男	一〇七	二一四
	女	一〇七	
昭和九年	男	一〇七	二一四
	女	一〇七	
昭和十一年	男	一〇七	二一四
	女	一〇七	
計	男	一〇七	二一四
	女	一〇七	

第三節 花柳病

第一、娼妓

大正十四年頃ニ於ケル縣下貸座敷所在地ハ仙臺市ノ外郡部十三ヶ所、娼妓數四百名以上ヲ算シタリシガ、昭和十一年末ニ於テハ二百七十一名ニ漸減シ殊ニ郡部ニアリテハ貸座敷數六軒、娼妓三十名ヲ數フルノミニシテ漸次衰微ノ狀況ニアリ。娼妓病院ハ仙臺市ニ縣立小田原病院アリ、専任衛生技師ヲシテ檢診治療ニ當ラシメツアルモ、郡部ハ何レモ其ノ地開業醫ヲ囑託シ檢診セシメ入院治療ヲ要スル者ハ之ヲ小田原病院ニ收容シツツアリ。

(イ) 遊廓並娼妓表 (昭和十二年六月現在)

區分	貸座敷所在地	貸座敷數		娼妓數		
		數	數	數	數	
仙臺市	鹽釜町	一	一	一	一	
	大河原町	一	一	一	一	
	古川町	一	一	一	一	
	若柳町	一	一	一	一	
	角田町	一	一	一	一	
	白石町	一	一	一	一	
	合	六	六	六	六	
	鹽釜町	鹽釜町	一	一	一	一
		鹽釜町	一	一	一	一
		鹽釜町	一	一	一	一
鹽釜町		一	一	一	一	
大河原町	大河原町	一	一	一	一	
	大河原町	一	一	一	一	
	大河原町	一	一	一	一	
	大河原町	一	一	一	一	
古川町	古川町	一	一	一	一	
	古川町	一	一	一	一	
	古川町	一	一	一	一	
	古川町	一	一	一	一	
若柳町	若柳町	一	一	一	一	
	若柳町	一	一	一	一	
	若柳町	一	一	一	一	
	若柳町	一	一	一	一	
角田町	角田町	一	一	一	一	
	角田町	一	一	一	一	
	角田町	一	一	一	一	
	角田町	一	一	一	一	
白石町	白石町	一	一	一	一	
	白石町	一	一	一	一	
	白石町	一	一	一	一	
	白石町	一	一	一	一	
合計	合計	二八	二八	二八	二八	
	合計	二八	二八	二八	二八	
	合計	二八	二八	二八	二八	
	合計	二八	二八	二八	二八	

(ロ) 娼妓健康診斷表

年次	遊廓數	健康診斷所數	娼妓一日平均數	健康診斷延人員	同上有病者	同上有病者	同上有病者
昭和二年	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
昭和三年	一〇	九	九	四三五	三一、七六四	三七七	一〇四

所謂業態者(藝妓、酌婦、炊婦、女給)ノタメ縣下一般ニ自衛的保健組合ヲ設置セシメ夫々囑託醫ノ檢診治療ヲ受ケシメツ

第二、保險組合ノ狀況

年次	前年		本年	同上年
	入	出		
昭和二年	12	12	335	26,717
昭和三年	14	15	313	24,683
昭和四年	15	17	286	8,018
昭和五年	7	11	211	5,475
昭和六年	10	14	184	5,066
昭和七年	3	7	237	6,155
昭和八年	6	10	225	6,038
昭和九年	7	19	190	5,659
昭和十年	1	15	151	5,321
昭和十一年	4	20	205	4,276

(三) 縣立小田原病院入院患者調査表

年次	毒	疥	病	軟性下疳	剝	脫	皮膚病	結核性	ホトムラ	其他	計
昭和九年	50	80	49	49	1	1	1	1	1	1	190
昭和十年	33	76	49	49	1	1	4	1	1	1	162
昭和十一年	22	35	43	43	1	1	8	1	3	1	222

(六) 娼妓健康診断病症別表

年次	毒	疥	病	軟性下疳	剝	脫	皮膚病	結核性	ホトムラ	其他	計
昭和四年	1	1	9	9	1	1	387	28,992	302	1,044	3,044
昭和五年	0	0	9	9	1	1	369	27,703	253	91	3,044
昭和六年	9	9	9	9	1	1	349	25,871	189	73	3,044
昭和七年	9	9	9	9	1	1	337	26,226	240	92	3,044
昭和八年	9	9	9	9	1	1	329	25,073	225	90	3,044
昭和九年	9	9	9	9	1	1	297	22,598	190	84	3,044
昭和十年	9	9	9	9	1	1	298	22,648	162	72	3,044
昭和十一年	8	8	8	8	1	1	271	21,140	222	55	3,044

ツアルガ、別表ノ如ク現在三十七ノ組合アリテ相當成績ヲ擧ケツアリ。

一、保健組合調査表 (昭和十二年三月現在)

署別	組合種別	組合員數	藝妓數	酌婦數	女中數	女給數	檢査範圍	檢査料ノ負擔	治療費	健康診斷回数	診療機關	設立年月
飯野川	同	一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同
石卷	料理屋、飲食店	一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同
白石	同	一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同
角田	同	一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同
亘理	同	一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同
大河原	同	一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同
岩沼	同	一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同
吉岡	料理屋、飲食店	一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同
鹽釜	カフエ屋	一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同
仙臺	料理屋	一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同
計		一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同

署別	組合種別	組合員數	藝妓數	酌婦數	女中數	女給數	檢査範圍	檢査料ノ負擔	治療費	健康診斷回数	診療機關	設立年月
氣仙沼	料理屋	一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同
志津川	同	一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同
登米	同	一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同
佐沼	料理屋、飲食店	一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同
涌谷	料理屋	一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同
中新田	料理屋、飲食店	一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同
古川	同	一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同
岩出山	同	一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同
築館	料理屋	一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同
若柳	料理屋、飲食店	一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同
計		一	一	一	一	一	同	同	同	同	同	同

二、保健組合健康診断所成績

本縣下ニ於ケル過去五ヶ年間ノ所謂業態者ノ健康診断成績ヲ觀ルニ三・二五%ニシテ之ヲ全國平均三・四六%ニ比スレバ稍々低率ナリ。就中酌婦ハ最高率ヲ示シ、藝妓、女給、炊婦ノ順ナリ。(附表参照)  
更ニ病類ニヨル全國平均トノ比較ヲ示セバ次表ノ如ク殆ント一致居レリ。

病類別	本縣ニ於ケル五ヶ年平均百分比	全國平均百分比
微毒	〇・三八	〇・三八
疥癬	二・三四	二・三三
軟性下疳	〇・五三	〇・五三

保健組合健康診断成績表

(自昭和七年五ヶ年間  
至昭和十二年五ヶ年間)

年度	業態別	受診者延數	花柳病			合計	百分比					
			梅毒	疥癬	軟性下疳							
昭和七年	藝妓 酌婦 女給 計	三、三三五 二九、八五〇 一、〇五一 六九二	二五八 一、一七一 三〇六	一、一七二 一、一七二 一、一七二	三〇六 三〇六 三〇六	九四 一、七三五 三六 二二	二・八二 四・〇八 〇・六一 二・七五					
								二六九	一、三〇三	三一五	一、八八七	五・四〇
								四	一八	一	二二	三・一八
								一	三四	一	三六	三・四三
昭和八年	藝妓 酌婦 女給 計	三、五一二 三二、九四六 一、四七六 一、二〇〇	一四八 九五〇 二五	一、〇四一 一、〇四一 一、〇四一	二四六 二四六 二四六	六八 一、三四四 九 三三	一・九四 四・〇八 〇・六一 二・七五					
								一六二	一、〇四一	二五一	一、四五四	三・七二
								七	二五	一	三三	三・七二
								二	六	一	九	三・七二
昭和九年	藝妓 酌婦 女給 計	三、一四七 三五、二八一 一、三八五 一、二二三	一二五 八六三 一〇	七六 八六三 一〇	二〇四 二〇四 二〇四	八三 一、一九二 一六 二	二・六四 三・三八 〇・一四 一・三一					
								一三一	九五一	二一一	一、二九三	三・一五
								四	一〇	二	一六	一・三一
								一	二	一	二	〇・一四
昭和十年	藝妓 酌婦 女給 計	三、四二五 四〇、六八三 一、〇五六 二、〇九六	一五九 八八六 一	六七 八八六 一	一四八 一四八 一四八	七四 一、一九三 四 四	二・一六 二・九三 〇・三八 一・一五					
								一七〇	九六五	一六〇	一、二九五	二・七四
								四	一一	九	二四	一・一五
								三	一	一	四	〇・三八
昭和十一年	藝妓 酌婦 女給 計	三、四二五 四〇、六八三 一、〇五六 二、〇九六	一五九 八八六 一	六七 八八六 一	一四八 一四八 一四八	七四 一、一九三 四 四	二・一六 二・九三 〇・三八 一・一五					
								一七〇	九六五	一六〇	一、二九五	二・七四
								四	一一	九	二四	一・一五
								三	一	一	四	〇・三八
昭和十二年	藝妓 酌婦 女給 計	三、四二五 四〇、六八三 一、〇五六 二、〇九六	一五九 八八六 一	六七 八八六 一	一四八 一四八 一四八	七四 一、一九三 四 四	二・一六 二・九三 〇・三八 一・一五					
								一七〇	九六五	一六〇	一、二九五	二・七四
								四	一一	九	二四	一・一五
								三	一	一	四	〇・三八

年度	業態別	受診者延數	花柳病			合計	百分比					
			梅毒	疥癬	軟性下疳							
昭和七年	藝妓 酌婦 女給 計	三、三三五 二九、八五〇 一、〇五一 六九二	二五八 一、一七一 三〇六	一、一七二 一、一七二 一、一七二	三〇六 三〇六 三〇六	九四 一、七三五 三六 二二	二・八二 四・〇八 〇・六一 二・七五					
								二六九	一、三〇三	三一五	一、八八七	五・四〇
								四	一八	一	二二	三・一八
								一	三四	一	三六	三・四三
昭和八年	藝妓 酌婦 女給 計	三、五一二 三二、九四六 一、四七六 一、二〇〇	一四八 九五〇 二五	一、〇四一 一、〇四一 一、〇四一	二四六 二四六 二四六	六八 一、三四四 九 三三	一・九四 四・〇八 〇・六一 二・七五					
								一六二	一、〇四一	二五一	一、四五四	三・七二
								七	二五	一	三三	三・七二
								二	六	一	九	三・七二
昭和九年	藝妓 酌婦 女給 計	三、一四七 三五、二八一 一、三八五 一、二二三	一二五 八六三 一〇	七六 八六三 一〇	二〇四 二〇四 二〇四	八三 一、一九二 一六 二	二・六四 三・三八 〇・一四 一・三一					
								一三一	九五一	二一一	一、二九三	三・一五
								四	一〇	二	一六	一・三一
								一	二	一	二	〇・一四
昭和十年	藝妓 酌婦 女給 計	三、四二五 四〇、六八三 一、〇五六 二、〇九六	一五九 八八六 一	六七 八八六 一	一四八 一四八 一四八	七四 一、一九三 四 四	二・一六 二・九三 〇・三八 一・一五					
								一七〇	九六五	一六〇	一、二九五	二・七四
								四	一一	九	二四	一・一五
								三	一	一	四	〇・三八
昭和十一年	藝妓 酌婦 女給 計	三、四二五 四〇、六八三 一、〇五六 二、〇九六	一五九 八八六 一	六七 八八六 一	一四八 一四八 一四八	七四 一、一九三 四 四	二・一六 二・九三 〇・三八 一・一五					
								一七〇	九六五	一六〇	一、二九五	二・七四
								四	一一	九	二四	一・一五
								三	一	一	四	〇・三八
昭和十二年	藝妓 酌婦 女給 計	三、四二五 四〇、六八三 一、〇五六 二、〇九六	一五九 八八六 一	六七 八八六 一	一四八 一四八 一四八	七四 一、一九三 四 四	二・一六 二・九三 〇・三八 一・一五					
								一七〇	九六五	一六〇	一、二九五	二・七四
								四	一一	九	二四	一・一五
								三	一	一	四	〇・三八

均平年ヶ五	年一十
女炊酌藝 計	女炊 計
給婦婦妓	給婦
三、二八三 三五、〇六〇 一、二六〇 一、四四八 四一、〇五一	一、三三一 二、〇二八 四二、八九五
一四九 一	五五
一四九 六六 八六三 一二 二〇	一八 三四 五四八
二〇七 五	一三八 四
一、二一九 七四 一四 二七	七四一 三八 一八
一、三三四 三・二五	一・七三 一・八七 一・三五

第三、接客業婦「ワッセルマン」氏反應檢査成績

昭和九年十一月ヨリ同年三月末ニ至ル五ヶ月間ニ亙リ管下接客婦ノ立會檢診ヲ施行シ同時ニ採血シ血清微毒反應ヲ調査シタルニ其ノ陽性率ハ娼妓最高率ヲ示シ酌婦之ニ次ギ藝妓、女給、炊婦ノ順ナリ。

(イ) 署別「ワッセルマン」氏反應成績表

署別	檢査人員	陽	性	同上百分率	署別	檢査人員	陽	性	同上百分率
仙臺	八一〇		三六七	四五・三	岩沼	三五		一七	五〇・〇
鹽釜	三〇五		一四三	四六・九	大河	五二		一八	三四・六
吉岡	一七一		八	四七・一	亘理	一三		七	五三・八

角石田	白石	石巻	飯沼	氣仙	志津	登米	佐沼
四四	六二	三九一	一六	一三二	二四	四二	三〇
一六	二四	一九二	一〇	七五	一二	一七	一二
三六・四	三八・七	四九・一	六二・五	五六・八	五〇・〇	四〇・五	四〇・〇
涌谷	古川	中新田	岩出山	築館	若柳	計	計
五六	七五	六三	八六	二六	七九	二、三五八	二、三五八
二一	三二	二九	五〇	一三	二〇	一、〇八三	一、〇八三
三七・五	四二・七	四六・〇	五八・一	五〇・〇	二五・三	四五・九	四五・九

(ロ) 第二回「ワッセルマン」氏反應成績表

署別	檢査人員	陽	性	同上百分率	署別	檢査人員	陽	性	同上百分率
岩出山	七二		三一	四三・一三	鹽釜	一三九		七三	五二・五一
中新田	五一		七	一三・七二	計	二六二		一一	四二・三七

備考 本表ハ昭和十一年六月ヨリ十二年四月ニ至ル間ニ於テ施行シタルモノニシテ酌婦ナリ

(ハ) 業態別「ワッセルマン」氏反應成績表

業態別	檢査人員	陽	性	同上百分率	業態別	檢査人員	陽	性	同上百分率
娼妓	二六三		一六八	六三・九	酌婦	一、三九九		七五二	五三・八

藝妓	二四六	六九	二八〇〇	女	計	三九二	八四	二一〇四
炊婦	五八	一〇	一七〇二	計	二、三五八	一、〇八三	四五・九	

第四、代用花柳病診療所ノ狀況

昭和四年三月ヨリ花柳病豫防法公布ニ依リ石卷市、鹽釜町、鳴子町ノ三ヶ所公共團體經營ノ下ニ代用診療所設置セラレタリ

代用花柳病診療所表 (昭和十一年)

診療所名	指定年月日	患者種別	梅毒		淋病		軟性下疳		計	
			實人員	延人員	實人員	延人員	實人員	延人員	實人員	延人員
鹽釜町診療所	昭和四年三月六日	入院患者 外來患者	八	二〇〇	二	二〇六	二	二〇二	二〇	二〇〇
石卷市診療所	昭和四年七月廿日	入院患者 外來患者	一〇	一七〇	三	二〇六	一〇	二二五	四	二〇〇
鳴子町診療所	昭和四年三月六日	入院患者 外來患者	一	三	一	一、二一〇	一	七	二〇	一、二六七
合計		入院患者 外來患者	一九	四八三	六	一、四二二	一三	五四四	二四	一、一三〇

第四節 癩

昭和十一年六月二十五日、「癩豫防デー」ヲ中心トシテ行ヒタル一齊檢診ノ結果本縣ノ癩患者ハ百十五名ナリ。而シテ同月現在一道六縣設立ノ北部保養院(青森縣新城村所在)ニ入院セシメタル患者五十五名及國立長島愛生園ニ入院セシメ居ルモノ十一名ニテ總計百八十一名ナリ。

癩患者現在表 (昭和十一年八月)

郡市別	區分	登載患者數(檢診前)	同上中檢診結果		轉出等	死亡	癩患者中檢診セザルモノ	登載以外ノ檢診者		癩患者檢定數	未檢診者(含癩患者總數)
			癩患者	非癩者				癩患者	非癩者		
仙臺市	市	二	二	一	一	一	一	一	二	二	二
石卷市	市	六	五	一	一	一	一	一	六	六	七
刈田郡	郡	六	三	二	一	一	一	一	六	六	七
柴田郡	郡	六	三	二	一	一	一	一	六	六	七
伊具郡	郡	一六	九	一	一	一	一	一	一〇	一〇	一二
亘理郡	郡	二	一	一	一	一	一	一	二	二	二
名取郡	郡	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
宮城郡	郡	一四	七	三	一	一	一	一	一〇	一〇	一三
黒川郡	郡	八	五	一	一	一	一	一	九	九	一〇
加美郡	郡	二	一	一	一	一	一	一	二	二	二
志田郡	郡	九	五	二	二	二	二	二	五	五	七
合計		九二	五八	二二	二	二	二	二	九三	九三	一二七

計	本吉郡	牡鹿郡	桃生郡	登米郡	栗原郡	遠田郡	玉造郡
一三九	一〇三	二八	二五	三二	一八	三一	二
八七	六	一	二	三	一	三	一
二五	三	三	一	三	一	一	一
一二	一	一	四	三	一	一	一
一三	一	一	一	一	一	一	一
二	一	一	一	一	一	一	一
一三	一	一	一	一	一	一	一
二一九	一八	六	九	五一	八	三	一
一〇〇	七	三	四	二	三	一	一
一一五	八	三	四	二	三	一	一

第五節 精神病

最近五ヶ年間に於ケル精神病者數ヲ觀察スルニ左表ニ示ス如ク著シキ差異ヲ認メズ。而シテ本縣ニ於テハ精神病院ノ設立ナク仙臺市東北腦病院ヲ代用精神病院ト指定シアルモ最初定員十五名ナリシ處ソノ後漸次増加シソノ數現在六十名ニ達セリ。尙本年七月名取療養院(名取郡中田村)モ代用病院トシテ指定セラレタリ。人員十五名ナリ。

(イ) 精神病者累年比較表

年次	精神病院法ニ依ル		官公私立病院ニ收容シタル者		其ノ他ノ場所ニ收容シタル者		一時假監置	入院監置患者計	未監置患者	合計	人口對スル精神病者
	精神病院ニ收容シタル者	代用精神病院ニ收容シタル者	官公私立病院ニ收容シタル者	市町村長ノ監督ノ下ニシテ收容シタル者	市町村長ノ監督ノ下ニシテ收容シタル者	市町村長ノ監督ノ下ニシテ收容シタル者					
昭和十一年	一五	四六	二一	八四	一	一六七	五七九	七四六	一三		

昭 和 十 一 年	昭 和 十 年		昭 和 九 年		昭 和 八 年		昭 和 七 年				
	計	女	計	女	計	女	計	女			
六〇	一四	四六	六〇	一五	四五	二六	七	一九	一八	三	
二三	五	一八	九	三	六	五四	一四	四〇	六四	一八	
一二	二	一〇	七	二	五	二五	二	二三	二五	四	
一二	一	一〇	一〇	一	八	九九	一	八四	九九	一五	
一	一	一	五	二	三	一	一	一	一	一	
二二	二	一八	一八	二	一四	二〇	四	一六	二〇	七	四〇
九八	三	五八	二〇	一	一六	一〇	一	一七	九一	七	三三八
一、二〇	四	七〇	一、一九	四	七六	一、二二	三	八三	一一	二	三七八
一〇	七	一三	一〇	七	一二	一〇	七	一四	一〇	七	

(ロ) 精神病院並收容患者調査表 (昭和十一年)



經營者別	名	稱	所在地	患者 人員收	患者		院 在院中死亡	數	入院患者延數
					前年 ヨリ越	本年 入院退			
私立	東北腦病院	仙臺市北七番丁		一七	※	七	二	七	一六、四八一
私立	名取療養院	名取郡中田村		三二	※	三	二	六	一〇、七九九
計				四九	※	四	四	一三	二六、二〇〇
累年	昭和十年			四九	※	三	二	一〇	二七、八六一
比較	昭和九年			四九	※	三	二	一〇	二七、七九七
昭和九年				四九	※	三	二	一〇	二七、八六一

備考 ※印ハ自費患者數ヲ示ス

### 第六節 寄生虫病並地方病

#### 第一、寄生蟲病

##### 一、寄生蟲検査成績

本縣ニ於テハ本邦ニ存スル人體寄生蟲ノ中住血吸蟲ヲ除ク他ノ寄生蟲ハ殆ンド發見セラル。就中蛔蟲、十二指腸蟲ハ殊ニ一般農民ニ瀰蔓シ之ガタメ一般民ノ健康ヲ害シ、諸種ノ疾病ヲ誘發シ、罹患率ヲ高メ、勞働能力ヲ低下セシメ、殊ニ發育途上ニアル小學兒童ニ對シテハ一層影響大ナルモノアルハ今更言ヲ待タザル所ナリ。從ツテ之ガ豫防撲滅ハ保健衛生上極メテ緊要ナルヲ思ハシム。

茲ニ於テ本縣ハ大正十三年ヨリ全縣下ニ亙リ寄生蟲検査並驅除ノ計畫ヲ樹テ逐次之ヲ實施シ、昭和十一年度末ニ於テハ二市二百ヶ町村中一市百七十八ヶ町村ニ就キ検査ヲ施行シ逐次之カ驅除ヲ行ハシメツ、アリ。

(イ) 自大正十三年 至昭和十一年 寄生蟲検査成績年別表

年 別	區 分	検査人員	有卵者數		腸 十 二 指	蛔 蟲	鞭 蟲	蟯 蟲	東 洋 毛 蟲	肝 チ ス ト マ 臟	横 川 氏 吸 蟲	横 節 蟲	萎 少 蟲
			百分率	同									
大正十三年		四〇、八六三	三〇、一九一	七三、八八	六、五五三	二七、二六二	七、七三九	一〇	一〇三	一三六			
大正十四年		三六、七五二	二四、五六六	六六、九三	四、七六九	二二、九七〇	六、二一九	〇・一〇	一三	一九			
大正十五年		八〇、三九五	五三、七六九	六六、八九	九、五三七	四八、六五八	一三、六八四	六	三〇	三三九			
昭和二年		四一、四五一	三三、一三四	五三、四〇〇	二、三三二	一〇、六六七	三、四九四	五八	三	一一〇			
昭和三年		六七、六八八	三七、〇七五	五四、七七	二、五六六	三五、二四三	六、九九八	一三八	三六〇	五六			

昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年
七四,二一〇	四六,五〇一	六〇,一七一	四三,四七五	七五,五四七	四三,〇〇九	一四,五四五	三一,一五五
四七,四三五	三二,七二九	三二,六五六	二〇,七八五	四四,八〇五	三〇,一〇九	八,五四八	一三,三九四
六三,九三三	六八,二二三	六二,五八八	四七,八一	五九,三三一	二〇,〇一一	五八,七七	一,四六三
七,七六七	八,〇六二	五,九一五	三,八〇四	八,四四六	七,四四五	八一三	二,二五五
四六,二五一	二八,八七一	三四,五六三	一八,五六六	四〇,〇一六	二六,八六一	八,〇一九	一,一三三
一八,七三三	六二,三三三	三二,五三三	四二,七二	一九,三三一	二二,四九七	一,一六六	一,三三三
二五,三三四	一四,〇四五	二九,四四二	五,四〇五	一四,五九一	一一,六五五	一,一六六	四三
一九,一九	〇,一六	六三	三九	〇,九	一〇九	四七	七
三三	五七	六二	九	〇,一三	一〇九	〇,三三	〇,三三
〇,〇六	〇,一七	〇,一〇	〇,九	〇,〇一	〇,〇一	〇,三三	〇,〇一
一〇,五	〇,一四	〇,一〇	〇,〇三	〇,〇一	〇,〇一	〇,〇一	〇,〇一
〇,〇〇三	〇,〇〇三	〇,〇〇三	〇,〇〇三	〇,〇〇一	〇,〇〇一	〇,〇〇一	〇,〇〇一
二	一四	三	四	〇,〇一	〇,〇〇一	〇,〇〇一	〇,〇〇一
〇,〇〇一	〇,〇〇一	〇,〇〇一	〇,〇〇一	〇,〇〇一	〇,〇〇一	〇,〇〇一	〇,〇〇一

計	
六五,七四六	四二,九九
四〇,一三六	六九,二六二
六,三四	一〇,八三
四二,九九	三九,二七
四〇,二二	四二,一一
〇,一四	〇,一四
八〇	八〇
〇,一三	〇,一三
〇,一三	〇,一三
〇,〇〇三	〇,〇〇三
〇,〇〇一	〇,〇〇一
〇,〇〇一	〇,〇〇一
〇,〇〇一	〇,〇〇一
〇,〇〇一	〇,〇〇一
〇,〇〇一	〇,〇〇一
〇,〇〇一	〇,〇〇一

(口) 自大正十三年 至昭和十一年 寄生蟲検査成績郡市別表 (塗抹法ニ依ル)

郡市別	區分	検査人員	有卵者數		十二指		蝸		鞭		蛇		蟲		東洋毛		肝臓		横川氏		横節		萎少	
			百分率	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
加美郡		二六,七一〇	五三,三一一	一,四三八	五,三六	一四,一〇二	七,三三八	一,九七三	七,三八	〇,〇六	一七	〇,〇四	〇,〇四	一〇,〇一	一									
志田郡		三三,八五七	六三,六三三	七,一九	二,三九七	五七,〇一	一六,二五	五,五〇四	一六,二五	〇,一一	三七	〇,〇六	〇,〇六	〇,〇八	二七									
栗原郡		七七,三八二	六九,四四〇	一四,八三	一,五三二	六二,三三	一八,四三	一四,一三〇	一五,四四	〇,〇八	六	〇,〇四	〇,〇四	〇,〇九	六八									
遠田郡		四〇,八六三	七三,八八	一六,〇〇九	六,五六三	六六,七一	一八,四四	七,七三九	一八,四四	〇,〇一	一〇	〇,〇一	〇,〇一	〇,〇三	一三八									

本吉郡	四八、五四四	二四、六二三	一、五二二	一、五二二	四、三二七	六四	三三三	一一〇										
玉造郡	二〇、九七七	一〇、八七二	八六八	一〇、五〇八	一、〇五八	六	二											
登米郡	六二、一三四	三七、六三〇	四、一七四	三五、三八一	一〇、〇九九	一一一	三	一一										
黒川郡	二五、二六七	一八、八三三	二、九九八	一七、九九七	八、一六七	二七	一											
桃生郡	五九、一八七	四一、〇〇一	九、八〇九	三七、二六九	二、一一三	八三	三二〇	九二										
互理郡	二六、二三五	一六、七二八	四、三九六	一五、四二二	五、四五一	三三	一一											
石巻市	一四、三四六	三、四〇一	二二九	二、九八七	二〇、七九	六	一											
牡鹿郡	三〇、五八二	一八、五四四	二、〇六六	一六、五七九	九、九八二	二四	七											

名取郡	四五、八七一	二九、五七七	六、七九	二六、五八五	七、一八七	六六	二											
宮城郡	七二、〇〇五	四二、〇七三	六、三一九	三七、六七六	一五、一一三	八五	三七											
柴田郡	一九、一四二	一三、四一〇	四、三八九	一一、〇〇四	五、五四四	五七	四											
刈田郡	二五、八五四	一二、七九〇	一、三六九	一一、七九	一、六四九	四三	六											
伊具郡	一四、三三三	五、五一〇	七六六	四、九三〇	二八九	一三	一											
計	六四三、三〇五	三九五、六五二	六七、三八四	三六一、一八一	一一〇、五七七	八一三	一、一六七	六一三										

備考 一、柴田郡ノ一部トアルハ川崎村、富岡村、沼邊村、大河原町、金ヶ瀬村ノ五ヶ町村  
 刈田郡ノ一部トアルハ白石町、白川村、大鷹澤村、齋川村、大平村、小原村、福岡村、越河村ノ八ヶ町村  
 伊具郡ノ一部トアルハ耕野村、東根村、丸森町、大内村ノ四ヶ町村ナリ  
 二、本表ノ前表ト一致セズ少數ナルハ二回施行シタル町村ヲ省略シタルニ依ル

二、寄生蟲驅除

寄生蟲検査ノ結果卵保有者——主トシテ蛔蟲、十二指腸蟲卵保有者——ニ對シテハ夫々驅除セシムル様督勵シ居レリ。  
驅除藥ハ蛔蟲ニハ海人草、十二指腸蟲ニハ四塩化炭素ヲ用ヒ、兩卵保有者ハ其ノ中毒作用ヲ慮リ蛔蟲驅除後ニ於テ十二指腸蟲驅除ヲ行フヲ原則トシ、驅除ニ際シテハ出來得ル限り縣ヨリ醫師及指導員ヲ派遣シ指導監督ニ當ラシム。

寄生蟲驅除服藥人員調査表

年次	一回服藥人員		二回服藥人員		三回服藥人員		四回服藥人員	
	十二指腸蟲	蛔蟲	十二指腸蟲	蛔蟲	十二指腸蟲	蛔蟲	十二指腸蟲	蛔蟲
大正十三年	二〇一六	九、八六二	—	—	—	—	—	—
大正十四年	五、四八八	一〇、五四八	一、三二五	三、六二二	—	—	—	—
大正十五年	七、〇〇〇	二五、九九四	二、七九五	一四、七六一	—	—	—	—
昭和元年	四、二一一	三三、六六二	五、九〇四	三三、三六六	三、〇九四	一四、三三三	—	—
昭和二年	一、五〇〇	二六、五〇〇	三、三五六	二二、八七〇	—	—	—	—
昭和三年	五、一七〇	四四、六七六	一、四九七	一九、二五六	二、七三一	二八、二八五	—	—
昭和四年	三、九四一	一一、〇一三	三、七	六、〇六六	一、五八	一、九〇一	—	—
昭和五年	七、一六九	二八、八六四	—	—	—	—	—	—
昭和六年	三、五四四	一七、八五二	—	—	—	—	—	—
昭和七年	六、〇八八	二六、二八七	一、六一	六、五三三	七九	—	—	—
昭和八年	三、三九六	一七、二九八	三、四	三、一三九	一、〇〇〇	—	—	—
昭和九年	—	—	—	—	—	—	—	—

第二、地方病

本縣ニ於ケル地方病トシテハ肝臟ヂストマ及「ワイル」氏病アリ。

一、肝臟「ヂストマ」

本縣ニ於テ最モ早ク着目セラレタル地方病ニシテ、大正十三年以降發見セラレタルモノハ前記寄生蟲検査成績表ニ示ス如ク六一五名(検査人員ニ對シ〇・一%)遠田郡、本吉郡、登米郡、桃生郡、牡鹿郡等ニ多シ。  
就中本吉郡柳津町地方ハ最モ古クヨリ知ラレ、其ノ原因ハ同地締切沼ニ棲息スル魚類ノ捕食ニ依リ感染スルモノト認メラレ明治二十二年既ニ縣令ヲ以ツテ同沼ニ接続セル一町二ヶ村ニ亘ル區域ノ魚類捕獲ヲ禁止シ之ガ豫防ニ努メ漸次減少シツツアルモ尙未ダ根絶セザルヲ遺憾トス。

柳津町ニ於ケル狀況

調査年度	字區名	保有者百分率
明治二十一年	柳津町 黄牛區	五五・五五%
	柳津町 石貝區	五二・五三%
同 二十二年	横山村	四八・〇二%
	同 二十二年	一〇三

明治二十五年  
同  
同  
同  
大正十年  
昭和四年

二、「ワイル」氏病

柳津町  
柳津區 石貝區 入澤區 同 上  
黄牛區 石貝區 柳津區  
三二・八六% 四一・五四% 一九・〇三% 二一・〇一% 三〇・六七% 三〇・六七% 一八・〇三%

本縣ニ於ケル「ワイル」氏病ハ古クヨリ存在セルモノノ如キモ大正十三年東北帝大醫學部ニ於テ其存在ヲ確認シ爾來逐年増加ノ傾向アルタメ、昭和八年ヨリ縣下各都市醫師會ニ同病發生報告方ヲ依頼セムガ其ノ發生狀況次表ノ如シ。

最近四ケ年間「ワイル」氏病患者都市別表

都市別	年次	
	患者	死者
直名宮仙	昭和八年	同九年
理取城臺	五八	六二五三
郡郡郡市	(不)	一 一 一
	患者	死者
	二 一 六	一 一 一
	患者	死者
	二 六 一七	一 一 一
	患者	死者
	七 四 五	一 一 一
	患者	死者
	七 七 一	一 一 一

性別	計	栗本刈	
		原吉田	郡郡郡
女	一〇	五八	(不明)
男	四八	一七	一
		二	二
		九	九
		七	四四
		七	七一



第四章 防疫衛生

第一節 法定傳染病發生狀況

第一概況

本章ニ於テハ主トシテ昭和二年ヨリ同十一年ニ至ル最近十ケ年間ノ法定傳染病ニ就キテ調査シ、且此ノ間主要ナル發生數ヲ占ムル腸「チフス」及「ヂフテリア」ニ就キ比較的詳細ナル觀察ヲ試ミタリ。

一 既往五十七ケ年間ニ於ケル概況

明治十三年ヨリ昭和十一年ニ至ル既往五十七ケ年間ニ渉ル患者發生狀況ヲ觀ルニ往時ニ於テハ相當惡性病疫ノ發生モアリ。例之明治十五年ニ於ケル「コレラ」患者三、九七七名、同十九年一、三七一一名、同二十八年二、二三八名等「コレラ」ノ大流行アリ、又明治十八年ヨリ三十二年頃ニ至ル十數ケ年間ハ連年痘瘡ノ流行相踵ギ、明治二十年ノ如キハ最高一、一七九名ヲ算シタリ。赤痢ニ於テハ明治二十九年以降十數年ニ亘リテ大流行ヲ見タルモ漸次遞減ノ傾向ニアリ。近年ニ於テハ「コレラ」痘瘡等ノ惡性傳染病ハ其ノ跡ヲ絶チ、赤痢モ亦減少シ、腸「チフス」ヲ主要ナルモノトシ、次デ「ヂフテリア」多數ヲ占ムルモ其ノ他ハ概ネ少數ナリ。(次表參照)

法定傳染病患者累年調査表 (自明治十三年至昭和十一年)

年	次	コレラ	赤痢	腸チフス	パラチフス	痘瘡	發疹チフス	猩紅熱	ヂフテリア	流行性腦脊髄膜炎	ペスト	計
明治十三年		1	525	768		1	1	1	8		1	1,365

同	同	同	同	同	大	大	明	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
七	六	五	四	三	正	正	治	四	四	四	四	四	三	三	三	三	三
年	年	年	年	年	元	元	四	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

二九	八三	一、六七八	五五	二、四三	二、五六	六、四七	八、〇九	一、〇六一	一、〇一七	一、〇一七	七、七四	八、〇九	一、〇九四	一、〇三九	一、〇九二	八、四五	五、〇七
九三九	一、〇三三	一、三九二	九五〇	七九八	六三六	八〇九	一、〇六一	一、〇一七	一、〇一七	七、七四	八、〇九	一、〇九四	一、〇三九	一、〇九二	八、四五	五、〇七	七、〇三

(用 適 無)

九	二四	七	一五	五八	九三	四四	八										
二																	
一	二四	八	九三	二、三四													
二八	二	三	七	四	八	五	六	一四	二	二	六	二					
五九〇	五七九	五九二	五二四	四五六	四二八	五九一	六三六	五三七	四八六	五二五	四三六	四一六	四九九	四二八	四八五	五、四四	四、四四

(用 適 無 法)

一、八八三	一、八三三	三、七六六	一、七八二	一、七九二	一、四二二	二、〇九六	二、三二六	一、六七七	一、三九九	一、八二五	一、八二五	二、〇一一	一、八〇四	三、四六六	二、八〇七	一、五七七	二、五九七
二、三二六	四、一三	二、五九七	一、五七七	三、四四九	二、八〇七	一、八〇四	三、四六六	二、八〇七	一、五七七	二、五九七	一、五七七	三、四四九	二、八〇七	一、八〇四	三、四六六	二、八〇七	一、五七七

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明
三	三	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	治
二	二	二	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

二九	三	七	五	二、二三八							六	九	四	一五	九	一、三七二	三、九七七
四、〇三	八八四	一、〇九〇	一、四〇八	三七	二						五	五	一〇	二	三	三	一、一六八
一、三五四	八八〇	一、二〇〇	一、四〇八	九九〇	八三						一、三三二	九四四	一、七三四	一、六三八	二、〇三三	一、五七八	三、八九三

法 防 豫 病 染 傳)

二五	一四	七五〇	七六六	一三	一四	四七一	一七一					七	一三	七六	一、一七五	六九	一一
一																	
八七二	六七四	三九六	一八二	一七二	一〇七	二二	一五六	一五六	一〇七	二三	一八	二〇五	二六六	二八	二一	六九	六八

法 防 豫 病 染 傳)

六、三八	二、五九三	三、四二七	三、八一五	三、四四九	九五五	一、九九九	一、〇三七	一、〇八六	一、四六六	一、八九九	一、八九七	三、四四四	三、三三〇	八八二	六六	七五七	五、五八四
四、〇〇三	五、三六四	七五七	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六	六六





**死亡率** 十ヶ年間ニ於ケル平均ハ翌年繰越死亡者ヲ含メテ患者百ニ付死者一四・四七人ニシテ、之ヲ病類別ニ觀レバ、流行性脳脊髄膜炎ノ四九・二八%ヲ最高トシ、赤痢二八・〇〇%(内疫痢ハ七二・八七%)「チフテリア」一六・七三%、腸「チフス」一三・二二%、發疹「チフス」六・六七%、猩紅熱四・八二%、「バラチフス」二・六九%ノ順ナリ。(次表(イ)参照)

(イ) 最近十ヶ年間法定傳染病患者表

年別	病類別										計
	赤痢	腸チフス	チフス	猩紅熱	チリアフ	流行性脳脊髄膜炎	發疹	痘瘡	患者	死者	
昭和二年	105	83	69	6	78	2	2	2	153	110	224
三年	181	107	56	5	96	3	1	1	153	153	304
四年	157	132	96	5	88	4	1	1	132	132	265
五年	113	173	42	5	118	3	1	1	173	173	327
六年	101	177	92	2	87	1	1	1	177	177	320
七年	111	189	32	1	114	2	1	1	189	189	345
八年	113	225	81	4	118	7	1	1	225	225	384
九年	128	278	101	4	107	3	1	1	278	278	455

平均	同十年		同十一年	
	人員	患者百ニ付死亡	人員	患者百ニ付死亡
人口一萬ニ付患者	1,577	1.37	1,000	1.00
患者百ニ付死亡	(36)44	1.37	(21)25	1.19
人員	1,355	1.37	1,340	1.19
患者百ニ付死亡	1.37	1.37	1.19	1.19

備考 1、赤痢欄(イ)内ハ疫痢數ヲ再掲ス  
 2、死者ハ翌年繰越死亡者ヲ含ム  
 3、平均人員ハ一人未滿四捨五入、死亡率ハ十ヶ年間患者總數ニ依リ算出ス

(ロ) 最近十ヶ年間平均(自昭和十一年至同十二年)法定傳染病患者市郡別表

市郡別	病類別										計
	赤痢	腸チフス	チフス	猩紅熱	チリアフ	流行性脳脊髄膜炎	發疹	痘瘡	患者	死者	
仙臺市	63	311	10	68	151	3	0.1	0.1	63	63	
石巻市	1	40	1	4	6	1	1	1	1	1	
刈田郡	15	34	7	4	53	0.1	0.1	15	15	114	
柴田郡	2	48	1	0	21	0.1	0.1	2	2	57	
伊具郡	18	61	2	2	3	1	1	18	18	104	

計	病類別										人員計	%		
	赤痢	腸チフス	チバチフス	猩紅熱	チチリア	流行性腦脊髄膜炎	発疹チフス	痘	人	員計				
計	三	一	〇・四	二	四	一	〇・三	二	一	〇・二	〇・一	二	二・四八	二・八
本吉郡	三	一	一六四	一	四	一	四	一	〇・一	〇・三	〇・一	一	二・四八	二・八
牡鹿郡	〇	〇	一七	二	一	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一・五九
桃生郡	〇・四	〇	七四	一	三	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二・一四
登米郡	二	〇	八〇	六	四	三	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一・五七
栗原郡	四	〇	四三	四	一	三	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	八・九
遠田郡	一	〇	五九	二	二	二	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	八・五
玉造郡	〇・三	〇	一九	〇・四	一	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	二・九
志田郡	二	〇	六六	一	二	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	八・九
加美郡	〇・二	〇	五〇	三	一	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	七・三
黒川郡	二	〇	七	〇・一	一	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一・七
宮城郡	三	〇	八九	三	二	二	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	一・三二
名取郡	四	〇	五九	三	二	二	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	九・五
亘理郡	二	〇	一八	一	一	一	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	五・九

備考 1、本表ハ最近十ヶ年間ニ於ケル平均一ヶ年ノ患者數トス、十ヶ年平均數ヲ四捨五入法ニヨリ掲ゲタレバ計ニ於テ若干相違ヲ生ジメリ  
 2、赤痢ニハ疫痢ヲ含ム  
 3、石巻市ハ昭和八年ヨリ市制施行ニ付爾後四ヶ年間ノ平均ヲ掲ゲ、以前ハ牡鹿郡ニ含ム  
 4、詳細ハ第二ノ二(一一九頁)、第三ノ二(一三五頁)、第四ノ(イ)表(一四二頁)参照

(ハ) 最近十ヶ年間平均(自昭和十二年)法定傳染病患者發生月別表

計	病類別										人員計	%	
	赤痢	腸チフス	チバチフス	猩紅熱	チチリア	流行性腦脊髄膜炎	発疹チフス	痘	人	員計			
計	二	四	一〇	三	四	一	一	〇	一	一	二	二・四八	一〇〇・〇〇
十一月	二	四	一〇元	三	四	一	一	〇	一	一	二	二・四八	九〇・八
十月	四	一	一四	二	一	一	一	〇	一	一	二	二・四八	九〇・三
九月	一〇	〇	一五四	一	一	一	一	〇	一	一	二	二・四八	一〇六・四
八月	三	〇	一九三	八	一	一	一	〇	一	一	二	二・四八	一一八・四
七月	四	〇	一七六	六	一	一	一	〇	一	一	二	二・四八	一一六・六
六月	一五	〇	一三一	四	一	一	一	〇	一	一	二	二・四八	八六・三
五月	一〇	〇	二二六	七	一	一	一	〇	一	一	二	二・四八	八七・二
四月	五	一	九八	一〇	一	一	一	〇	一	一	二	二・四八	七二・一
三月	三	一	六四	七	一	一	一	〇	一	一	二	二・四八	六〇・一
二月	三	一	六二	六	一	一	一	〇	一	一	二	二・四八	五九・九
一月	三	一	四八	六	一	一	一	〇	一	一	二	二・四八	五〇・四
計	二	四	一、三三八	六	一	一	一	〇	一	一	二	二・四八	一〇〇・〇〇

備考 1、本表ハ最近十ヶ年間ニ於ケル平均一ヶ年ノ患者ニ就キ發生月別ヲ掲ゲ  
 2、平均人員ハ四捨五入法ニヨル、△印ハ一人ニ達セザルコトヲ示ス  
 3、赤痢ニハ疫痢ヲ含ム  
 4、詳細ハ第二ノ三(一一二頁)、第三ノ三(一三六頁)、第四ノ(ロ)表(一四九頁)参照

第二腸「チフス」

一 腸「チフス」患者者累年比較

腸「チフス」ハ本縣ニ於ケル法定傳染病中近年最多數ヲ占ムルモノニシテ最近十ヶ年間ニ於テ患者總數ノ五九%餘ニ當ル。  
**累年比較** 最近十ヶ年間ニ於ケル患者發生ノ消長ヲ觀ルニ、昭和二年八三五名、昭和三年、四年ニハ一、〇〇〇一、一〇〇〇人臺ニ増加、更ニ五、六、七年ノ三ヶ年ハ一、三〇〇一、四〇〇〇人臺ニ増加シタルニ、翌八年ニ至リテハ更ニ一、六〇二名ヲ算スルニ至リタル處、九年ニ及ビテハ二、〇三〇名ノ記録的多發ヲ見、逐年増加ノ趨勢ヲ辿リ來リタルガ、翌十年ニハ前年ヨリ約六七〇名減少一、三五五名トナリ、十一年ニ至リテハ更ニ三、〇〇〇名ヲ減ジ一、〇五〇名トナリ、最近ハ漸ク患者減少ノ傾向ニ趨キタリ。而シテ十ヶ年間ノ發生ヲ平均スルトキハ一、三二八名ニシテ内死亡者ハ一七五名患者百ニ付一三・一八八ノ割合ナリ。之ヲ人口ニ對スル發生率ニ於テ觀ルモ、同様上昇下降ノ線ヲ一ニシ、人口一萬ニ付昭和二年七・七四人ノ發生ガ年々高昇シ昭和四年ニハ一〇人臺ヲ突破シ、以後昭和七年迄一〇一・二二人ニ及ビ、更ニ昭和八年一三・四二人、九年ニハ一六・六二人ニ激昇シ遂ニ全國第一ノ高率ヲ見タルガ、爾後ハ患者數ノ減少ニ伴ヒ發生率モ急降ヲ示シ、人口一萬ニ付昭和十年一〇・九七人、十一年八・五六人ニ低下セリ。而シテ十ヶ年間ノ平均發生率ハ一・四六人ナリ。(次表參照)

**全國對比** 以上ノ發生率ヲ全國平均ニ比率スルニ、昭和三年以前ハ著シキ差違ヲ認メザリシニ、昭和四年以降ハ全國ノ約二倍ニ相當スル高率ヲ示シ、昭和八年ニハ二倍半近クニ達シ、更ニ九年ニハ約三倍ニ近キ高率ヲ示シタルガ、翌十年ニハ約二倍ニ復歸、更ニ十一年ニハ約一倍半ニ低下セリ。面シテ之ヲ十ヶ年間平均ニ於テ觀レバ全國ノ五・九二人ニ對シ本縣一・四六人約二倍ノ發生率ナリ。(次表參照)

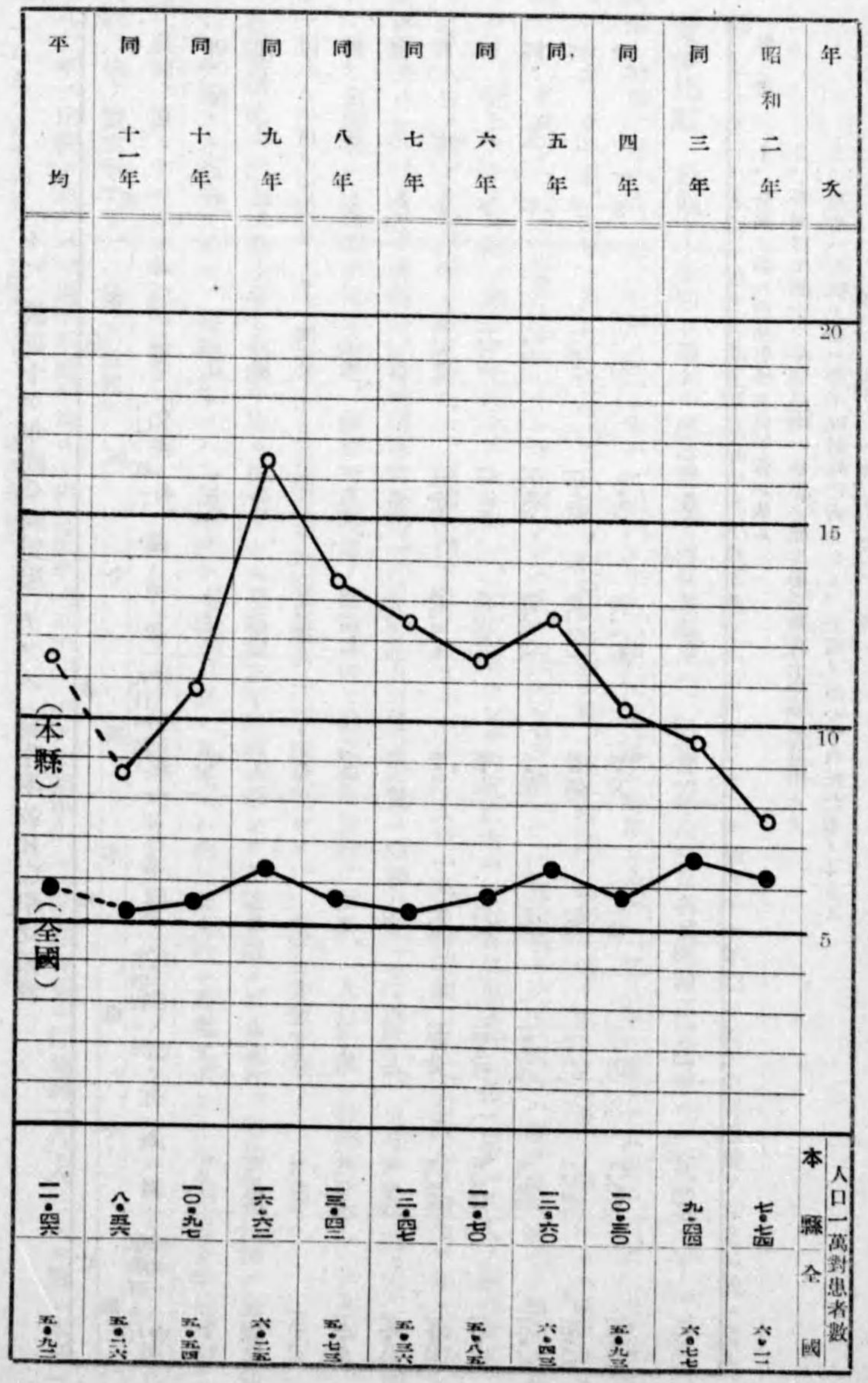
死亡率ノ比較ニ於テハ、累年全國平均ヨリ相當低率ニシテ、十ヶ年間平均ニ於テ患者百ニ付全國一八・八三人ニ對シ本縣一三・一八八人ニシテ約五人ノ低率ナリ。(次表參照)

(イ) 最近十ヶ年間全國對腸「チフス」發生率並死亡率比較表

年 別	本 縣		全 國		本 縣		全 國	
	患者數	人口一萬ニ付患者	患者數	人口一萬ニ付患者	死者數	患者百ニ付死亡	死者數	患者百ニ付死亡
昭和二年	八三五	七・七四	三、七五五	六・一一	一一〇	一三・一七	七、三三	一九・五二
同 三 年	一、〇二一	九・四四	四、〇六五	六・七七	一五五	一四・九〇	八、一〇〇	一九・四九
同 四 年	一、一四三	一〇・三〇	三、七三三	五・九三	一三三	一一・五五	七、五〇三	二〇・〇九
同 五 年	一、四四〇	一三・六〇	四、四三四	六・四三	一七五	一一・〇一	七、八二七	一八・八九
同 六 年	一、三五一	一三・四〇	三、八二五	五・八五	一七七	一三・一〇	七、五九九	一九・八六
同 七 年	一、四四五	一三・四七	三、五五九	五・三六	一八九	一一・九九	六、五〇一	一八・三〇
同 八 年	一、六〇一	一五・四一	三、八五二	五・七三	二二五	一四・〇四	七、三三	一八・七七
同 九 年	二、〇三〇	一六・六一	四、五九五	六・三五	二七八	一三・六九	七、七三	一八・一五
同 十 年	一、三五五	一〇・九七	三、八三三	五・五五	一八三	一三・五一	六、八四三	一七・八四
同 十 一 年	一、〇五〇	八・五五	三、六九一	五・二六	一三四	一二・七六	六、四〇九	一七・三六
平 均	一、三三八	一一・四六	三、八五七	五・九二	一七五	一二・一八	七、三八	一八・八三

備考 1、全國ノ部ハ内務省衛生局年報ニ依ル  
 2、全國發生率十ヶ年間平均ハ各年ノ發生率ヲ集計十分シテ算出セリ  
 3、死者ハ本縣ノ部ハ翌年繰越死亡者ヲ含ミ、全國ノ部ハ年内死亡者ノミトス

(口) 最近十ヶ年間全國對腸チフス患者發生率(人口)比較圖表



二 腸「チフス」患者都市別

都市別ノ患者發生數八年ニ依リ消長アレドモ、之ヲ最近十ヶ年間ノ平均ニ於テ見ルニ、先ヅ患者實數ニ於テハ仙臺市ノ三二二名ヲ筆頭ニ、本吉郡一六四名、牡鹿郡一七名ヲ多トシ其ノ他ハ百名以下ナルモ、之ヲ人口ニ對スル發生率(人口一萬ニ付患者數)ニ就テ觀レバ、本吉郡ノ一九・六七ヲ最高トシ、牡鹿郡一九・〇五、仙臺市一六・五八、加美郡一三・七七、志田郡一三・二三、石卷市一二・四八ノ順ニ縣下平均一一・四六ヨリ高率ナルモノ二市四郡ニシテ、右平均率ヨリ低率ナルハ以下十二郡ナリ。即チ伊具、柴田、遠田、桃生、宮城、名取、登米、刈田、玉造、亘理、栗原、黒川ノ諸郡ニシテ就中全國平均五・九三ヨリモ低率ナルハ黒川二・二五、栗原四・四四、亘理五・四五ノ三郡ナリ。(次表参照)

最近十ヶ年間腸「チフス」患者都市別表

都市別	年別										患者數	人口一萬ニ付患者數	死者數	患者百ニ付死亡
	昭和二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年				
仙臺市	二五二	二二三	三三九	三九九	三三三	四二七	三三八	二九九	三四一	三五二	三三三	一六・五八	35	一〇・八七
石卷市	X	X	X	X	X	X	四三	一七	四四	五四	四〇	一一・四八	6	一五・〇〇
刈田郡	二六	一八	二六	五四	三五	三三	八七	二四	一七	二二	三四	六・六八	5	一四・七一
柴田郡	三三	一〇	一〇	六	八〇	三九	一五七	六五	三三	二六	四八	一〇・八五	6	一一・五〇
伊具郡	三三	二八	三三	四九	八六	二六	八九	九二	五三	三三	六二	一一・三三	8	一三・一一
亘理郡	二七	二八	二二	七	一三	三三	二二	九二	四〇	九	一八	五・四五	3	一六・六七
名取郡	三九	二二	四六	四三	五九	六九	九二	六三	八二	七三	五九	九・三三	10	一六・九五
宮城郡	五〇	六六	一〇三	九二	一三	七九	一一	八三	二二	七四	八九	九・四三	16	一七・九八

郡	黒川	加美	志田	玉造	遠田	栗原	登米	桃生	牡鹿	本吉	計
昭和二年	四六	二四	二〇	七	四	二七	二	七	八	一	八三
三年	二二	一九	八八	七	四	二四	三	三	八	二	一〇七
四年	九	一〇	二四	四	三	二	三	二	一	一	一三
五年	二	二六	二六	一	三〇	二	五	二	三	一	四〇
六年	七	二四	二	七	九	五	七	二	九	一	三〇
七年	五	一六	三〇	四	二	二	八	八	八	一	三三
八年	二	三六	三九	〇	六	五	三	六	六	一	四〇
九年	二	七六	三九	三	八	九	二	二	九	一	五三
十年	七	二六	三〇	一	一〇	二	二	一	六	一	四七
十一年	七	二六	三〇	一	一〇	二	二	一	六	一	四七
平均	二・五	一三・七	一三・三	六・〇	一〇・六	四・四	九・二	九・六	一〇・〇	一〇・六	一三・八
均	一四・六	一〇・〇	一五・一	一五・七	一五・九	一一・二	一一・五	一一・二	一一・四	一一・二	一一・二

備考 石巻市ハ昭和八年ヨリ市制施行、以前ハ牡鹿郡ニ合ム(平均ハ四ヶ年間トス)

三 腸「チフス」患者發生月別

最近十ヶ年間ニ於ケル患者發生數ハ一ヶ月平均一〇名ヲ算シ、之ヲ各月別ニ觀ルニ八、九、十ノ三ヶ月最多ク總數ノ約四〇%ヲ占ム。就中九月ヲ頂點トシ平均人員一九三名、一四・五四%ヲ占メ、右三ヶ月ニ次グモノトシテハ五、六、七、十一、十二ノ五ヶ月ニシテ各月七——一〇%ヲ占メ、一月ヨリ四月ニ至ル四ヶ月間ハ各月三——五%ニシテ比較的少シ。要之一——四月ニハ割合ニ少ク、五月ニ入りテ急激ニ増加、爾後九月迄月ヲ逐フテ増加ノ一途ヲ辿リ、十月ヨリ漸次減少シ居ル狀況ナリ。(次表参照)

最近十ヶ年間腸「チフス」患者發生月別表

月別	年別										平均	均	
	昭和二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年			
一月	二七	三六	三七	四三	六四	四五	六八	一〇四	七二	三〇	四八	五四	四・〇七
二月	一九	六二	五六	八〇	三三	七二	五八	六二	七二	三〇	四八	五四	三・六一
三月	二二	五六	五四	三三	五〇	九三	四九	一〇六	七二	五三	六二	六二	四・五九
四月	二二	三四	三四	四五	八〇	四九	九五	一〇六	七二	五三	六二	六二	四・八二
五月	四四	三四	三四	一〇三	九三	一一一	一五二	一三四	九三	八二	六八	九八	七・三八
六月	八三	五四	五四	一〇三	九三	一一一	一五二	一三四	九三	八二	六八	九八	九・四九
七月	五四	八一	七八	一〇三	九三	一一一	一五二	一三四	九三	八二	六八	九八	九・八六
八月	一一〇	一一〇	一〇〇	一一三	一四六	一八一	二二五	二二二	一六九	一一七	一一一	一三二	二三・二五
九月	一四二	一四九	一四四	一七〇	二一六	二七三	二九八	二六六	一六六	一七六	一七二	一九三	一四・五四
十月	一七	一四	一四	一三	一〇	一七	一五	一四	一四	一四	一四	一五	二・六〇
十一月	七二	七〇	五四	八四	八九	一一三	一六三	一五九	一五九	一一一	一一一	一一四	八・五八
十二月	一一五	九八	七〇	二八	九〇	一六六	一三四	一五〇	六三	七九	一〇九	一〇九	八・二二
計	八三五	一、〇七	一、一四	一、二二〇	一、四八一	一、五五	一、六〇	一、七三	一、八三	一、九〇	一、九八	二、〇〇	一〇〇・〇〇

四 腸「チフス」患者年齢別

最近十ヶ年間ニ於ケル患者ノ年齢別ヲ觀レニ、六歳乃至二十五歳ノモノ比較的多數ニシテ總數ノ五〇%餘ヲ占メ、就中六一——二〇歳ノモノニ多シ。以下漸次年齢ノ高昇スルニ從ヒテ階段狀ニ少數トナル。

尙昭和十、十一兩年ノ患者ニ就キ性別ヲ觀ルニ男ハ約五四%、女ハ約四六%ニシテ男子ノ罹患者多シ。(次表参照)

最近十ヶ年間腸「チフス」患者年齢別表

年齢別	年別											平均
	昭和二年同	三年同	四年同	五年同	六年同	七年同	八年同	九年同	十年同	十一年同	平均	
一五歳	五七	五二	五四	七三	四六	九九	七二	一九	七二	七五	七三	七三
六一〇歳	八〇	一五三	一九一	一三四	一三七	一七九	一九一	一五三	一九九	一九	一九	一九
一一一五歳	一一九	一四五	一九〇	一三〇	一三〇	一八三	一七四	一五三	一四四	一六七	一三三	一三三
一六一〇歳	一七六	一八一	二二一	二六一	二二〇	二八三	二七四	二七三	二四四	二七九	二二五	二二五
二一一二五歳	一〇五	一三三	一五六	一七八	一三八	一四九	一四一	一三三	一〇三	一七三	一三三	一三三
二六一三〇歳	九三	一〇一	一三六	一四四	一三五	一〇七	一〇一	一三三	一六九	一六一	一三三	一三三
三一三五歳	五三	六四	五九	一〇八	八九	九三	一〇〇	一三三	一三七	一三七	一三三	一三三
三六一四〇歳	四四	六一	四〇	八四	七〇	五五	八〇	九三	七七	七二	一〇八	一〇八
四一四四五歳	三〇	三三	五〇	五九	四七	五九	五九	八〇	四七	四二	五二	五二
四六一五〇歳	三一	三三	三三	四二	三九	四一	三一	五〇	三九	三三	三三	三三
五一五五歳	二〇	二二	二二	二二	三〇	二八	二二	三一	二二	二二	二二	二二
五六一六〇歳	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
六一一六五歳	七	一八	一六	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
六一一七〇歳	四	五	六	五	六	六	六	六	六	六	六	六
七一七五歳	四	一	二	六	五	一	二	四	二	一	一	一
計	八三三	一,〇一七	一,一四三	一,二四〇	一,一三一	一,一五五	一,二〇一	一,一〇〇	一,一五三	一,〇八〇	一,一五三	一,一五三
七六一八〇歳												1
八一八五歳												0.03

備考 一、年齢ハ算へ年ニヨル

二、男女別 昭和十年 男 七二九人(五三・八〇%) 女 六二六人(四六・二〇%) 昭和十一年 男 五六八人(五四・一〇%) 女 四八二人(四五・九〇%)

五 腸「チフス」患者職業別

最近十ヶ年間ノ患者職業別ニ於テハ無業最多ヲ占メ、内學生々徒兒童等ノ在學者ガ二六・七三%、其ノ他ノ無業者ガ二九・一四%ニシテ、次デ農業ノ二二・八二%ヲ多トシ右三者ニテ總數ノ約七九%ヲ占メ、其ノ他ハ商業ノ五・五七%以下ニアリテ比較的僅少ノ割合ニ過ギズ。(次表参照)

最近十ヶ年間腸「チフス」患者職業別表

職業別	年別											平均
	昭和二年同	三年同	四年同	五年同	六年同	七年同	八年同	九年同	十年同	十一年同	平均	
農業	二二	一四七	二三五	一〇三	三六四	三〇七	三七一	五三七	三三八	二七七	二〇四	二〇四
水産業	三	二六	三九	三〇	三九	五三	二八	三一	三〇	二七	三三	三三
鑛業	一		二		一			四	一		一	一
工業	二六	三三	四九	六八	七四	六三	三七	五七	六六	四〇	五一	五一
商業	六二	七六	九〇	五七	八二	六五	八九	八三	八七	四六	七四	七四
計	八三三	一,〇一七	一,一四三	一,二四〇	一,一三一	一,一五五	一,二〇一	一,一〇〇	一,一五三	一,〇八〇	一,一五三	一,一五三
均%	二・八二	二・四一	二・〇八	一・四八	三・一四	二・六三	二・九一	二・八六	二・八二	二・五七	二・五七	二・五七

交通業 醫師、産婆 公務 自由 看護婦 其他 家事 使用人 其他ノ有業者 生徒、児童 無業 其他	年別											平均	%		
	昭和二年同	三年同	四年同	五年同	六年同	七年同	八年同	九年同	十年同	十一年同	平均				
計	八三五	一、〇七九	一、一四五	一、三三〇	一、五二〇	一、七一一	一、九三三	二、一六三	二、四〇〇	二、六四七	二、九〇〇	三、一五三	三、四一八	一、三三八	一〇〇・〇〇
交通業	二	七	七	七	六	七	五	八	七	七	七	七	五	七	〇・五三
醫師、産婆	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	〇・一五
公務	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	〇・六〇
自由	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	〇・二五
看護婦	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	〇・二七
其他	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	〇・三九
家事使用人	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	一・一三
其他ノ有業者	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三・九一
生徒、児童	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	一・一三
無業	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三・〇九
其他	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二・七三
計	八三五	一、〇七九	一、一四五	一、三三〇	一、五二〇	一、七一一	一、九三三	二、一六三	二、四〇〇	二、六四七	二、九〇〇	三、一五三	三、四一八	一、三三八	一〇〇・〇〇

六 腸「チフス」患者感染経路

最近十ヶ年間ノ患者ニ就キ其ノ感染経路ヲ觀ルニ、不明ノモノ總數ノ四七・二一%ニシテ殆ド半數ニ近ク、分明ノモノハ約五三%ナリ。此ノ分明セルモノニ就キテ觀ルニ最多ヲ占ムルハ交通飲食關係ニ因ルモノニシテ四六%餘、次デ家族同居感染三三%餘ニシテ兩者ニテ約八〇%ヲ占ム。猶流水關係約一〇%、井戸關係五・七%ニシテ爾他ハ僅少ナリ。(次表参照)

最近十ヶ年間腸「チフス」患者感染経路調査表

経路別	年別											平均	%
	昭和二年同	三年同	四年同	五年同	六年同	七年同	八年同	九年同	十年同	十一年同	平均		
交通飲食	一三五	一〇八	二〇一	四一三	三七五	三七三	四〇〇	五二七	三二五	一七六	三二四	四六・二一	三三・三五
家族同居者	一一七	一九四	二五三	二九	二七六	二六〇	二六五	三三二	二九九	一五三	二三四	三三・三五	三三・三五
計	二五二	三〇二	四五四	四四二	六五一	六三三	六六五	八五九	六二四	三二九	六五八	八〇・五六	六六・七〇

流水使用 井戸共用 看護中 保菌者 其他 計	不明	年別											平均	%
		昭和二年同	三年同	四年同	五年同	六年同	七年同	八年同	九年同	十年同	十一年同	平均		
流水使用	二二	六二	二二	三七	五五	二七	七七	二六七	九七	三八	七〇	九・九七	九・九七	
井戸共用	一三	三八	二〇	五八	三六	八〇	二八	二七	九〇	一一	五〇	五・七〇	五・七〇	
看護中	九	四	五	一一	九	一五	三三	一六	一五	二一	一五	一・八六	一・八六	
保菌者	一	一	一	二	九	一	一〇	一八	二二	一八	一	一・五七	一・五七	
其他	五	一	一	一	二	一	二	一	二	四	四	一〇	一〇	
計	五〇〇	一〇六	一〇一	一七二	一三九	一八四	一〇二	一〇七	一四一	一〇二	一〇一	一五・七九	一五・七九	
不明	五三五	五二二	五四一	六五八	五五六	六六四	七六八	八三三	五六五	六三九	六二七	四七・二二	四七・二二	
合計	八三五	一、〇七九	一、一四五	一、三三〇	一、五二〇	一、七一一	一、九三三	二、一六三	二、四〇〇	二、六四七	二、九〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	

七 腸「チフス」患者發見別

患者ノ發見處置ハ醫師ノ届出ニ依ルヲ主要ナルモノトスルモ、檢病調査或ハ健康診断等ニ依リテ發見スルモノモ相當アリ。最近十ヶ年間ニ於テハ醫師ノ届出ニ依ルモノ六九%餘、檢病調査及健康診断ニ依ルモノ三〇%餘ナリ。此ノ外僅少ヲ投書、密告等ニ依リテ發見セルモノモ若干アリ。(次表参照)

最近十ヶ年間腸「チフス」患者發見別調査表

發見別	年別											平均	%
	昭和二年同	三年同	四年同	五年同	六年同	七年同	八年同	九年同	十年同	十一年同	平均		
醫師届出	六六四	八八九	八二二	九八八	八六一	九一〇	一、〇〇二	一、二五八	九六〇	九二八	九二二	六九・四五	六九・四五
檢病調査及健康診断	一七二	一九七	三二六	四五〇	四七六	五四三	五九四	七七一	三八〇	一一九	四〇二	三〇・二五	三〇・二五
投書	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
密告	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	八三五	一、〇七九	一、一四五	一、三三〇	一、五二〇	一、七一一	一、九三三	二、一六三	二、四〇〇	二、六四七	二、九〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇



投書密告其ノ他	昭和四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年	平均	均
計	八五五	一,〇一九	一,一五八	一,二五〇	一,三五一	一,四三三	一,五〇〇	一,五八〇	一,一三〇	一,〇〇〇
									八六・三	一〇〇・〇〇

八 腸「チフス」患者發病——初診期間

最近八ケ年間ニ於ケル患者ノ發病ヨリ初診迄ノ期間ニ就テハ、發病後一週間以内ニ醫療ヲ受ケタルモノ最モ多ク總數ノ六五・五五%ヲ占メ、次デ二週間以内ノモノ二四・二三%、右兩者ニテ約九〇%ノ大部分ヲ占ムル狀況ニテ、其ノ他ハ三週間以内ノ五・一一%ヲ稍多シトシ、夫レ以上ノ期間ノモノハ極メテ僅少ナリ。(次表參照)

最近八ケ年間腸「チフス」患者<sup>自發病</sup>至<sup>初診</sup>期間別調査表

期間別	年別											平均
	昭和四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年	人	均		
一週間以内	六五五	八七〇	八三三	九〇三	一,〇八一	一,一七一	九五六	七六七	九五六	六五・五		
二週間同	二六三	三六三	三八〇	三九二	四一四	四三三	二九〇	三三三	三六六	二四・三		
三週間同	四四	八七	六七	一〇三	九四	八三	五八	五〇	七三	五・一		
四週間同	一九	一九	二〇	一九	二九	一七	七	七	一四	一・九		
五週間同	一	二	六	七	二	一	四	一	三	〇・一一		
六週間目以上	一	二	一	一	一	二	一	一	一	〇・〇九		
不詳	一六〇	七七	三六	三三	三三	三四	三九	三	三三	三・六		
計	一,一五五	一,〇七〇	一,一五八	一,二五三	一,四〇一	一,五〇〇	一,五八〇	一,〇九〇	一,一三〇	一〇〇・〇〇		

備考 昭和三年以前ノ分ハ不明

九 腸「チフス」患者初診——診定期間

最近八ケ年間ノ患者ニ就キ初診ヨリ診定ノ期間別ヲ觀ルニ、初診時ヨリ一週間以内ニ診定ノモノ八六・三一%ニシテ大略ヲ占メ、二週間以内ノモノ猶一・七八%アルモ、三週間以上ニ渉ルモノハ僅少ナリ。(次表參照)

最近八ケ年間腸「チフス」患者<sup>自初診</sup>至<sup>診定</sup>期間別調査表

期間別	年別											平均
	昭和四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年	人	均		
一週間以内	九二〇	一,二四九	一,一三三	一,一〇八	一,一六五	一,一八〇	一,三一一	九三三	一,三三〇	八六・三		
二週間同	一五七	一七〇	一六六	二二五	二二四	一七九	二二五	二一六	二六八	二・七八		
三週間同	一六	一八	二六	二六	一七	一四	二一	二	一五	一・〇五		
四週間同	一	一	三	四	六	一	三	一	四	〇・三八		
五週間同	一	一	一	一	一	一	一	一	一	〇・一		
六週間目以上	一	一	一	一	一	一	一	一	一	〇・〇一		
不詳	五三	二	一	一	一	二	二	一	八	〇・五六		
計	一,一五五	一,〇七〇	一,一五八	一,二五三	一,四〇一	一,五〇〇	一,五八〇	一,〇九〇	一,一三〇	一〇〇・〇〇		

備考 昭和三年以前ノ分ハ不明

十 腸「チフス」患者發病——診定期間

更ニ發病ヨリ診定ニ至ル期間、即チ腸「チフス」ノ病名未確定ノ儘經過スル期間ニ就テハ、可及的短期間ナルヲ望ム所ナルガ、之ニハ發病ヨリ初診迄ノ期間ノ關係スルコト多キハ勿論ナリ。最近十ケ年間ニ於ケル狀況ヲ觀ルニ、一週間以上二週間以

内ノモノ最モ多ク總數ノ四九%餘ヲ占メ、次デ一週間以内ノモノ約三五%、兩者ニテ總數ノ約八四%ヲ占ムルモ、猶三週間以内ノモノ約一二%、四週間以内ノモノ約三%アリ。其ノ上僅少年ラモ五週間以内、六週間以上ノモノズラ若干アリ。早期診断ノ徹底ヲ必要トスル所以ナリ。(次表参照)

最近十ヶ年間腸「チフス」患者自發病至診定期間別調査表

期間別	年別										平均	
	昭和二年同	三年同	四年同	五年同	六年同	七年同	八年同	九年同	十年同	十一年同		人員
一週間以内	二五〇	四〇五	三四五	四九五	四〇一	五九〇	五七七	八七一	五五二	四二七	四六三	三三・八四
二週間同	四五九	四八五	五七九	六九四	七〇六	七八五	八七	九〇四	六〇一	四七七	六三三	四九・〇六
三週間同	一一三	一一四	一七二	一九五	一六五	二二七	一八四	一七三	一一三	一六	一五八	一一・八九
四週間同	二四	一九	三九	三九	四六	四九	五七	四〇	二四	三三	三六	二・七一
五週間同	八	四	一〇	二二	一〇	一三	一四	六	五	三	一〇	〇・七
六週間目以上	一	二	一	九	三	一	三	三	四	一	三	〇・二
計	八三三	一,〇一八	一,一八三	一,二八〇	一,三六一	一,三九五	一,六〇一	一,六〇〇	一,三三三	一,〇八〇	一,三三三	一〇〇・〇〇

十一 腸「チフス」患者發病——治癒期間

最近十ヶ年間ニ於ケル一ヶ年平均患者數一、三二八名中全治轉歸セルモノ八一、一五二名ニシテ治癒率八六・七九%ナリ。之ヲ發病ヨリ全治迄ノ期間別ニ分ツニ、六週間ヲ要セシモノ最モ多ク總數ノ一九・六一%ヲ占メ、次デ五週間一七・三七%、七週間一七・一〇%、八週間一二・九二%ノ順ニ多ク、畢竟五—八週間ニ於テ六七%餘ヲ占ムル狀況ナリ。其ノ他ハ少數ナルモ、二

週間以内ノモノ、又最長二十五週間、三十八週間ヲ要セシモノモアリ。(次表参照)

最近十ヶ年間腸「チフス」患者自發病至診定期間別調査表

期間別	年別										平均	
	昭和二年同	三年同	四年同	五年同	六年同	七年同	八年同	九年同	十年同	十一年同		人員
一週間以内	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二週間同	六	一一	五	二	一〇	三	六	四	六	一	六	〇・三二
三週間同	二七	六二	八三	一七	三三	一九	三二	五二	三〇	二九	三八	三・一九
四週間同	七	一〇	八	一七	一〇	八一	一一	一八一	一〇	九二	一〇九	九・四三
五週間同	七	一六	一三	一四	一〇〇	八二	一一	一八二	一〇	九二	一〇〇	一七・七
六週間同	一七	一六	一八	一四	一〇	二四	二六	三九	二二	一九	二二	一九・〇
七週間同	一〇	一八	一八	一七	一〇	二七	二六	二八	二二	二二	二二	一九・〇
八週間同	九	九	一七	一六	二二	二八	二九	二〇	一四	一五	一四	一七・〇
九週間同	五	七	一〇	一四	一〇	二二	一九	一一	八	五	九	七・九七
一〇週間同	〇	七	五	八	〇	六	六	六	六	八	五	四・九三
一一週間同	一	一	三	〇	一	四	二	五	三	三	三	二・八五
一二週間同	八	七	二	三	一	一	一	二	二	一	一	一・五六
一三週間同	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一四週間同	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一五週間同	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

死亡期間	昭和二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	平均	均%
一六週間同	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
一七週間同	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
一八週間同	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
一九週間同	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
二〇週間同	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
二一週間同	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
二二週間同	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
二四週間同	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
二五週間同	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
三八週間同	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
不明	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100.00

十二 腸「チフス」患者發病——死亡期間

最近十ヶ年間平均死亡率ハ患者百ニ付一三・二一人ニシテ其ノ實人員一七五名ナリ。之ヲ發病ヨリ死亡迄ノ期間別ニ觀ルニ最短三日ヨリ最長十七週間ニ及ブモノアリ。最モ多キハ三週間以内ノモノニシテ總數ノ二七・二二%ヲ占メ、次デ二週間以内ニ〇・三四%、四週間以内一八・〇七%、五週間以内一・四二%、六週間以内六・七七%ノ順ニシテ結局二——五週間内ノモノ總數ノ約七八%ヲ占ム。(次表參照)

最近十ヶ年間腸「チフス」患者自發病至死亡期間別調査表

期間別	昭和二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	平均	均%
一 日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
二 日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
三 日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
四 日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
五 日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
六 日	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
七日以内	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
二週間	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
三週間	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
四週間	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
五週間	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
六週間	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
七週間	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
八週間	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
九週間	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
一〇週間	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.14
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100.00

計	一週間同	二週間同	三週間同	四週間同	五週間同	六週間同	七週間同	不明
110								
125								
133								
155								
177								
189								
235								
278								
283								
314								
19%								
100.00								

第三 「チフテリア」

一 「チフテリア」患者發生概況

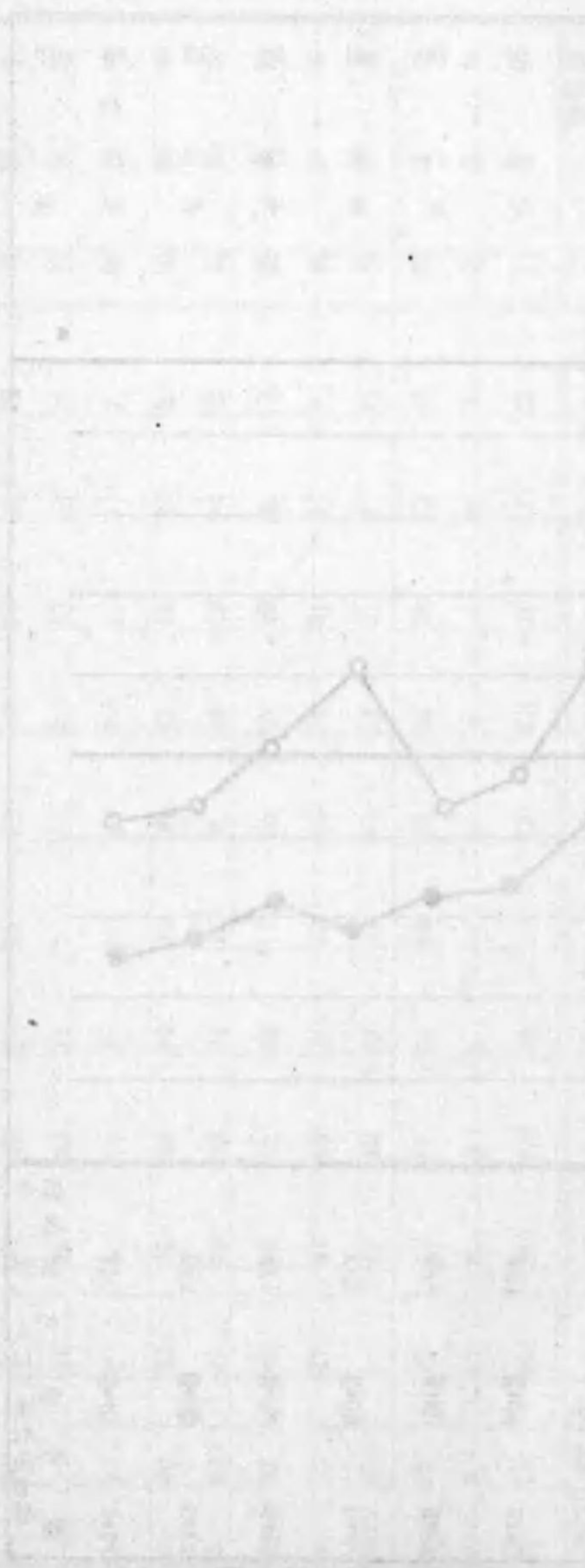
「チフテリア」ハ本縣法定傳染病中腸「チフス」ニ亞グ發生數ヲ示シ、最近十ヶ年間ニ於テ一ヶ年平均患者六一三名（内死者一〇三名）ヲ算シ、法定傳染病總數ノ一七%餘ヲ占ム。

之ガ累年ノ消長ヲ觀ルニ、昭和二、三、四年ニハ年々四〇〇―五〇〇臺ノ發生ナリシガ、昭和五年ニ至リ六九四名ニ増加シ翌六年、七年ノ二ヶ年ニハ四、五百人臺ニ減少セルモ、昭和八、九兩年ニ至リテ再ビ七二〇名臺ニ増加シ、更ニ十年ニハ八〇二名ヲ算シ最高發生ヲ示シタルガ、翌十一年ニハ約一六〇名ヲ減ジ六三八名ノ發生ニテ略々十ヶ年平均數ニ同ジキニ至レリ。

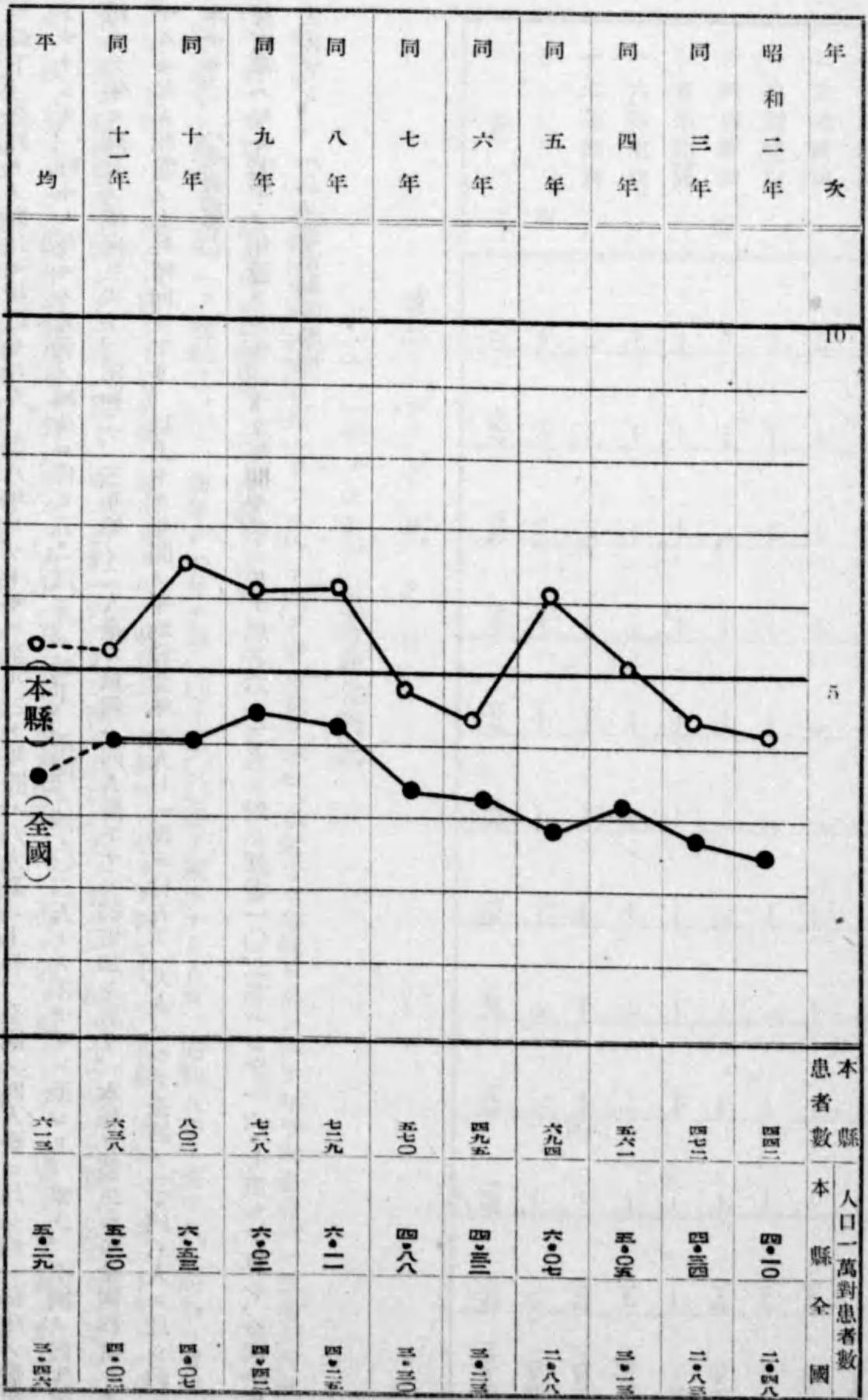
此ノ間ノ發生率ヲ全國平均發生率ニ對比スルニ人口一萬ニ付患者數昭和二、三年ハ四人臺ニシテ、全國ノ二人臺ニ對シ約二倍ノ發生率ヲ示シ、昭和四、五年頃ハ五―六人臺ニ上昇セルモ依然約二倍ノ發生率ナリシガ、昭和六、七年頃ニ至リ再ビ四人

臺ニ低下、全國トノ對比モ接近セルガ、翌八年ヨリ十年ニ至ル三ヶ年間ハ六人臺ニ上昇、全國ノ四人臺ニ比シ約一倍半ノ發生率トナリシガ、昨十一年ニハ患者ノ減少ニ伴ヒ五・二〇人ニ低下、全國ノ四・〇二人ト大差ナキニ至レリ。要之、全國ノ發生率モ概シテ年々高昇ノ傾向ニアリ、昭和二、三年頃ノ二人臺ガ最近ハ四人臺トナリ約倍加シ居リ、本縣ノ發生率モ全國程著シカラザルモ年々相當ノ上昇傾向ニアリ。以上十ヶ年間ノ平均發生率ハ人口一萬ニ付五・二九人ニシテ全國ノ三・四六人ニ比シ約一倍半ナリ。（次表參照）

死亡率ハ年々若干ノ相違アルモ、十ヶ年間平均ニ於テ患者六一三名ニ對シ死者一〇三名ニシテ一六・七三%ヲ算シ、全國平均ト大差ナシ。（二ノ郡市別表參照）



最近十ヶ年間全國對「チフテリア」患者發生率(人口一萬對)比較表



備考 全國發生率ハ衛生局年報ニヨル

備考 全國發生率ハ衛生局年報ニヨル

二 「チフテリア」患者郡市別

最近十ヶ年間平均ニ於ケル郡市別患者數ヲ觀ルニ、實數ニ於テハ仙臺市ノ一ヶ年一五一名ヲ最多トシ、其ノ他ハ登米郡五五名、刈田郡五三名、本吉郡四六名、亘理、桃生兩郡各三八名、栗原郡三五名、宮城郡三三名ノ發生順ニシテ、少キハ石卷市、黒川郡ノ各六名、玉造郡九名等ナリ。(次表參照)

最近十ヶ年間「チフテリア」患者郡市別表

郡市別	昭和二年同	三年同	四年同	五年同	六年同	七年同	八年同	九年同	十年同	十一年	平均	患者一死者均
仙臺市	七	一二	一五	一五	九	一一	一六	一七	一六	一七	一五	23
石卷市	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	2
刈田郡	二七	三三	七四	五三	四〇	七四	六六	六八	五	一〇	六	7
柴田郡	二五	七	一七	四六	二九	一六	二五	四	二七	八	二	5
伊具郡	八	七	一四	一八	三	一八	二六	二七	二〇	一四	二	4
亘理郡	三	二	四	八	三	二	三	三	二八	二七	三	4
名取郡	三	二	四	五	七	二	三	二	二九	一八	二	4
宮城郡	二	二	三	三	二	二	三	三	二	二	三	5
黒川郡	九	二	一	五	三	二	四	六	六	二	六	1
加美郡	八	三	二	九	七	八	九	三	六	九	一	3
志田郡	八	三	二	九	七	八	九	三	六	九	一	3

患者百ニ付死亡	内死者	患者計	本吉郡	牡鹿郡	桃生郡	登米郡	栗原郡	遠田郡	玉造郡
			一七・六五	七八	四四二	二七	二四	五一	二二
二〇・三四	九六	四七二	二五	六	三〇	四三	二二	二〇	五
一五・六九	八八	五六二	三三	一四	二九	三五	二二	一八	四
一七・〇〇	二八	六九四	三五	一四	二九	二二	二四	一〇	八
一七・五八	八七	四九五	二七	一七	一七	三九	二九	一五	一〇
一〇・〇〇	一四	五七〇	三五	一六	六二	八三	三五	一九	三
一六・一九	二八	七九	七八	二二	五一	八九	四二	一五	一三
一四・五〇	一〇	七二八	二九	一五	三三	七三	四七	二四	一六
一五・九六	二八	八〇二	五	二二	二五	三八	四七	三五	一一
一四・四二	九	六九九	一四	二八	五一	三三	六二	三一	五
一六・七五	一〇	六二	四六	一八	五	五	三	二	九

備考 1、死者ハ翌年繰越死亡者ヲ含ム  
2、石巻市ハ昭和八年ヨリ市制施行、以前ハ牡鹿郡ニ含ム(平均ハ四ヶ年間トス)

三 「チフテリア」患者發生月別

最近十ヶ年間ニ於ケル患者ノ發生月別ヲ觀ルニ、一月—四月及十月—十二月ノ寒季ニ多ク、就中十一月、十二月兩月ハ最も多數ノ發生ヲ示シ總數ノ二五%餘ヲ占ムル狀況ナリ。(次表参照)

最近十ヶ年間「チフテリア」患者發生月別表

月別	年別										平均	
	昭和二年同	三年同	四年同	五年同	六年同	七年同	八年同	九年同	十年同	十一年同		
一月	五三	二八	三九	五〇	五八	三三	九一	六九	八一	五三	五六	九・三
二月	四八	四八	六五	六二	五八	四〇	一一	七九	七一	五二	六三	一〇・二六
三月	四四	五〇	五四	六六	六〇	三三	五九	八四	七三	七九	六〇	九・七七
四月	五八	四三	六二	四六	四四	四二	五九	七一	八八	八一	五九	九・六一
五月	三三	二八	五〇	四〇	四二	三九	六八	四四	六二	六二	四七	七・六六
六月	二七	二七	三六	四〇	四二	四六	三七	三〇	八七	六八	四〇	六・五二
七月	一一	一九	二六	二二	二六	四六	三七	三〇	八七	六八	四〇	六・五二
八月	一一	一九	二六	二二	二六	四六	三七	三〇	八七	六八	四〇	六・五二
九月	二二	一六	一六	二二	一九	一一	二二	三三	三七	三七	三三	四・〇七
十月	二二	一六	一六	二二	一九	一一	二二	三三	三七	三七	三三	四・〇七
十一月	三三	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	四・〇七
十二月	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四三	四・〇七
計	四四二	四七二	五六二	六九四	七九	五七〇	七二九	七八	八〇二	六三六	六三	一〇〇・〇〇

四 「チフテリア」患者性別年齢別

性別ニ於テハ、最近十ヶ年間平均ニ於テ男五二・八五%、女四七・一五%ノ割合ニシテ、男子ハ女子ニ比シ五・七%多シ。  
年齢別ニ於テハ、一—五歳ノモノ總數ノ五九・八七%、六一—一〇歳ノモノ二九・三六%ニテ大部分ヲ占メ、所謂低年齢罹患ノ現象ヲ示シ居リ、十歳以下ノ小兒、乳幼兒等ノミニテ總數ノ八九%餘ヲ占メ、十一歳—十五歳ノモノ六・二〇%ニシテ、十六歳以

上ハ僅カニ五%弱ニ過ギズ。而シテ約六〇%ヲ占ムル五歳以下ノ低年患者中三歳ノモノ最モ多シ。(次表参照)

最近十ヶ年間「チフテリア」患者年齢別並性別表

年齢別	年別										平均	
	昭和二年同	三年同	四年同	五年同	六年同	七年同	八年同	九年同	十年同	十一年		
一歳	二	六	七	一〇	八	一三	四	二	九	九	九	一・四七
二歳	五	六	七〇	八	五	七	七	七	八〇	七	七〇	一・四二
三歳	二	九	一〇八	一七	九	九	一六	一七	一八	一〇七	一一	一・四二
四歳	六	九	九三	九	七	七〇	二七	一六	二九	九	九	一・六六
五歳	六	六	九八	九	六	六	九	八	八	九	八〇	一・〇五
六歳	三	三	三六	四	二	三	四	三	三	三	三	一・八七
七歳	九	二	二九	二〇	一	一	二	二	二	一	一	二・九六
八歳	七	一〇	二二	六	八	八	五	三	五	四	三	二・〇〇
九歳	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	六・二〇
一〇歳	二	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三	二・九六
一一歳	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二・九六
計	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四・五七

性別	年別										平均	
	昭和二年同	三年同	四年同	五年同	六年同	七年同	八年同	九年同	十年同	十一年		
男	二四一	二五〇	二五六	三六五	二七三	三三四	三九五	三八三	四一九	三五六	三三四	三・八五
女	一〇一	一一三	一三〇	一三九	一一三	一六六	三三四	三四五	三八三	二八三	二八九	四・七二
計	三四二	三六三	四九六	五〇四	三八六	五〇〇	七二九	七二八	八〇二	六三八	六三三	一〇〇・〇〇

備考 年齢ハ算ヘ年ニヨル

五 「チフテリア」患者發病——死亡期間

「チフテリア」患者ノ轉歸ニ關シ、全治セルモノニ就テハ種々ノ事情ニ因リ届出甚ダシク遅延スルモノアル爲、正確ナル統計ヲ得難キヲ以テ省略シ、死亡轉歸ノモノニ就キテ發病ヨリ死亡ニ至ル日數別ヲ最近十ヶ年間ノ狀況ニ就テ觀ルニ、發病十日以内ニ死亡セルモノ大部分ニテ總數ノ八六%餘ヲ占ム。内發病五日以内ニ死亡セルモノ最モ多ク總數ノ五九%餘、六一〇日中ニ死亡セルモノ二七%餘ナリ。次デ一一一五日約八%、一六一二〇日約三%ニシテ少數、夫レ以上ノ期間ニ涉ルモノハ極メテ僅少ナリ。(次表参照)

最近十ヶ年間「チフテリア」患者自發病至死亡期間別調査表

期間別	年別										平均	
	昭和二年同	三年同	四年同	五年同	六年同	七年同	八年同	九年同	十年同	十一年		
人員	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
%	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

計	三 一 日 以 上	三 〇 日 同	二 五 日 同	二 〇 日 同	一 五 日 同	一 〇 日 以 内	五 日	四 日	三 日	二 日	一 日
六	一	一	一	五	九	一六	四				
六	一	一	一	四	五	三	三				
八	一	一	一	三	六	二	三				
二	一	一	一	二	七	七	七				
七	一	一	一	一	七	二	五				
一	二	一	一	四	六	七	三				
二	一	一	二	六	三	七	七				
一	一	一	三	九	三	三	二	三	八	四	四
二	一	一	一	二	三	八	三	三	七	八	二
九	一	一	一	一	八	二	三	七	一	八	二
一〇	一	一	一	三	八	二	五				
一〇〇	一	一	一	三	八	二	六				
一〇〇〇	一	一	一	三	八	二	五				

第四 赤痢(疫痢ヲ含ム)「バラチフス」、猩紅熱、  
流行性腦脊髄膜炎、發疹「チフス」、痘瘡

一 赤痢(疫痢ヲ含ム)

發生概況 最近十ヶ年間ニ於ケル發生狀況ヲ觀ルニ、年々起伏アリテ消長常ナラザル状態ナルモ、平均一ヶ年間患者一三三名(内死者三七名)ニシテ、法定傳染病患者總數ノ約六%ニ當リ、内疫痢三三名(死者二四名)ニシテ全數ノ四分ノ一ヲ占メ居リ、昭和九年ニハ總數二一八名(内疫痢四七名)ヲ算シ十ヶ年間ニ於ケル最高記録ヲ示セルガ、翌十年ニハ一五七名(内疫

痢五二名)ニシテ疫痢ハ却テ増加セルモ總數ニ於テハ六一名(約三〇%)ノ減少ヲ示シ、更ニ翌十一年ニハ九〇名(内疫痢二八名)トナリ漸次減少ノ傾向ヲ辿リツ、アリ。(第一ノ二ノ(イ)参照)

郡市別ノ患者發生數ハ十ヶ年間平均ニ於テ仙臺市六二名、伊具郡一八名、刈田郡一五名、登米郡一二名ヲ多トシ他ハ僅少ナリ。(次表(イ)参照)

季節的ニハ六月頃ヨリ十月頃ニ至ル夏秋季ニ多ク五ヶ月間ニテ總數ノ八三%餘ヲ占メ、就中八月ヲ最高トシ總數ノ約三三%ノ發生ヲ示シ、次デ七月一八%餘、九月約一七%等ヲ多發ノ部トス。(次表(ロ)参照)

死亡率ハ總數ニ於テハ患者百ニ付二八・〇〇ナレド、内疫痢ハ七二・八七%ノ高率ニシテ、疫痢ヲ除ク赤痢ノミニテハ一三・〇〇%ナリ。之等ヲ全國平均ノ總數三八・六四%、疫痢五八・五九%、赤痢一七・七九%ニ比較スルトキハ疫痢ニ於テハ相當ノ高率ニシテ、赤痢ハ反對ニ低率ナルガ總數的ニハ約一〇%ノ低率ナリ。(第一ノ二ノ(イ)参照)

二 「バラチフス」

發生概況 最近十ヶ年間ニ於ケル平均患者數ハ一ヶ年六七名(内死亡二名)ニシテ、法定傳染病患者總數ノ約三%ニ當リ、昭和九年一四〇名ノ多發ヲ見タル外ハ年々大差ナキ發生狀況ナリ。(第一ノ二ノ(イ)参照)

郡市別ニ於テハ、仙臺市三〇名、刈田郡七名、登米郡六名等ヲ主要ナルモノトシ、爾他ハ僅少ナリ。(次表(イ)参照)

季節的ニハ六月―十月ノ夏秋季ニ多ク、五ヶ月間ニテ總數ノ八三%餘ヲ占メ、就中八月ノ發生(二一%餘)最モ多シ。(次表(ロ)参照)

死亡率ハ患者百ニ付二・六九ナリ。(第一ノ二ノ(イ)参照)

三 猩紅熱

發生概況 昭和八年以前八年々八〇名臺以下ニ止リ居リタル發生ガ、昭和九年以降稍急激ナル増加ヲ示シ、昭和九年一五九



名、十年一四六名、十一年一八九名ト増加シタルガ、最近十ヶ年間ニ於ケル平均一ヶ年患者八九八名（内死者五名）ニシテ法定傳染病患者總數ノ四％餘ニ當ル。（第一ノ二ノ（イ）参照）  
 郡市別ニ於テハ仙臺市ノ六八名ガ總數ノ六九％餘ニテ大部分ヲ占メ、爾他ハ僅少散發的ナリ。（次表（イ）参照）  
 季節的ニハ殆ド年中平均的ニ發生セルモ、比較的十一月十二月ノ頃ニ稍多シ。（次表（ロ）参照）  
 死亡率ハ患者百ニ付四・八ニナリ。（第一ノ二ノ（イ）参照）

四 流行性腦脊髄膜炎

流行性腦脊髄膜炎ハ最近十ヶの間ニ於テハ毎年一〇名内外ノ發生ニシテ、平均一ヶ年七名ノ患者（内死者三名）ニシテ概ネ散發的ナリ。季節的發生狀況其ノ他ニ就テハ患者少數ノ爲メ觀察的意義ヲ多ク認メズ。死亡率ハ患者百ニ付四九・二八ニシテ高率ナリ。（詳細第一ノ二ノ（イ）及次表（イ）（ロ）参照）

五 發疹「チフス」及痘瘡

發疹「チフス」ハ最近十ヶ年間ニ於テ、昭和二年二名、三年五名、四年八名、計一五名（内死亡一名）ノ發生ヲ見タルノミ痘瘡ハ昭和二年二名ノ患者（死者ナシ）アリシノミニテ共ニ爾後其ノ跡ヲ絶チタリ（詳細第一ノ二ノ（イ）及次表（イ）（ロ）参照）

（イ）最近十ヶ年間 赤痢、「バラチフス」、猩紅熱、流行性腦脊髄膜炎、發疹「チフス」、痘瘡患者郡市別表

郡市別	病類別	年別											
		昭和二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年	平均	
赤痢	赤痢	二	一	一	二	一	三	二	三	一	三	二	〇・五
バラチフス	バラチフス	六	六	六	四	五	四	六	一〇一	七	四	五	六
猩紅熱	猩紅熱	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
流行性腦脊髄膜炎	流行性腦脊髄膜炎	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
發疹「チフス」	發疹「チフス」	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
痘瘡	痘瘡	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
合計	合計	八	一	一	六	一	七	八	一〇二	七	四	五	六

郡市別	病類別	年別											
		昭和二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年	平均	
赤痢	赤痢	二	一	一	二	一	三	二	三	一	三	二	〇・五
バラチフス	バラチフス	六	六	六	四	五	四	六	一〇一	七	四	五	六
猩紅熱	猩紅熱	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
流行性腦脊髄膜炎	流行性腦脊髄膜炎	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
發疹「チフス」	發疹「チフス」	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
痘瘡	痘瘡	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
合計	合計	八	一	一	六	一	七	八	一〇二	七	四	五	六

黒川郡					宮城郡					名取郡					
痘	發	流	猩	赤	痘	發	流	猩	赤	痘	發	流	猩	赤	
疹	チ	ス	フ	病	疹	チ	ス	フ	病	疹	チ	ス	フ	病	
		一		一			二		三	一〇			三	三	
			五		三		一	三	五	二		一		二	四
			一		一			一	二	三				一	七
					七			一	一	一			一	一	三
					四					一	四				
										一	三				一
			一		四			一	一	二	四				六
			二							一	二	四			二
			一		一			一	五	一	九				三
					二			一	五	一	二				一
		〇・一					〇・一								三

亙理郡					伊具郡					柴田郡				
痘	發	流	猩	赤	痘	發	流	猩	赤	痘	發	流	猩	赤
疹	チ	ス	フ	病	疹	チ	ス	フ	病	疹	チ	ス	フ	病
				一					五	五				五
										三				
										二				
										一〇				
								二			一			
									一〇					
										二				
										八				
										三				二
								四			二	六		三
			三					二	一	三				三
								三			二	二		
								三			二	二		
		〇・一									二	二		

登米郡					栗原郡					遠田郡							
痘	發	流	狸	赤	痘	發	流	狸	赤	痘	發	流	狸	赤			
	疹		チ	病		疹		チ	病		疹		チ	病			
	フ	ス	フ	ス		フ	ス	フ	ス		フ	ス	フ	ス			
		一	五	六	六		二		三	二				二			
			一	一	七				二	五				三	一	二	
		一	三	九	一	六			一	二	三	四			一	二	
		一	三	四	九				一	一	九				一	三	
			二	四	二				一	八	五				三		
			一		九				一	一	二				一	一	
		二	四		七			一			一				二	三	
			七	二	二				五	三	八			一	三	一	
			三	五	七			一	一	六				四	一	一	
			一	六	三					三				一	五	六	一
		一	三	六	一			0.1	0.1	1	四	四			0.1	1	1

玉造郡					志田郡					加美郡							
痘	發	流	狸	赤	痘	發	流	狸	赤	痘	發	流	狸	赤			
	疹		チ	病		疹		チ	病		疹		チ	病			
	フ	ス	フ	ス		フ	ス	フ	ス		フ	ス	フ	ス			
									二					一			
			一		一				一	二				二			
					一				二		二			六		六	
					一				一	三		二				一	
			一						二	二							一
										二	五						
										一	一						一
			一						二	二				一	五		一
		一	二	一					三	二	四			三	四		
			一	二	一				一	三				三	五		
		0.1	1	0.1	1			0.1	1	1	1			0.1	1	1	1

月別	年別	病類別				
		赤痢	バラチフス	猩紅熱	流行性チフス	痘瘡
昭和二年同					二	
三年同						
四年同						
五年同						
六年同						
七年同						
八年同						
九年同						
十年同						
十一年						
平均	人員					
均	總數對%					

(ロ) 最近十ヶ年間 赤痢、「バラチフス」、猩紅熱、流行性患者發生月別表

備考

- 1、病名中「流腦」ハ「流行性腦脊髄膜炎」ノ略稱トス
- 2、平均人員ハ四捨五入法ニヨル、但シ一人未滿ハ小數ヲ以テ表ハセリ
- 3、赤痢ニハ疫病ヲ含ム
- 4、石巻市ハ昭和八年ヨリ市制施行、以前ハ牡鹿郡ニ含ム

計					
赤痢	バラチフス	猩紅熱	流行性チフス	痘瘡	計
101	6	6	2	2	117
151	6	7	5	1	170
177	6	8	7	1	199
113	3	8	7	1	132
141	3	8	3	1	156
101	3	3	3	1	112
113	2	8	3	1	127
218	5	15	9	1	248
177	10	16	7	1	211
90	3	18	6	1	118
135	7	9	7	1	169

本吉郡					牡鹿郡					桃生郡				
赤痢	バラチフス	猩紅熱	流行性チフス	痘瘡	赤痢	バラチフス	猩紅熱	流行性チフス	痘瘡	赤痢	バラチフス	猩紅熱	流行性チフス	痘瘡
平均	人員				平均	人員				平均	人員			
均	總數對%				均	總數對%				均	總數對%			

七月					六月					五月							
痘瘡	發疹チフス	流膿	猩紅熱	赤痢 バラチフス	痘瘡	發疹チフス	流膿	猩紅熱	赤痢 バラチフス	痘瘡	發疹チフス	流膿	猩紅熱	赤痢 バラチフス			
		一	五	八	三			二	三	八	八			一	八	二	九
			七	五	三		一		五	二	八		一		六	二	六
		一	一	一	三				四	四	十			一	三	一	三
		一	三	七	三			二	三	三	二			六		三	
				七	七			二	四	十	二			八	三	六	
		二	一	三	三					三	三			五	一	三	
		一	二	一	九				二	五	五			八		七	
			六	三	六				五	五	六			九	一	十	
				三	二				六	二	二			二	八		
			五	五	七				九	七	四			一	一	三	
				九	二		0.1			三	三			一	一	四	
				一〇〇	一八〇					二〇	二〇			一〇	一〇	二〇	
				二〇	三〇					二〇	二〇			一〇	一〇	二〇	

四月					三月					二月						
痘瘡	發疹チフス	流膿	猩紅熱	赤痢 バラチフス	痘瘡	發疹チフス	流膿	猩紅熱	赤痢 バラチフス	痘瘡	發疹チフス	流膿	猩紅熱	赤痢 バラチフス		
		一	九	一	三			一	二	二			二	三		二
		一	三		一			七		二			一	五	一	六
		二	九		三		五	一	三	四				五		四
		六	五	二	三			一〇	四	三			二	三	一	一
			中		五			三	一	二				四		一
				一	一				四	二				三		一
			二	二	二				三	二				二		一
			二	四	一			六	一	二				四		四
		三	八	一	三				一	二				三		一
		三	八	一	三				一	二				一		一
		一	一〇	六	六			二	一	一			一	二		四
		一	一〇	一	六				五	八				二		三
0.1				一	一		0.1			一				一		三
				三〇	三〇					二〇	二〇			一〇	一〇	二〇
				一〇	一〇					一〇	一〇			一〇	一〇	二〇

十月					九月					八月				
痘	發疹チフス	流	猩紅熱	赤痢	痘	發疹チフス	流	猩紅熱	赤痢	痘	發疹チフス	流	猩紅熱	赤痢
1	1	4	3	4	1	1	1	1	3	1	1	1	1	3
1	1	1	1	2	3	1	1	1	2	1	1	1	1	4
2	1	5	2	8	1	1	1	7	7	1	1	1	1	8
1	1	8	2	8	1	1	1	2	4	1	1	1	1	4
1	1	9	4	2	1	1	1	7	2	1	1	1	1	9
1	1	4	4	9	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2
1	1	3	6	10	1	1	1	6	7	1	1	1	1	3
1	1	2	9	8	1	1	1	3	8	1	1	1	1	6
1	1	2	3	6	1	1	1	5	10	1	1	1	1	6
1	1	1	2	4	1	1	1	2	3	1	1	1	1	9
0.1	0.2	1	10	10	0.1	0.1	0.1	8	10	0.1	0.1	0.1	1	3
			7.0	7.0				8.0	16.0				6.0	33.0

十一月					十二月					計				
痘	發疹チフス	流	猩紅熱	赤痢	痘	發疹チフス	流	猩紅熱	赤痢	痘	發疹チフス	流	猩紅熱	赤痢
1	1	1	2	2	1	1	2	3	3	2	2	3	4	10
1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
0.1	0.1	0.1	10	10	0.1	0.1	0.1	8	10	0.1	0.1	0.1	1	3
			7.0	7.0				8.0	16.0				6.0	33.0

第五 病原體保有者

一 保菌者發見狀況

最近十ヶ年間に於ケル病原體保有者ノ發見數ハ總數六〇九名ニシテ、一ヶ年平均約六一名ナリ。而シテ、病類別ニ觀ルニ、腸「チフス」最モ多ク五五四名（一ヶ年平均五五名強）總數ノ九一%ヲ占ム。次デ「バラチフス」四四名（一ヶ年平均四人強）ニシテ、其ノ他赤痢十一名ナルモ殆ド最近二、三年ノ發見ニ係リ僅少ナリ。

之ヲ健康、病後ノ別ニ就テ觀ルニ、腸「チフス」ハ病後七一%餘、健康二九%弱ノ割合ニシテ、病後保菌者ハ健康保菌者ノ約三倍ニ近キ多數ナリ。「バラチフス」モ大略腸「チフス」ト同ジク病後七〇%餘、健康三〇%弱ニシテ病後ハ健康ニ約二倍半ス。然ルニ赤痢ハ健康保菌者多ク九一%ヲ占メ、病後八九%ニ過ギズ。（次表（イ）参照）

右病後、健康ノ各保菌者ニ就キ檢索人員ニ對スル發見割合ヲ觀ルニ、病後保菌者ニ於テハ全治轉歸者百ニ付腸「チフス」三・四三人「バラチフス」四・七六人、赤痢〇・二九人ノ割合ニ保菌者ヲ發見シ、健康保菌者ニ於テハ檢索人員百ニ付腸「チフス」及「バラチフス」併セテ〇・一〇人（内腸「チフス」保菌者ノ發見九二%餘ヲ占ム）赤痢一・二〇人ニシテ、腸「チフス」及「バラチフス」ニ於テハ健康保菌者ノ發見率ハ病後保菌者發見率ノ約四十分ノ一ノ低率ナルモ、赤痢保菌者ニ於テハ反對ニ約四倍ノ高率ナリ。（次表（ロ）参照）

更ニ、發見保菌者ノ菌檢出材料別ヲ觀ルニ、腸「チフス」ニ於テハ尿ヨリ排菌ノモノ八五%餘ヲ占メ、次デ尿ヨリ排菌ノモノ一三%、猶尿尿双方ヨリ排菌ノモノ約二%アリ。「バラチフス」ニ在リテハ尿ヨリ排菌ノモノ九一%ノ大部分ヲ占メ、殘九%ハ尿ヨリ排菌ノ狀況ニアリ、尿尿双方ヨリ排菌ノモノハナシ。赤痢ハ全部尿ヨリ排菌スルハ言ヲ俟タザル所ナリ。（次表（ハ）参照）

病原體保有者發見數ヲ郡市別ニ觀ルニ、昭和八年以前十ヶ年間に於テハ仙臺市、本吉郡ノ二者ヲ顯著ナルモノトシ、次デ栗原、宮城、牡鹿、柴田、伊具、名取、遠田ノ諸郡ヲ多キ方トシ、昭和九年ヨリ十一年ニ至ル最近三ヶ年間に於テハ仙臺市ノ腸「チフス」六八名、「バラチフス」五名、赤痢六名（何レモ三ヶ年間計、以下同ジ）ノ發見ヲ筆頭ニ宮城郡ノ腸「チフス」三名、志田郡ノ腸「チフス」二四名、「バラチフス」二名、遠田郡ノ腸「チフス」一六名、「バラチフス」一名、名取郡ノ腸「チフス」一五名、「バラチフス」一名ガ比較的多數ノ部ヲ占ム。（次表（ニ）（ホ）参照）

（イ）最近十ヶ年間病原體保有者發見數表

年別	腸チフス保菌者			バラチフス保菌者			赤痢保菌者			合計
	病後	健康	計	病後	健康	計	病後	健康	計	
昭和二年	一九	六	二五	二	一	三	一	一	二	二七
同三年	二八	一三	四一	二	一	三	一	一	二	四三
同四年	三三	一七	五〇	二	一	三	一	一	二	五二
同五年	三三	九	四二	二	一	三	一	一	二	四四
同六年	四四	二	四六	一	一	二	一	一	二	四八
同七年	三〇	一四	四四	一	一	二	一	一	二	四六
同八年	四一	一六	五七	一	一	二	一	一	二	五九
同九年	六六	二七	九三	一	一	二	一	一	二	九六
同十年	五六	二五	八一	一	一	二	一	一	二	八三
同十一年	四三	一〇	五三	一	一	二	一	一	二	五五

計	病健別 %	病		健	
		後	健康	後	健康
三九五	七三・三〇	一五九	一八六	一〇	二〇九
一五九	一六・七〇	五五	一〇四	一	一〇六
五五	一〇〇・〇〇	三	五二	一〇	五九
三	七〇・五五	一五	八四	一	一〇
一五	一七・三三	一	一四	一〇	一〇
三	九〇・〇〇	一	二	一〇	一〇
一五	九〇・九一	一	一四	一〇	一〇
一〇	一〇〇・〇〇	一	九	一〇	一〇
一	一〇〇・〇〇	一	〇	一〇	一〇
六〇九					

(ロ) 最近十ヶ年間病原體保有者發見割合表

保菌種別	病健別	病		健	
		後	健康	後	健康
腸チフス	全治轉歸者數	一、五三四	三九五	一八〇、三五六	一、五九
バラチフス	發見數	六二	三	一八〇、三五六	一三
赤痢	發見數	三三〇	一	〇・二九	一〇
	%	〇・二九	〇・〇一	一八〇、三五六	一三
	健康保菌者發見數	三、四三三	四七六	一、五九	一七二
	%	〇・一〇	〇・一三	一八〇、三五六	一七二

備考 腸「チフス」及「バラチフス」ハ昭和二年ヨリ同十一年ニ至ル十ヶ年間ノ合計、赤痢ハ昭和九年ヨリ同十一年ニ至ル三ヶ年間ノ合計トス

(ハ) 最近十ヶ年間病原體保有者發見検査材料別表

年別	検査材料別	腸チフス菌		バラチフス菌	
		尿	計	尿	計
昭和二年		二五	二五	二	二
同三年		四二	四二	二	二

検査材料別 %	同									
	計	十一年	十年	九年	八年	七年	六年	五年	四年	三年
八五・一〇	四七二	四三	五〇	六四	六七	四二	五三	三八	五二	
一三・〇〇	七	一五	一五	一九	一〇	三	四	五	一	
一・六〇	一〇	四	六							
一〇〇・〇〇	五五	六二	七一	八三	七七	四四	五六	四三	五三	
九〇・九一	四〇	五	三	四	五	二	四	二	八	
九〇・九	四	一	三							
一〇〇・〇〇	四	六	三	七	五	二	四	一	八	

(ニ) 病原體保有者發見數郡市別表 其ノ一 腸「チフス」

郡市別	年別	昭和九年		昭和十年		昭和十一年		合計	昭和八年以前十ヶ年間合計	
		病後	健康	病後	健康	病後	健康		病後	健康
仙臺市		一	四	一	二	一	三	一	二	
石巻市		一	一	一	一	一	三	一	一	
刈田郡		一	一	一	一	一	三	一	一	
柴田郡		三	一	一	一	一	三	一	一	
合計		六	一〇	四	六	四	一六	三	五	
		一〇八	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	
		一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	
		一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	



郡市別	昭和九年		昭和十年		昭和十一年		合計
	病	健	病	健	病	健	
仙臺市	二	(六)	一	(一)	(二)	(六)	一〇
石巻市	一	(六)	一	(一)	(一)	(六)	二
刈田郡	一	(六)	一	(一)	(一)	(六)	二
柴田郡	一	(六)	一	(一)	(一)	(六)	二
伊具郡	一	(六)	一	(一)	(一)	(六)	二
亘理郡	一	(六)	一	(一)	(一)	(六)	二
名取郡	一	(六)	一	(一)	(一)	(六)	二
宮城郡	一	(六)	一	(一)	(一)	(六)	二
黒川郡	一	(六)	一	(一)	(一)	(六)	二
加美郡	一	(六)	一	(一)	(一)	(六)	二
志田郡	一	(六)	一	(一)	(一)	(六)	二
玉造郡	一	(六)	一	(一)	(一)	(六)	二
遠田郡	一	(六)	一	(一)	(一)	(六)	二
栗原郡	一	(六)	一	(一)	(一)	(六)	二
登米郡	一	(六)	一	(一)	(一)	(六)	二
桃生郡	一	(六)	一	(一)	(一)	(六)	二
牡鹿郡	一	(六)	一	(一)	(一)	(六)	二
本吉郡	一	(六)	一	(一)	(一)	(六)	二
計	一六	(一〇)	一六	(一〇)	一六	(一〇)	三六

郡市別	昭和九年		昭和十年		昭和十一年		合計
	病	健	病	健	病	健	
伊具郡	五	(三)	一	(一)	二	(三)	九
亘理郡	二	(三)	一	(一)	一	(三)	四
名取郡	八	(三)	三	(一)	六	(三)	一五
宮城郡	一	(三)	一	(一)	一	(三)	三
黒川郡	四	(三)	一	(一)	一	(三)	六
加美郡	二	(三)	一	(一)	一	(三)	四
志田郡	三	(三)	一	(一)	一	(三)	五
玉造郡	一	(三)	一	(一)	一	(三)	三
遠田郡	一	(三)	一	(一)	一	(三)	三
栗原郡	一	(三)	一	(一)	一	(三)	三
登米郡	一	(三)	一	(一)	一	(三)	三
桃生郡	一	(三)	一	(一)	一	(三)	三
牡鹿郡	一	(三)	一	(一)	一	(三)	三
本吉郡	一	(三)	一	(一)	一	(三)	三
計	三六	(一〇)	三六	(一〇)	三六	(一〇)	七二

(ホ) 病原體保有者發見數郡市別表 其ノ二「パラチフス」及赤痢

昭和八年以前十ヶ年間合計

備考 (一)内ハ赤痢、其ノ他ハ「バラチフス」保菌者トス

二 現在保菌者ニ關スル調

昭和十一年末現在ニ於ケル病原體保有者數ハ腸「チフス」七七名、「バラチフス」二二名、赤痢一名ニシテ合計九〇名ナリ。之ガ分布狀況ハ赤痢一名ハ仙臺市、「バラチフス」一二名ハ各市郡散在的ニシテ仙臺市ニ於テ最高三名ニ過ギズ。腸「チフス」ハ仙臺市三〇名ニシテ總數ノ約三九%ヲ占メ、次デ宮城郡一二名、名取郡八名等ヲ多キ方トシ、爾他ハ概ネ四名以下ノ少數ナリ

(次表(イ)参照)  
之ヲ保菌年數別ニ觀レバ、二ヶ年未滿ノモノ最モ多ク總數ノ約四八%ヲ占メ、次デ一ヶ年以上二ヶ年迄ノモノ一四%餘、二ヶ年以上三ヶ年迄ノモノ一二%餘ニシテ、此ノ三者ニテ約七四%ノ大部分ヲ占メ、夫レ以上ノ長期保菌者ハ少數ナレドモ最長八年餘ニ及ブモノモアリ。(次表(ロ)参照)

(イ) 原體保有者現在表 (昭和十一年末現在)

郡市別	腸チフス保菌者		バラチフス保菌者		赤痢保菌者		合計
	病後健康	計	病後健康	計	病後健康	計	
仙臺市	八	三〇	二	三	一	二	四
石巻市	一	一	一	一	一	一	三
刈田郡	一	一	一	一	一	一	三
柴田郡	三	三	一	一	一	一	五
伊具郡	二	二	一	一	一	一	五

(ロ) 昭和十一年末現在病原體保有者排菌期間別表

保菌年數別	腸チフス保菌者		バラチフス保菌者		赤痢保菌者	
	病後健康	計	病後健康	計	病後健康	計
一年以内	二六	三七	四	五	一	一
一年以上	二	二七	一	八	一	一〇
計	二八	六四	五	四五	二	一一

健康後別%	九		八		七		六		五		四		三		二	
	年	同	年	同	年	同	年	同	年	同	年	同	年	同	年	同
計	五	一	一	一	四	二	三	八	七	三	三	三	三	三	三	三
六・五	三	一	二	二	一	一	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三・七	二	一	二	二	一	一	一	三	三	三	三	三	三	三	三	三
100・00	七	二	二	三	五	三	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六三(一・八二%)	63	2	2	3	4	3	4	10	8							
一二(三・五八%)	12				1			1	2							
二(一・一七%)	2															
六・七(一九・七三%)	八		一					二	一							
三・三(一・一七%)	四															
100・00	三		一					二	一							
100・00																
100・00																
100・00																

第二節 防疫施設  
第一概 說

本縣近年ニ於ケル法定傳染病中發生多數ニシテ重要性ヲ有スルモノハ、腸「チフス」及「ヂフテリア」ノ二種ナルコトハ第一節ニ説述シタル所ナルモ、就中腸「チフス」ハ最モ猛威ヲ振ヒ、殆ド本縣ノ代表的傳染病タルノ觀アリ。從ツテ防疫施設ニ於テモ其ノ眼目ハ腸「チフス」ノ豫防對策ニ集中シ來リタル狀況ニシテ、以下述ブル所ノ各種豫防施設ヲ講ジツ、來レリ。是

ハ一面他ノ消化器系傳染病ノ豫防トモ共通ナル關聯ヲ有スルコト言フ俟タザル所ナリ。  
「ヂフテリア」ノ豫防ニ就テハ昭和五年以來豫防注射ニ據ル積極方法ヲ施行シツ、來リシガ、近年ノ増加傾向ニ鑑ミ更ニ普及徹底ヲ期スルノ要ヲ認ムルモノナリ。

第二 腸「チフス」豫防市町村ノ指定

腸「チフス」ノ豫防ニ關シ、多發傾向ヲ有スル市町村ニ就テハ特ニ徹底セル豫防施設ヲ講ズルノ必要ヲ認メ、昭和二年十二月縣訓令甲第四十六號ヲ以テ豫防市町村指定ノ方法ヲ定メ、前年ノ多發市町村ヲ腸「チフス」豫防市町村トシテ年々告示ヲ以テ指定シ、特殊施設ヲ講ゼシメツ、來リタル處、昭和十年十一月縣令第五十四號傳染病豫防法施行細則ノ一部改正ト共ニ縣訓令甲第三十七號傳染病豫防法施行手續ノ全部改正ニ際シ、豫防市町村指定ノ制度ハ豫防法施行手續中ニ編入シ、左ノ事項ヲ實施スルコトニ改メタリ。

腸「チフス」豫防指定市町村實施事項 (傳染病豫防法施行手續第十五條)

- 一、豫防注射又ハ豫防劑ノ服用
  - 二、檢病の戸口調査
  - 三、飲料水ノ持續的消毒
  - 四、蠅族ノ驅除
  - 五、前年以降發生患家族其ノ他ニ對スル消毒的清潔方法ノ施行並ニ保菌者ノ檢索
  - 六、井戸其ノ他防疫施設ノ改善
- 而シテ、其ノ指定市町村數八年ニヨリ若干ノ多寡アルモ、總市町村二市二〇〇ヶ町村中最少三〇、最多八二市町村ヲ指定セリ。(次表參照)

腸「チフス」豫防指定市町村數調

郡市別	町村總數	腸「チフス」豫防指定市町村數																			
		昭和三年同	四年同	五年同	六年同	七年同	八年同	九年同	十年同	十一年同	十二年										
仙臺市	1																				
石巻市	1																				
刈田郡	2																				
柴田郡	8																				
伊具郡	2																				
瓦理郡	6																				
名取郡	3																				
宮城郡	3																				
黒川郡	10																				
加美郡	7																				
志田郡	9																				
玉造郡	8																				
遠田郡	2																				
栗原郡	2																				
登米郡	6																				

桃生郡 <th>鹿野郡 <th>吉野郡 <th>本社計 </th></th></th>	鹿野郡 <th>吉野郡 <th>本社計 </th></th>	吉野郡 <th>本社計 </th>	本社計
19	7	11	7
10	10	10	10
1	3	6	3
6	6	6	6
5	4	2	5
9	5	1	8
6	4	3	6
1	2	10	8
3	3	4	8
5	3	4	5
5	5	7	6

備考

- 1、町村總數ハ昭和十一年末現在ヲ掲ゲ
- 2、石巻市ハ昭和八年市制施行以前ハ牡鹿郡ニ所屬セルモ本表ニハ全部獨立セシメテ掲ゲタリ

第三 傳染病豫防委員設置指定並ニ衛生組合

傳染病豫防法第十五條ニ依ル市町村ノ傳染病豫防委員設置ニ就テハ、明治三十年縣訓令ヲ以テ傳染病豫防委員設置規程ノ制定アリシモ從來設置シタルニトナク、昭和八年ニ至リテ腸「チフス」ノ流行ニ鑑ミ始メテ設置ノ指定ヲ爲シ、爾來年々狀況ニ應ジテ設置又ハ廢止ノ措置ヲ講ジツ、來レルガ、昭和十二年一月現在ニ於テ設置指定市町村一市三十四ヶ町村ナルモ、其ノ内ニハ設置未済ノ町村モアリ、既設ノ市町村ニ於テモ一般ニ其ノ活動思ハシカラザルヲ遺憾トス。尙豫防委員ノ設置指定ニ就テモ昭和十年十一月縣訓令甲第三十七號ニ依ル傳染病豫防法施行手續ノ全部改正ニ際シ同令中ニ編入シ、委員ノ數ヲ三名以上ニ規定シアリ。

市町村ニ於ケル實際ノ狀況ヲ觀ルニ、之等豫防委員ヨリモ寧ロ衛生組合ノ活動ガ活潑ナルノ觀アリ。各市町村ニハ概ネ衛生組合存在シ、中ニハ活動振ハザルモノモアレドモ優良ナル成績ノモノモアリ。主トシテ消毒方法、清潔方法等ノ出動、豫防注射ノ督勵、檢病調査、衛生思想ノ普及、衛生關係各種集會ノ斡旋等ノ事項ニ就キ市町村並警察當局ノ補助機關トシテ活動ヲ爲シツ、アリ。